

元総社蒼海遺跡群(100)・(101)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

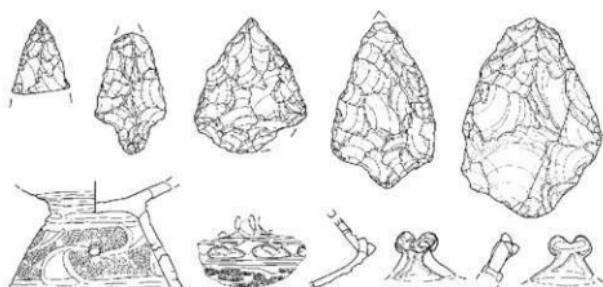
2016.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(100)・(101)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群(100) 縄文時代晩期の遺物

2016.3

前橋市教育委員会

はじめに

上越国境にそびえる谷川連峰をその源とし、赤城山系・榛名山系のはざまを抜けて南流する利根川が、関東平野へ向かって開けるところに、ふるさと前橋市は存在します。市域は豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内いたる所に、人々の息吹が感ぜられる歴史遺産が存在します。

稲作文化は利根川水系の多くの河川を遡上するようにここ前橋にも伝播し、その生産基盤の安定が、東国を中心としての「毛の国」を誕生させることとなり、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれました。律令時代に入ってからも上野国の中心地として、総社・元総社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など中枢をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは「前橋シルク」の名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回報告する元総社蒼海遺跡群（100）・（101）は、古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果は多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出・確認はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のまでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進めることができました。また、寒風吹きすさぶ中、発掘調査にあたった発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚く御礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成28年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（100）・（101）発掘調査報告書である。

2. 調査主体は、前橋市教育委員会である。

3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺　路　名　称	元総社蒼海遺跡群（100）・元総社蒼海遺跡群（101）
調　査　場　所	[100] 群馬県前橋市総社町総社 3589、3583、3587-1 [101] 群馬県前橋市元総社町 1387-1、1387-2
遺　跡　コ　ー　ド	[100] 26 A 196 (遺跡番号 0142) [101] 26 A 197 (遺跡番号 0142)
発　掘　調　査　期　間	[100] 平成 27 年 2 月 9 日～平成 27 年 3 月 23 日 [101] 平成 26 年 12 月 11 日～平成 27 年 2 月 9 日
整　理　・　報　告　書　作　成　期　間	平成 27 年 11 月 1 日～平成 28 年 3 月 25 日
発　掘　担　当　者	南田法正・竹中洋治（有限会社毛野考古学研究所） 【遺構測量】 小出琢磨・設楽和也（有限会社毛野考古学研究所）
整　理　担　当　者	福嶋正史（株式会社シン技術コンサル）

4. 本書の作成は、前橋市教育委員会の指導・監督の下、株式会社シン技術コンサルが行った。原稿執筆は I を藤坂和延（前橋市教育委員会）、他を発掘調査担当の南田が執筆し、福嶋が編集・校正をした。

人骨の分析鑑定および執筆は植崎修一郎氏（技研コンサル株式会社文化財研究所）に依頼した。

5. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】岡庭秋男・川島隆好・北野進二・小関泰洋・佐藤潤雄・鈴木 正・中島勝由・橋元裕児
森山孝男・山本良太・黙使川原幸枝・萩原秀子・森山恵子・井口ヒロ子・岡村美也子

【整理作業】磯 洋子・合田幸子・瀬尾則子・武士久美子・竹中美保子・永井祐二・日沖美奈子
深谷道子・真下弘美・山下奈邦子

6. 発掘調査で出土した遺物及び、図面・写真等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

7. 下記の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

伊藤俊一・賀川純一・津金澤吉茂・坂口 一・鈴木徳雄・谷藤保彦・山口逸弘・閑根慎二・柳崎修一郎
永井智教・中村岳彦・板垣 宏・有山怪世・土井道昭

学校法人花園学園 元総社幼稚園・前橋市元総社公民館・元総社町自治会・株式会社佐藤砂利興業
技研コンサル株式会社・スナガ環境測設株式会社・文化財整理こうけん

凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60 縮尺で表現することを基本として掲載した。各挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位記号は座標北を示し、座標値は日本測地系に基づいている。

2. 遺物実測図の縮尺は、1 / 1 ~ 1 / 4 缩尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。
遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。

3. 遺物実測図のトーンは次の意味を表す。須恵器（硬質） ■ 灰釉 □ 煤（石器） ▨

4. 遺構及び遺構内施設の略称は、次のとおりである。

H：住居跡 T：竪穴遺構 B：掘立柱建物跡 P：ピット BP：As-B 混入ピット JP：縄文時代のピット
D：土坑 I：井戸 W：溝跡 SF：道路状遺構 SZ：周溝墓 SX：不明遺構

5. 遺構覆土および土器類の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財團法人日本色彩研究所監修 2006）に掲った。

6. 本文中や挿表において、（ ）は残存値を、（ ）は推定値を、それぞれ示す。

7. 本書で使用する火山灰指標テフラの略称は以下のとおりである。 As-A：浅間A軽石（西暦 1783 年）

As-B：浅間B軽石（西暦 1108 年） Hr-FA：榛名山二ツ岳渓川テフラ（Hr-S・6 世紀初頭）

As-C：浅間C軽石（3 世紀後葉～末葉） Hr-FP：榛名山二ツ岳伊香保テフラ（Hr-I・6 世紀中葉）

8. 本書作成のために使用した参考・引用文献については、紙幅の都合で割愛した。ご寛恕願いたい。

目 次

はじめに
例 言
凡 例
目 次

I	調査に至る経緯	1
II	地理的・歴史的環境	2
1. 地理的環境	2	
2. 歴史的環境	3	
III	調査の方法と経過	5
1. 調査の方法	5	
2. 調査の経過	5	
元総社蒼海遺跡群 (100)		
IV	標準堆積土層	8
V	遺構と遺物	8
1. 遺跡の概要	8	

元総社蒼海遺跡群 (101)		
VI	標準堆積土層	36
VII	遺構と遺物	36
1. 遺跡の概要	36	
VIII	自然科学分析 (人骨鑑定)	62
IX	まとめ	66

写真図版 (100)・(101)

抄 錄
奥 付

挿 図 目 次

Fig. 1	調査区位置図	1
Fig. 2	遺跡位置図	2
Fig. 3	周辺の遺跡	3
Fig. 4	元総社蒼海遺跡群 (100) 遺構全体図①	6
Fig. 5	元総社蒼海遺跡群 (100) 遺構全体図②	7
Fig. 6	(100) 標準堆積土層	8
Fig. 7	(100) 遺構図 (1) H-1・2・3号住居跡	13
Fig. 8	(100) 遺構図 (2) H-6・7・9号住居跡	14
Fig. 9	(100) 遺構図 (3) B-1・2・3号掘立柱建物跡	15
Fig. 10	(100) 遺構図 (4) ピット全貌図	16
Fig. 11	(100) 遺構図 (5) ピット群 (西端) / D-1・2号土坑	17
Fig. 12	(100) 遺構図 (6) B-4～7号掘立柱建物 / SA-1・2号柱穴列	18
Fig. 13	(100) 遺構図 (7) D-3～19・23・31号土坑	19
Fig. 14	(100) 遺構図 (8) D-22・24～29・32～35号土坑 / W-1・6・7号溝	20
Fig. 15	(100) 遺構図 (9) W-2a・2b号溝	21
Fig. 16	(100) 遺構図 (10) W-2b・3・5・8号溝 / S F-1号道路状遺構	22
Fig. 17	(100) 遺構図 (11) W-4・10・11号溝 / (W-2b・3・5・8号溝 / S F-1号道路状遺構)	23
Fig. 18	(100) 遺構図 (12) W-9・13号溝 (S Z-1号溝底) ① / W-12号溝②	24
Fig. 19	(100) 遺構図 (13) W-9・13号溝 (S Z-1号溝底) ② /	25
Fig. 20	(100) 遺構図 (14) W-9・13号溝 (S Z-1号溝底) ③ / W-12号溝②	26
Fig. 21	(100) 遺構図 (1) H-2・6号住居跡 / H-7号住居跡③	27
Fig. 22	[100] 遺物図 (2) H-7号住居跡② / H-9号住居跡 / P-12/ D-16・17号土坑	28
Fig. 23	[100] 遺物図 (3) D-19・31号土坑 / B P-3・7・9/ W-2・3・4・6・9・11・13号溝 / 遺構外出土遺物①	29
Fig. 24	[100] 遺物図 (4) 遺構外出土遺物②	30
Fig. 25	[100] 遺物図 (5) 遺構外出土遺物③	31
Fig. 26	[101] 標準堆積土層	36
Fig. 27	元総社蒼海遺跡群 (101) 遺構全体図①	37
Fig. 28	元総社蒼海遺跡群 (101) 遺構全体図②	38
Fig. 29	(101) 遺構図 (1) H-1・3・10号住居跡	42
Fig. 30	(101) 遺構図 (2) H-4・6・7・9・15・17号住居跡①	43
Fig. 31	(101) 遺構図 (3) H-4・6・7・9・15・17号住居跡②	44
Fig. 32	(101) 遺構図 (4) H-4・6・7・9・15・17号住居跡③	45
Fig. 33	(101) 遺構図 (5) H-4・6・7・9・15・17号住居跡④ H-11・12・16号住居跡⑤	46
Fig. 34	(101) 遺構図 (6) H-11・12・16号住居跡⑥ H-13号住居跡 / T-1号竪穴状遺構	47
Fig. 35	(101) 遺構図 (7) B-1・2・3・4号掘立柱建物跡 / ピット群 (南部)	48
Fig. 36	(101) 遺構図 (8) B-5号掘立柱建物跡 / D-14・17・18・27・28・31号土坑	49
Fig. 37	(101) 遺構図 (9) SA-1号柱穴列 / D-7・8・33～36号土坑 / D-21号土坑	50
Fig. 38	(101) 遺構図 (10) D-2～5・9～13・22～25号土坑	51
Fig. 39	(101) 遺構図 (11) 編文時代・土坑・ピット	52
Fig. 40	(101) 遺構図 (12) I-1号井戸 / W-1～5号溝	53

Fig.41	[101] 遺物図 (1) H-1・3・6・10号住居跡	54
Fig.42	[101] 遺物図 (2) H-11・12・13・16号住居跡 / D-8・17号土坑 / D-21号土坑①	55

Fig.43	[101] 遺物図 (3) D-21号土坑② / D-22・26・31・34・37・40・41・50・52号土坑	56
Fig.44	[101] 遺物図 (4) BP-2/W-5号溝 / 道構外出土遺物	57
Fig.45	元総社沿海道跡群 (7) (9) (10) (100) 古代遺構全図	58

挿 表 目 次

Tab. 1	周辺遺跡一覧表	4
Tab. 2	[100] 道構一覧表 (1) 住居跡・掘立柱建物跡・柱穴列・土坑	10
Tab. 3	[100] 遺物一覧表 (2) 土坑・溝・周溝跡・道路状遺構	11
Tab. 4	[100] 道構一覧表 (3) As-B提ビット・ビット	12
Tab. 5	[100] 出土遺物觀察表 (1) 住居跡	32
Tab. 6	[100] 出土遺物觀察表 (2) 住居跡・土坑・溝	33
Tab. 7	[100] 出土遺物觀察表 (3) 溝・ビット・道構外出土遺物	34
Tab. 8	[100] 出土遺物觀察表 (4) 道構外出土遺物	35

Tab. 9	[101] 道構一覧表 (1) 住居跡・堀穴状遺構・掘立柱建物跡・柱穴列・土坑	40
Tab. 10	[101] 道構一覧表 (2) 土坑・溝	41
Tab. 11	[101] 出土遺物觀察表 (1) 住居跡	58
Tab. 12	[101] 出土遺物觀察表 (2) 住居跡・土坑	59
Tab. 13	[101] 出土遺物觀察表 (3) 土坑	60
Tab. 14	[101] 出土遺物觀察表 (4) ビット・溝・道構外出土遺物	61

写 真 図 版 目 次

P.L. 2 (100)	
H-7・9号住居跡 Hr-FA 残存範囲 全景 (西から)	
H-7号住居跡 遺物出土状況 (西南から)	
H-1号住居跡・W-10号溝 全景 (東から)	
H-6号住居跡 全景 (南西から)	
P.L. 3 (100)	
W-4号溝 B-1～3号掘立柱建物跡 全景 (西から)	
D-16号土坑 全景 (東から)	
D-31号土坑 全景 (北西から)	
W-2号溝・H-2号住居跡 全景 (北から)	
W-3号溝 全景 (北から)	
W-3号溝 上層断面 (南西から)	
P.L. 4 (100)	
S-F-1号道路状遺構 W-5・8号溝 全景 (北から)	
W-4・11号溝・西端遺構群 全景 (西から)	
W-9号溝 (S-Z-1周溝群) 全景 (南から)	
W-9号溝 (S-Z-1周溝群) 全景 (北東から)	
W-13号溝 (S-Z-1周溝群) I-I'上層断面 (南東から)	
W-13号溝 I-I'上層断面 望空堆積土 (南から)	
W-13号溝 遺物出土状況 (北東から)	
W-13号溝 遺物出土状況 (北から)	

P.L. 5 (100)	
出土遺物 (1) H-2・6・7・9号住居跡、P-12号ビット	
P.L. 6 (100)	
出土遺物 (2) BP-3・7・9・13号ビット、D-16・17・19・31号土坑、W-2～4・6・9・11・13号溝	

P.L. 7 (100)	
出土遺物 (3) 道構外出土遺物①	
P.L. 8 (101)	
出土遺物 (4) 道構外出土遺物②	

P.L. 8 (101)	
元総社沿海道跡群 (101) 空撮全景 (東から)	
H-1号住居跡 全景 (西から)	
H-6号住居跡 全景 (西から)	
H-6号住居跡 出入口張出部 (北東から)	
H-7号住居跡・H-17号住居跡カマド 全景 (西から)	
H-15号住居跡 全景 (西から)	
H-16号住居跡 全景 (南から)	
P.L. 9 (101)	
H-11・12号住居跡 全景 (西から)	
H-12号住居跡カマド 全景 (西から)	
H-13号住居跡 全景 (西から)	
T-1号堀穴状遺構 全景 (西から)	
B-5号掘立柱建物跡 全景 (北から)	
中世土坑群 (中央D-10上)・ビット群 全景 (南から)	
闇文遺構群 全景 (北から)	
D-40号土坑 全景・遺物出土状況 (南東から)	

P.L. 10 (101)	
D-21号土坑 全景・人骨検出状況 (南東から)	
D-21号土坑 頭蓋骨近景 (東から)	
D-21号土坑 全景 (人骨取上げ後)・遺物出土状況 (東から)	
D-21号土坑 脊椎品近景 (北東から)	
W-1号溝 中世遺構群 全景 (西から)	
W-2・3号溝 全景 (東から)	
基本崩廻A (東から)	
基本崩廻B (東から)	

P.L. 11 (101)	
出土遺物 (1) H-1・3・6・10号住居跡、H-11号住居跡①	
P.L. 12 (101)	
出土遺物 (2) H-11号住居跡②、H-12・13・16号住居跡 B-P-2号ビット、D-8・17・21号土坑	
P.L. 13 (101)	
出土遺物 (3) D-22・26・31・34・37・40・41・50・52号土坑	
P.L. 14 (101)	
出土遺物 (4) W-5号溝・道構外出土遺物	

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社菖蒲海地区画整理事業に伴い実施され、その15年目にあたる。本調査地は、周辺において埋蔵文化財発掘調査が長年に亘って実施されており、遺跡地であることが周知されている。

平成26年11月13日付けで前橋市長 山本 龍（区画整理第二課）より埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、市教委の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することとなり、同年12月10日付けで前橋市と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で業務委託契約が締結され、同年12月11日に発掘調査に関わる業務が開始された。

なお、遺跡名称「元総社菖蒲海遺跡群（100）」（遺跡コード：26A196）、「元総社菖蒲海遺跡群（101）」（遺跡コード：26A197）の「元総社菖蒲海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、「（100）・（101）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。



Fig. 1 調査区位置図（前橋市現形図 昭和43年1/2500を改変）

II 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

本遺跡は、前橋市の南西部に広がる前橋台地（前橋・高崎台地）上に立地し、榛名山東南麓の相馬ヶ原扇状地末端部にも該当する。井野川と広瀬川（旧利根川）に挟まれた広大な地域が前橋台地と呼ばれ、赤城火山と榛名火山の両山麓の間から流下した利根川が形成した扇状地性台地である。現利根川は15世紀代に変流し、台地中央部を貫流することとなった。

前橋台地の下部には利根川扇状地が形成した厚さ100mの前橋砂礫層が堆積しており、2.5万年前頃までに形成が終了したとされる。浅間板鼻褐色輕石群（As - BP Group, 2.4～1.9万年前）降下期間中の最終氷期最寒冷期に該当する2.1万年前頃には、黒斑山の崩壊に伴う浅間庵桑岩屑などに起因した前橋泥流が、15m前後の厚さで前橋砂礫層を覆う。前橋泥流の上部には前橋泥炭層が形成されており、泥流堆積による排水不良などが原因と言われている。1.6万年前頃には、榛名火山の山体崩壊による陣場岩屑などが発生し、榛名山南東麓に広大な相馬ヶ原扇状地を形成した。この岩屑などによって、利根川の流路が赤城山西南麓、現広瀬川の辺りに固定されたと考えられている。その後、約1.3～1.4万年前に浅間板鼻黄色輕石（As - YP）が降下し、1.1万年前頃には浅間総社輕石（As - SJ）が降灰する。同じ頃、高崎台地では井野川と烏川の間に井野川泥流が堆積している。

As - SJが混入する前橋上部泥炭層の上には、粘土・シルト・細砂の互層からなる総社砂層が、およそ2～5mの厚さで広範囲に堆積している。この総社砂層が本遺跡群の直接的基盤層（地山）となっている。相馬ヶ原扇状地からは、染谷川・牛池川・八幡川などが南東流し、総社砂層はこれらの中小河川によって供給された堆積物のようである。元総社蒼海遺跡群（100）では、総社砂層最上層は黄褐色細粒シルト層であった。総社砂層の上部には黒色土（黒ボク土）が堆積し、縄文時代の遺物包含層となっている遺跡もある。総社砂層の堆積終了時期、離水期の詳細は不明ながら、黒色土中の縄文時代の遺跡形成は前期後葉の諸磯期以降に始まる。

元総社蒼海遺跡群（100）は牛池川左岸の自然堤防上に立地し、元総社公民館（元総社蒼海遺跡群7・9・10）の南側隣接地である。元総社蒼海遺跡群（101）は牛池川と染谷川に挟まれた台地に立地し、蒼海域の最外郭付近に該当する。元総社町一帯は遺跡密集地として知られ、特に上記の台地に集中する。



Fig. 2 遺跡位置図（国土地理院発行『宇都宮・長野』20万分の1図を改変）

2. 歴史的環境

染谷川・牛池川・八幡川(鏡川)流域は遺跡密集地であり、縄文時代から中世まで連綿と集落や生産地が営まれている。特に白鳳期・律令期には寺院と国府が置かれ、上野国の中心地として機能している。

縄文時代は、元総社蒼海遺跡群(13)・(48)(以下、元総社蒼海(番号)と表記)などで前期後葉・諸磯式期の集落が調査されており、現時点ではこの頃から居住が開始されるようである。元総社明神遺跡Ⅷでは晚期終末～弥生初頭の土器が出土しており、元総社蒼海(7)(9)(10)においては晚期前半の住居跡が確認されている。隣接地にあたる今回の元総社蒼海(100)においても晚期の遺物が出土した。元総社蒼海(48)からも晚期の遺物が出土し、いずれも河川沿いの台地縁に立地することに注意しておきたい。古墳時代前期以降には低地の水田開発が始まり、元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡では坂を伴う用水路や、Hr-FA直下およびHr-FP泥流直下の水田跡、FA泥流・FP泥流の上面を鋤き込む畠跡が検出されている。今回調査した元総社蒼海(100)やその周辺では方形周溝墓が確認されており、牛池川左岸の台地上には前期・中期の大型集落が予想される。

7世紀代に入ると家形石棺を伴う愛宕山・宝塔山・蛇穴山の三方墳が造営され、山王庵寺が建立されるなど、総社地域の強大な権力中枢機能が明瞭になってくる。元総社蒼海(9)(10)の長大な掘立柱建物跡も注目される。

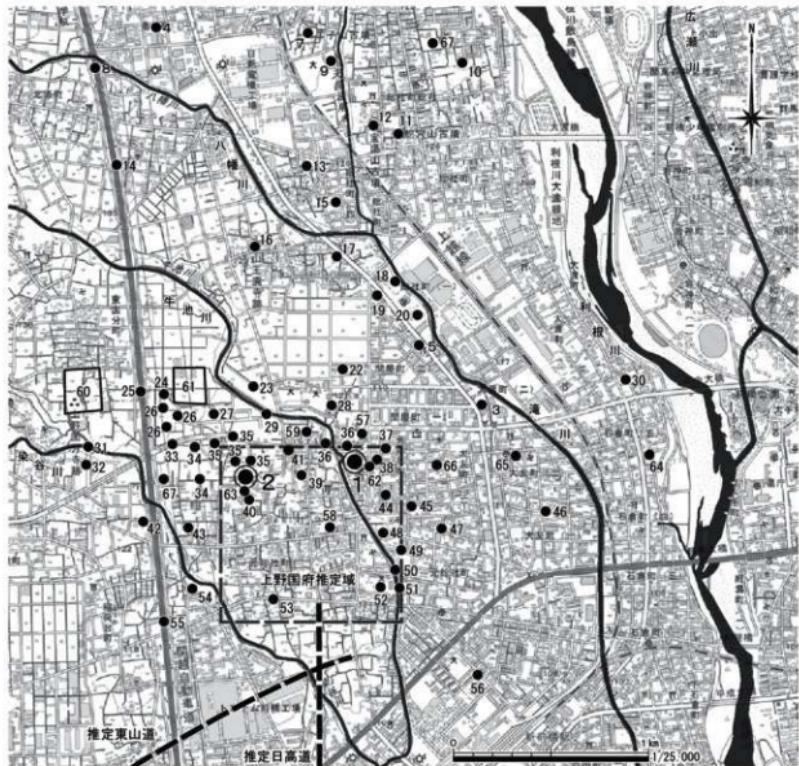


Fig. 3 周辺の遺跡 (国土地理院発行『前橋』25,000分の1図を改変)

律令期に入ると元総社地域に上野國府が置かれ、國府の北西に国分僧寺・國分尼寺が造営される。元総社蒼海(7)(9)(10)や閑泉橋遺跡などでは、國府北限の推定東西大溝が確認されている。國府推定城南方には、東山道(通称國府ルート)や日高道の存在が想定されている。今後も元総社地区の区画整理事業は続くため、それに伴う調査によって国庁や正倉の実態が明らかになる日も遠くないだろう。

中世には上野國守護代の長尾氏が、國府跡地に蒼海城を築いた。これまでの調査では、主郭をはじめ、巨大な空堀や建物跡などが調査されている。戦国期には石倉城・大友城・村上城などが林立し、本遺跡の南方には八日市場城がある。元総社蒼海(7)(9)(10)では、古代の大溝と並行する巨大な堀も発見されている。他方、溝や浅い堀などで囲郭された「屋敷」も多数分布しているようであり、大渡道場遺跡では戦国期の埋納鉄 572 枚が検出された。近世には秋元氏が総社城を築き、慶長 9(1604)年に天狗岩用用水を開削している。

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代					
		縦文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			縦文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
1	元総社蒼海遺跡群(100)	●	●	●	●	●	31	元総社西川遺跡			●	●		
2	元総社蒼海遺跡群(101)	●		●	●	●	32	上野国分寺参道遺跡		●	●	●		
3	大渡道場遺跡			●	●	●	33	元総社小見山遺跡	●		●	●		
4	楠木道路・II 遺跡			●		●	34	元総社小見山遺跡	●	●	●	●		
5	船荷山古墳			●			35	元総社草作V遺跡		●	●	●		
6	大小路山古墳			●			36	元総社小見内IV 遺跡		●	●	●		
7	總社二子山古墳			●			37	元総社小見内IV 遺跡		●	●	●		
8	北原遺跡	●		●	●		38	元総社小見内V 遺跡		●	●	●		
9	愛宕山古墳			●			39	元総社北山遺跡群(1)～23	●	●	●	●		
10	達見山古墳			●			40	草作遺跡	●	●	●	●		
11	蛇穴山古墳			●			41	元総社蒼海遺跡群(23)	●	●	●	●		
12	宝塔山古墳			●			42	塙田村東遺跡	●	●	●	●		
13	村東遺跡			●	●	●	43	元総社蒼海遺跡群(8)		●	●	●		
14	国分城遺跡			●	●	●	44	星敷遺跡・日置跡	●		●			
	国分城II 遺跡			●	●	●	45	堀越II 遺跡						
	国分城III 遺跡			●	●	●	46	大友宅地遺跡						
15	大屋敷遺跡 I ～ VI	●		●	●	●	47	堀越遺跡						
16	山王庵寺跡			●	●	●	48	大友屋敷II・田遺跡	●		●			
17	昌乗寺廻向遺跡・II 遺跡				●		49	元総社神道跡 I ～ 13		●	●	●		
18	豪業道路I 遺跡		●				50	元総社寺田遺跡 I ～ III		●	●	●		
19	産業道路II 遺跡		●				51	寺田遺跡						
20	船荷塚遺跡			●	●		52	元総社小学校校庭遺跡						
21	船荷山古墳			●	●		53	天神遺跡・日置跡						
	總社甲福荷塚大道西遺跡			●	●	●	54	弥勒遺跡・日置跡		●	●	●		
	總社甲福荷塚大道西Ⅲ 遺跡			●	●	●	55	鳥羽遺跡		●	●	●		
23	元総社閑泉明神北IV 遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内IV 遺跡		●	●	●	●	56	元総社福集遺跡		●				
24	元総社小見II 遺跡	●		●	●	●	57	元総社蒼海遺跡群(91)						
	元総社小見IV・V 遺跡			●	●	●	58	元総社蒼海遺跡群(95)		●	●	●		
	元総社小見VI・VII 遺跡			●	●	●	59	元総社蒼海遺跡群(99)		●	●	●		
	元総社蒼海遺跡群(4)			●	●	●	60	上野国分寺跡		●	●	●		
25	上野国分僧寺・尼寺中間地域			●	●	●	61	上野国分尼寺跡						
26	元総社蒼海遺跡群(13)			●	●	●	62	元総社蒼海遺跡群(75)						
27	元総社小見内VII 遺跡			●	●	●	63	元総社蒼海遺跡群(78)		●	●	●		
	元総社蒼海遺跡群(1) (5)				●	●	64	右倉城						
28	元総社甲福荷塚大道西Ⅳ 遺跡			●	●	●	65	大友城						
	總社閑泉明神北Ⅲ 遺跡	●		●	●	●	66	村山城						
	總社甲福荷塚大道西IV 遺跡			●	●	●	67	總社城						
29	元総社小見内Ⅵ 遺跡			●	●	●	68	元総社蒼海遺跡群(48)	●	●	●	●		
	元総社小見内VI 遺跡			●	●	●								
	元総社蒼海遺跡群(12)			●	●	●								
30	王山古墳			●	●	●								

* 本表の遺跡番号は本文およびFig. 3『遺跡分布図』の番号と一致している。

III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

工事の関係上、元総社苔海遺跡群（101）から調査を始めた（以下、遺跡名は（100）、（101）と表記）。

（101）については、当初はT字形の調査区であったが、現況の植え込みが移設できないことから、急速調査区を縮小することとなった。南側隣接地も元総社苔海遺跡群（75）は調査開始直前まで発掘調査しており、調査区境界には巨大な空堀が東西に開口していた。表土掘削終了後には水道工事業者による埋戻しが速やかに行われた。表土掘削は0.45mパックホーを用い、基本的にはAs-B混土直下を造構確認面とした。調査区北側は埋没谷が存在するため、造構覆土と包含層の区別が難しく、南側よりもやや深く掘り下げた。造構調査は移植ゴテなどを用いて人力で行った。北半分はグリッドによる包含層調査を実施した。中世・古代の調査が終了した後で、北側の縄文時代の包含層を人力掘削し、各遺構を調査した。調査終了直後、水道工事業者によって下水管と人坑の敷設工事およびそれに伴う一部埋戻しが行われた。工事終了後、パックホー・振動ローラー・ランマーを用いて、填圧埋戻し作業を完了させた。

（100）の調査を開始した時点では、東側隣接地の（78）は調査中であった。調査区が繋がってしまうため、接壤地帯では互いに協力して作業にあたった。表土掘削は0.45mパックホーを用いた。耕作土は仮置きし、地中が混ざる堆土はダンプで搬出した。調査終了後には全面を埋め戻した。

両遺跡とも測量基準となる公共座標は、周辺調査との整合性を保つために日本測地系および上野国分尼寺寺域確認調査ならびに元総社苔海遺跡群で採用されたグリッドを使用した（X：44000.0000 = Y 0, Y：-72200.0000 = X 0）。平面測量は自動追尾トータルステーションを用い、断面測量は手実測した。造構写真は35mm白黒・カラーリバーサルフィルムで撮影・記録し、デジタルカメラで補助した。調査終了後にはドローンによる空撮を実施した。

2. 調査の経過

発掘調査は平成26年12月11日から平成27年3月23日まで実施した。以下に概要を記す。

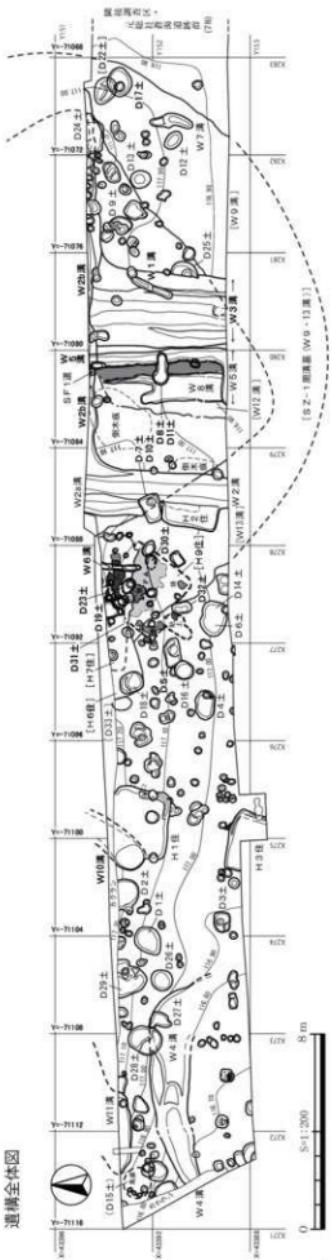
平成26年

- 12月11日：現地にて協議打ち合わせ。 17日：（101）プレハブ・仮設トイレ・器材搬入。調査区設定。
18日：重機による表土掘削開始（～22日）。 22日：作業員による造構確認精査作業、造構調査開始。
23日：（100）の重機表土掘削開始（～25日）。掘削完了後、全面をシート養生で保護。
26日：仕事納め。調査区全面の養生および安全対策を行う。（年末年始休暇中は見回り・巡回を実施）

平成27年

- 1月 5日：仕事始め。As-B混入覆土の中世造構群と古代の住居跡・土坑などの調査を継続。北側はAs-C・Hr-FA混土の包含層を人力掘削・精査。
14日：古代の土坑群を調査したところ、掘立柱建物跡と判明。造構調査・包含層調査・造構確認を継続。
16日：D-21号土坑より人骨検出。南側の中世造構群の調査が終了し、下部の住居群の調査を開始する。
2月 4日：ドローンによる空撮実施。 9日：（101）の調査終了。（100）に機材搬入。
10日：（100）造構確認精査作業開始。
12日：As-B混入覆土の中世造構群の調査開始。以降、溝・住居跡・掘立柱建物跡などの調査を実施する。
20日：W-9号溝（周溝墓）の調査を開始。以降、各造構の調査を進める。
3月 3日：（101）の填圧埋戻し作業開始（～4日）。 5日：方形周溝墓（W-13号溝）の調査を始める。
9日：ドローンによる空撮実施。 13日：（100）調査終了。
16日：重機による埋戻し開始（～18日）。 23日：仮設トイレを撤収し、現場作業工程終了。

遺構全体図



縦文～古墳時代遺構全体図

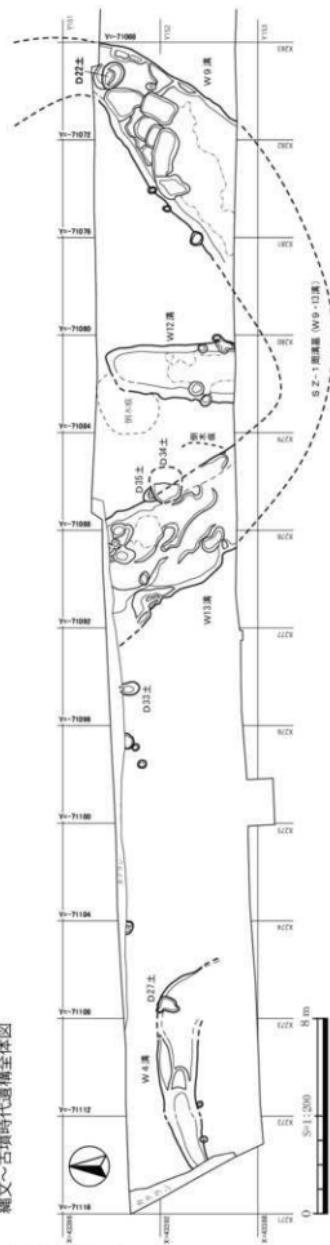
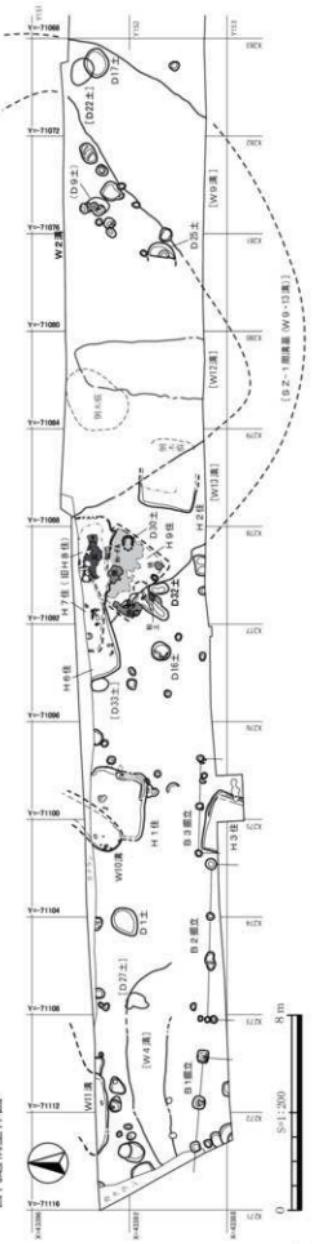


Fig. 4 元総社若海遺跡群 (100) 遺構全体図 ①

古代遺構全体図



中世遺構全体図

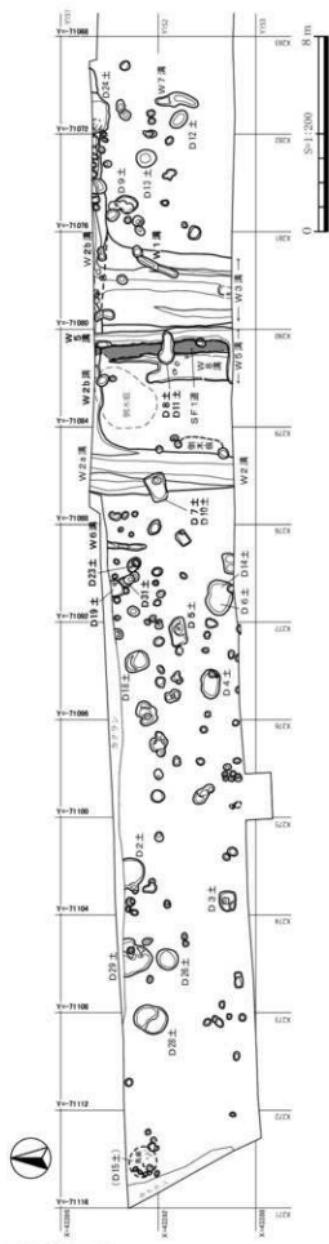


Fig. 5 元總社着海遺跡群(100) 遺構全体図 ②

元総社蒼海遺跡群（100）

IV 標準堆積土層

(100) 調査区の現況は畠地であり、西側ほど表土が薄く、表土・耕作土直下が地山の総社砂層であった。東側の南壁には部分的に本来の基本土層が残存していたものの、北壁では総社砂層まで削平されていた。

しかし、W-12号溝に切られる倒木痕には総社砂層漸移層と黒色土が残存し、W-9号溝壁際覆土には密度の高いAs-C堆積が検出され、W-13号溝覆土上面にはHr-FAの一次堆積層がわずかに残存していた。以上の所見と各時代の遺構覆土から本来の標準堆積土層を想定すると、I層：表土 II層：As-B混入褐色土層 III層：As-C-Hr-FA混入褐色土（豎穴住居覆土） IV層：Hr-FA V層：As-C混入黑色土 VI層：暗褐色～黒褐色土（縄文時代包含層） VII層：褐色漸移層 VIII層：総社砂層（黄褐色シルト層・褐灰シルト層・褐灰硬シルト層・褐灰粗粒シルト層…）となる。実際の調査区壁の土層断面ではIII・IV・V層は確認できない。

北側に隣接する元総社蒼海遺跡群（9）（10）の調査では、本調査区から約30m北側の地点において、表土～総社砂層までは約1mを測るため、大半はI・II層によって削平を受けているものと推測する。

VII層総社砂層については、最上位の黄褐色シルト層がわずかにローム質の印象を受ける場合がある。総社砂層上面での等高線は中央部が117.200mで最も高く、牛池川による自然堤防上の稜線が調査区中央付近を通過していることが分かる。

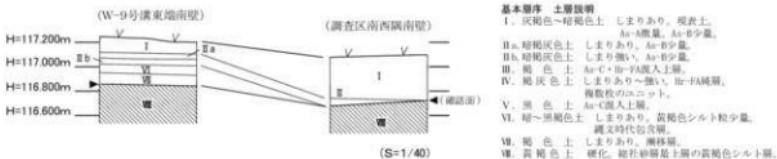


Fig. 6 [100] 標準堆積土層

V 遺構と遺物

1. 遺跡の概要

本遺跡は牛池川が大きく屈曲する左岸の自然堤防上に立地する。北側隣接地は元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）として報告されており、その成果をおおむね踏襲して補完するような内容ではあるが、新たな知見や発見も追加された。本遺跡（100）の主要な時期は、縄文時代晚期・古墳時代前期初頭・7世紀後半・10世紀後半・11世紀前半・中世となっている。以下、各時代ごとに概要を記述し、個別遺構については一覧表を参照されたい。

縄文時代

縄文時代では、中期後葉の土器が数点と、晩期の遺物がやや多く出土した。総遺物量は200点に満たない。晩期の土器・石器の大半はW-13号溝覆土に混入しており、同溝によって住居跡などが滅失したものと推測される。遺構外-2は大洞B2式の台付鉢で、円孔を中心基点とした4単位の入組三叉文が施文される。遺構外-3は大洞B式の範疇に入る深鉢であろう。遺構外-4は大洞C1式と思われる小型台付浅鉢の破片で、口縁部は透かし彫り状を呈する。遺構外-8は大洞A式に含まれる突起と推測するが、深鉢か浅鉢かは不明である。遺構外-5～7・9は安行3式併行の粗製深鉢であろう。わずか1点ながら大洞A式が認められたことは、晩期末～弥生時代初頭の「元総社明神遺跡V」への足掛かりが広がったとも言える。石器では、遺構外-11～16が石器の製品と未製品で、全て図示した。石器が卓越する、いわゆる晩期的な石器組成であると理解される。明確なスクレイパーは非常に少ないが、2次加工剥片（リタッチドフレイク）は図示以外にも数点ある。100点ほど

の石器類のなかから、剥片・スクレイパー（遺構外 22）と、石核（遺構外－23）の接合資料を得た。遺存状態不良で未掲載ながら、黒色頁岩の残核と思しき石器も 1 点ある。叩石は 3 点図示したが、石礫を主体とする剥片石器製作を行っていたものと推定される。石材は頁岩・安山岩が主体を占める。ただし、石礫と同一母岩の石核はなく、元総社（9）（10）も含めた再検討が必要であろう。

古墳時代

W-9・13 号溝を方形周溝墓（S Z-1）とした。方台部推定規模は一辺 16 m を測る。断面形はいずれも方台部側が急傾斜である。W-9 号溝では南側が硬化した平坦面なのに対し、北側は小土坑状の掘り込みによって凹凸が著しい。これらの覆土は地山を多量に含む褐色土であり、埋め戻されていた可能性がある。W-13 号溝では底面に被熱痕を 1 か所検出したが、成因は不明である。また、同溝覆土中の方台部側には地山ブロックを大量に含む土層があり、人為的に埋め戻されている。本来の深さは不明ながら、覆土上面で Hr-FA の一次堆積を検出したことから、この時点では窪地として残っていたものと想像される。両溝とも壁際の立ち上がり部分には純度の高い As-C がわずかに堆積しており、掘削時期は As-C 降下直後の可能性がある。なお W-9 号溝からは弥生後期の土器片 1 点が出土した。S Z-1 は元総社（7）にも延びるはずであったが、おそらくは倒木痕などにより遺構が判然としなかったものと思われる。W-4 号溝・W-12 号溝も S Z-1 同様、As-C を多量に含む黒色～黒褐色土で埋没している。削平や調査区の制約によって全体像は不明ながら、W-4 号溝は周溝墓であった可能性が高い。周辺一帯に墓域および前期集落が展開するものと予想され、元総社北川遺跡・牛池川遺跡などの水田耕作や用水路工事などを担った集団とは直接的関係がうかがわれる。

調査区中央の D-30 号土坑は Hr-FA で埋没した小土坑である。

7世紀以降

7世紀後半の遺物が伴う遺構には、H-2 号住居跡・H-6 号住居跡・W-11 号溝・P 12 がある。いずれも遺物量は極めて少ない。H-2 号住居跡は一辺 2 m 強の貼床を伴う小竪穴で、カマドの有無は不明である。図示した土師器甕は H-6 号住居跡出土遺物と接合した。ただし主軸方位が同時期の他遺構と異なっており、混入の可能性も排除できない。H-6 号住居跡は元総社（7）の H-2 号住居と同一竪穴であろう。完形の环が 1 点出土し、齒編石 4 点が南西壁付近にまとまる。元総社（7）の W-3 号溝の末端が、本遺跡の W-11 号溝と考えられる。P 12 は掘立柱建物に伴う柱穴であろうか。7世紀後半は、元総社（9）（10）の長大な B-1 号掘立柱建物や住居群の辺縁が本遺跡に該当する。

本遺跡は、推定国府北限区画溝〔元総社（7）（9）の W-1 溝〕の内側に該当することから、国府造営期にあたる 8 世紀代の明確な遺構・遺物は認められない。W-10 号溝は、元総社（7）の W-4 号溝の末端に該当し、数点の甕が出土した。H-1 号住居跡がこの溝を破壊している。ともに図示できる遺物はないが、H-1 号住居跡覆土中からは 9 世紀代の土師器甕（コの字甕）の小片が 1 点出土しており、この時期の可能性はある。竪穴は小規模で、東壁に性格不明な横穴が 2 基ある。焼土や灰も検出できず、竪穴廃絶時にはすでに埋没していたものと考えられる。H-3 号住居跡も小竪穴で、遺物は皆無であったが、主軸方位や規模・形状の相同性から、一応は同時期と推測しておく。竪穴覆土の一部は埋め戻されていた。

10 世紀後半の確実な遺構は H-7 号住居跡がある。当初、H-6・8 号住居跡（H-8 住は整理段階で欠番）との岐別ができる前に調査を進めてしまったため、竪穴は北壁上層断面から推定した。覆土上層にはほぼ全面に灰層が堆積しており、上屋などの焼失が想定される。竪穴南西のほぼ床面直上に遺物集中があり、完形の环や碗などが重なるようにして遺棄されている。墓坑のような出土状態であり、別遺構が重複していたか、そもそも住居以外の施設であった可能性を残しておく。H-9 号住居跡は竪穴がほぼ削平された焼失住居と想定した。地床が

直接焼けこんどおり、焼土の分布範囲から平面形を推測した。煙道が南西方向へ延びるカマドの掘り方を確認している。北壁際から円筒埴輪片が出土したが、厚底の須恵器片（未掲載）も出土しており、構築時期は10世紀代と推定する。D-1号土坑からは灰釉陶器片が、D-17号土坑からは平瓦片が出土している。D-16号土坑は円筒状で、底面から砥石や焼磚と11世紀代の須恵器等が出土した。墓坑の可能性もある。掘立柱建物は3棟確認した。いずれも主軸方位は真北（東西）を指向しており、元総社（9）（10）の状況を踏まえれば、8～10世紀代と推測する。B-1号掘立柱建物は柱端圧痕が明瞭で、P5は方形を呈する。調査区西端のP8～P13は規模や形状から掘立柱建物に伴う柱穴と考えられるが、本体は調査区外と想定する。

Tab. 2 [100] 遺構一覧表（1）住居跡・掘立柱建物跡・柱穴跡・土坑

住居跡一覧表：[H-4～5・8号住居跡は欠番] 単位：m

遺構名	グリッド	平面形	主軸方位	幅方向	長軸×短軸×深さ	カマド	貯蔵穴	遺物	所見	時期
H-1号住居跡	X 276, Y 152	楕丸正方形	N-9°-E	2.93×(2.30)×0.42	区外、北外	小明	土師器皿、須恵器	裏壁に性格不明楕穴2、W10底を切る。	9世紀代?	
H-2号住居跡	X 279, Y 153	楕丸長方形	N-109°-E	2.33×(1.04)×0.23	消滅、東外	不明	土師器皿（H16住上と接合あり）	W2底が東西半埋設。	7世紀後半	
H-3号住居跡	X 274, Y 153	方形	N-102°-E	1.12×0.84×0.26	区外、東外	不明	土師器皿小片1点のみ	北、東壁にわざかな鉢、壇土の一部埋設。	小明	
H-6号住居跡	X 276, Y 152	楕丸方形	N-90°-W	4.48×(1.38)×0.39	区外、東外	不明	土師器皿・壺、砾石、焼陶器	H17住上と接合確認。	7世紀後半	
H-7号住居跡	X 278, Y 152	楕丸方形	N-93°-W	3.53×(1.47)×0.15	区外、東外	不明	須恵器片、壺、瓶、灰釉陶器、砾石、火薙品	遺物の一括発掘、床に燒土と厚い灰層、燒失付近。	10世紀後半	
H-9号住居跡	X 278, Y 153	楕丸方形a	N-142°-W	(2.8)×(2.7)×0.05	西南壁	不明	須恵器片、円筒埴輪	地盤が燃熱化。	10世紀後半	

掘立柱建物跡一覧表 単位：m

遺構名	グリッド	平面形	主軸方位	幅方向	奥間×桁行	平均柱間	遺物	所見	時期
B-1号	X 272, Y 273	南北形	N-95°-E	東西横	— × (3.64)	航行平均1.805	なし	北側の3系のみ確認、北東隅P5は平面方形、P5.3×6で柱端位置。	8～10世紀
B-2号	X 274, Y 275	長方形	N-91°-E	東西横	— × 6.38	航行平均2.196	なし	小柱穴4系、北側のみ確認。	8～10世紀
B-3号	X 276, Y 153	長方形	N-17°-E	南北横	3.87 × —	航行平均1.935	なし	小柱穴3系、北側のみ確認。	8～10世紀
B-4号	X 274-277, Y 152-153	長方形	N-84°-W	東西横	3.2 × 12.0 2間 × 6間	航行平均2.00 ≈6.6尺	なし	土壁、山牆38.4m、南西、南東側は推定。	中世
B-5号	X 276-281, Y 152-153	長方形	N-0°-W	東西横	3.23 × 13.46 1間 × 6間+7間	航行平均2.036 ≈6.72尺	なし	土壁、梁間東面下段1間、南北対半分に推定、山牆43.4m、身廊29.3m。	中世
B-6号	X 276-278, Y 152-153	長方形	N-84°-W	東西横	3.05 × 5.7 1～2間 × 3間	航行平均1.897 ≈6.26尺	なし	木造物等、山牆は定19.1m、北西隅P4推定。	中世
B-7号	X 277-278, Y 152-153	長方形	N-88°-W	東西横	— × 6.60	航行平均1.987	なし	土壁等、山牆（航行推定2間=24.6m）。	中世
S-A-1号	X 280-283, Y 152	—	N-89°-E	東西	4間	2.61 m	なし	S-F1号道路式遺構より新しい、W2b構上に沿って位置する。	中世
柱穴	S-A-2号	X 280-283, Y 152	N-85°-E	東西	長さ10.45m	≈8.61尺	なし	柱穴4個、柱穴と柱走・重複。建物の可能性あり。	中世
S-A-3号	X 280-283, Y 152	—	N-85°-E	東西	3間	2.143 m	なし	S-A-1号柱穴と並走・重複。建物の可能性あり。	中世
柱穴	S-A-4号	X 280-283, Y 152	N-85°-E	東西	長さ6.46m	≈7.07尺	なし	柱穴4個、柱穴と柱走・重複。建物の可能性あり。	中世

土坑一覧表（1）（D-20・21号土坑は欠番） 単位：m

遺構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
D-1号土坑	X 274, Y 152	N-55°-E	不整椭円形	浅盤状	1.30 × 1.00 × 0.13	暗褐色土	灰陶陶器、土師器皿	古代	
D-2号土坑	X 275, Y 152	N-35°-E	椭円形	透台形	(1.1) × 1.18 × 0.23	As-B层	須恵器片、織文土器	須恵器は10世紀	中世以降
D-3号土坑	X 275, Y 153	N-90°-	椭丸方形	浅盤状	0.84 × 0.67 × 0.07	As-B层	土師器皿小片	柱穴、柱穴深さ0.43	中世以降
D-4号土坑	X 277, Y 153	N-86°-E	小判形	透台形	1.20 × 0.76 × 0.10	As-B层	土師器皿（8世紀）・环	HP100を切る。	中世以降
D-5号土坑	X 277, Y 153	N-77°-E	不整椭丸長方形	浅盤状	1.10 × 0.67 × 0.14	As-B层	—	柱穴、D16土壁を切る。	中世以降
D-6号土坑	X 278, Y 153	N-35°-E	不整椭円形	透台形	1.04 × 0.95 × 0.15	As-B层	土師器皿	D14土壁を切る。	中世以降
D-7号土坑	X 279, Y 153	N-25°-E	此方形	透凸形	0.82 × 0.64 × 0.17	As-B层	土師器皿	柱穴、深さ0.42、D10土壁と重複、W2層を切る。	中世以降
D-8号土坑	X 280, Y 153	N-90°-	椭圓形	浅盤状	0.67 × 0.46 × 0.10	As-B层	—	D11土壁・S-F1道路状遺構を切る。	中世以降
D-9号土坑	X 282, Y 152	N-13°-E	椭圓形	浅盤状	0.93 × 0.60 × 0.15	As-B层	椭円骨指輪	P3を切る。	中世以降
D-10号土坑	X 279, Y 152	N-35°-E	椭丸方形	透台形	0.63 × 0.68 × 0.16	As-B层	—	D7土坑に切られる。	中世以降
D-11号土坑	X 280, Y 153	N-86°-E	椭円形	浅盤状	0.77 × 0.67 × 0.12	As-B层	—	D8土坑に切られる。	中世以降
D-12号土坑	X 283, Y 153	N-41°-W	椭円形	浅盤状	0.84 × 0.57 × 0.11	As-B层	須恵器皿	中世以降	
D-13号土坑	X 282, Y 152	N-21°-W	椭円形	浅盤状	0.81 × 0.72 × 0.06	As-B层	—	中世以降	
D-14号土坑	X 279, Y 153	N-17°-E	不整椭円形	透台形狀	1.01 × 0.72 × 0.14	As-B层	—	D6土壁に切られる。	中世以降
D-15号土坑	X 279, Y 152	円形	—	—	—	—	土師器皿と椎刺	中世以降	
D-16号土坑	X 277, Y 153	N-9°-W	椭円形	透台形	0.78 × 0.77 × 0.46	As-B层	須恵器皿、土師器皿、砾石	C面黒色土で埋没後、飛上土層はB湿土で埋没。飜出。	11世紀前半
D-17号土坑	X 283, Y 152	N-0°-	椭円形	透台形	1.20 × 1.00 × 0.20	As-C层	平瓦、土師器皿・环瓦、瓦蓋器皿	P22に切られる。	古代
D-18号土坑	X 277, Y 152	N-23°-W	不整椭円形	透台形狀	0.99 × 0.79 × 0.35	As-B层	須恵器皿、土師器皿	中世以降	
D-19号土坑	X 278, Y 152	N-4°-W	小判形	L字形	0.66 × 0.52 × 0	As-B层	須恵器皿、土師器皿、瓦	D6・7柱を切る。	中世以降

中世

南北の大溝2条、道路状遺構1条、土坑18基に加え、柱穴(BP)は100基以上確認した（一部の土坑含む）。建物4棟と柱穴2条を想定した。B-4・5号建物は梁間1～2面・3m強で、桁行が6面・12mを超える細長い主屋である。遺物量が極めて少ないので時期決定に苦慮するが、大溝2条からは短い口縁部の内耳土器片が各1点出土し、県内では14世紀後半～15世紀初頭に比定されている。BP-9のかわらけは15世紀末～16世紀代に比定でき、BP-13からは古瀬戸灰釉皿片が出土した。内耳土器の示す年代を中世遺構群の上限とし、下限は元総社（7）で確認された箱堀の構築時期（戦国期）と想定する。W-3号溝（上端幅3.0m・下端幅0.4m・深さ1m）は南北に走行する薬研状の溝で、埋没途中に硬化面が形成される。その後、地山ブロックを大量に含む土などで、北から南に向かって順次埋め戻される。南北に走行するW-2号溝は北壁に沿って東側へ直角に屈曲、あるいはT字に分岐しており（W-2b号溝）、W-3号溝よりも新しい。交差箇所には自然礫を貼り付けて、W-3号溝埋土の崩落を防止している。W-2号溝の埋没後は、S F-1号道路状遺構と両側側溝のW-5・8号溝が南北に走行する。D-9号土坑からは獸骨が、D-15号土坑（プランは推定）からは馬歯が検出された。

Tab. 3 [100] 遺構一覧表（2）土坑・溝・周溝墓・道路状遺構

土坑一覧表（2）（D-20・21号土坑は欠番） 単位：m

遺構名	グリッド	主輪方位	平面形状	断面形状	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
D-22号土坑	X 283, Y 152	N-57°-W	不整形円形	塊状	1.15 × 0.87 × 0.09	褐色土		W9溝底面に痕跡。埋没途中で掘込み跡	古墳時代～
D-23号土坑	X 278, Y 152	N-45°-W	不整形円形	透弓形	0.64 × 0.47 × 0.24	As-B混		柱穴。周囲の土聚あり。	中世以降
D-24号土坑	X 283, Y 152	N-90°-	不整形円形	透弓形	1.74 × 0.70 × 0.15	As-B混	須恵器片、土聚2小片	W2b溝を切る。	中世以降
D-25号土坑	X 281, Y 153	N-9°-E	椭円形	塊状	1.14 × 0.56 × 0.30	As-C混		W2溝に埋れる。	古代
D-26号土坑	X 274, Y 152	N-45°-E	椭円形	透弓形	0.80 × 0.82 × 0.18	As-B混	土聚2小片		中世以降
D-27号土坑	X 274, Y 152	N-15°-E	不整形	透弓形	0.88 × 0.56 × 0.22	As-C混		W4溝を切る。	中世以降
D-28号土坑	X 273, Y 152	N-23°-E	不整形	透弓形	1.36 × 1.16 × 0.28	As-B混	滑滑石片	柱穴。W4溝を切る。上層はB混で埋められ。	中世以降
D-29-a号土坑	X 274, Y 152	N-88°-E	楕丸形	弓張状	1.39 × 0.56 × 0.27	As-B混	栗色瓦片	P22（B混）に切られる。	中世以降
D-29-b号土坑	X 274, Y 152	N-30°-E	楕丸形	弓張状	1.45 × 0.13 × 0.32	褐色土		西側南西軸	古代
D-30号土坑	X 278, Y 152	N-84°-W	椭円形	浅盤状	0.57 × 0.42 × 0.07	As-FA		F A底の匂いくぼみ	6世紀初
D-31号土坑	X 278, Y 152	N-24°-E	椭円形	U字状	0.55 × 0.45 × 0.05	As-B混	壤土中に埋立板瓦片	柱穴。磚板瓦に角材根脚。中世以降	転用原石。
D-32号土坑	X 278, Y 153	N-5°-W	長椭円形	V字状	0.81 × 0.47 × 0.18	As-C混	土聚断面		古代
D-33号土坑	X 277, Y 152	N-11°-W	椭円形	U字状	0.72 × 0.51 × 0.35	褐色土		調文瓦	
D-34号土坑	X 278, Y 152	N-0°-	不整円形	透弓形	1.27 × (0.41) × 0.32	褐色土		調文瓦	
D-35号土坑	X 278, Y 152	N-30°-W	椭円形	扁平状	0.43 × 0.92 × 0.27	褐色土		柱穴。	調文瓦

溝・周溝墓・道路状遺構・一覧表 単位：m

遺構名	グリッド	走向方位	断面形状	上端幅×下端幅×深さ	覆土	遺物	所見	時期
W-1号溝	X 281, Y 153	N-24°-E	U字状	0.30 × 0.16 × 0.17	As-B混	土聚片		中世以降
W-2号溝	X 279, Y 152 - 153	N-4°-E	透弓形	1.45 × 0.9 × 0.46 ~ 0.31 × 0.72 ~ 0.45	As-B混	青磁片、内耳土器。かわらけ。 須恵器片、網・繩・甕。土聚片	2a溝が北壁で東へ折れる 5分岐して2b溝となり。 W3溝を切る。 周溝底面には数点の礫が集中出土。	中世以降
W-2b号溝	X 279 ~ 283, Y 152	N-90°-	V字状	(0.44) × (0.27) × (0.95)	As-B混			
W-3号溝	X 281, Y 152	N-90°-	浅盤状	3.1 ~ 2.65 × 0.50 ~ 0.42 × 1.18	As-B混	内耳土器、在地錠、須恵器片。 土聚片、叩石	埋没途中で初期的な硬化面形成。 堆疊し後、W2b溝が切る。	中世以降
W-4号溝	X 272 ~ 274, Y 153	N-88°-W	透弓形	1.65 ~ 0.70 × 1.30 ~ 0.37 × 0.45 ~ 0.15	As-C混	築堤、須恵器片・甕。土聚上層はAs-B混で削平。	古墳南側期	古墳南側期
W-5号溝	X 280, Y 152	N-4°-W	浅盤状	0.90 ~ 0.66 × 0.17 ~ 0.46 × 0.09 ~ 0.18	As-B混	土聚片、須恵器片。	S F 1道場の東側面。 W2b溝を切る。	中世以降
W-6号溝	X 278, Y 152	N-3°-E	U字状	0.26 × 0.09 × 0.03	As-B混	土聚片、須恵器片。	H1住家をなす。	中世以降
W-7号溝	X 283, Y 153	N-16°-E	透弓形	0.57 ~ 0.31 × 0.27 ~ 0.17	As-C混		W9溝を切る。	古代
W-8号溝	X 280, Y 152	N-1°-W	浅盤状	1.15 ~ 0.17 × 0.92 ~ 0.05 × 0.05 ~ 0.13	As-B混	土聚片	S F 1道場の西側面。	中世以降
W-9号溝 (S Z-1)	X 281 ~ 283, Y 152 - 153	N-54°-E	透弓形	4.39 ~ 2.0 × 3.39 ~ 3.94 ~ 2.02 × 0.52 ~ 0.21	As-C混	弥生土器、褐色土。	W13溝と合わせて周溝底。上層は古墳後期 縄文面土器、小土坑剖面斜傾斜。	古墳前期
W-10号溝	X 275, Y 152	N-55°-E	透弓形	(1.26) × (1.09) × 0.43	As-C混	須恵器片、蓋。	元絶石番地蔵塔群（7）の古代	W-4溝と同一。
W-11号溝	X 272 ~ 273, Y 152	N-55°-E	浅盤状	壁厚1.33 × 3.02 × 0.11	As-C混	須恵器底部。須恵器片、蓋。	直線的。	7世紀後半
W-12号溝	X 280, Y 152	N-0°-	浅盤状	2.50 ~ 1.80 × 1.70 ~ 1.29 × 0.15	As-C混	土聚片、繩文土器。	硬化面あり。周溝底の可能性。	古墳南側期
W-13号溝 (S Z-1)	X 278 ~ 279, Y 152 - 153	N-28°-W	透弓形	4.24 ~ 3.60 × 3.36 ~ 2.82 × 0.46	As-C混	土聚片、繩文土器、石器。	W9溝と合わせて周溝底。古墳南側期	古墳南側期

Tab. 4 [100] 造構一覧表（3）As-B混ピット・ピット

ピット一覧表（1） 単位：cm

P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
BP-1a	X 281, Y 152	楕円形	22	中世以降
BP-1b	X 281, Y 152	楕円形	28	中世以降
BP-2a	X 281, Y 152	円形	20	中世以降
BP-2b	X 281, Y 152	楕円形	15	中世以降
BP-3	X 281, Y 152	楕円形	17	中世以降
BP-4	X 282, Y 153	不整円形	37	中世以降
BP-5	X 278, Y 152	楕円形	21	中世以降
BP-6	X 278, Y 152	楕円形	29	中世以降
BP-7	X 278, Y 152	円形	43	中世以降
BP-8	X 278, Y 152	円形	32	中世以降
BP-9	X 278, Y 152	円形	21	中世以降
BP-10	X 278, Y 152	楕円形	15	中世以降
BP-11	X 279, Y 152	楕円形	36	中世以降
BP-12	X 279, Y 153	楕円形	38	中世以降
BP-13	X 277, Y 153	楕円形	38	中世以降
BP-14	X 277, Y 153	楕円形	11	中世以降
BP-15	X 276, Y 153	楕円形	32	中世以降
BP-16	X 276, Y 153	楕円形	29	中世以降
BP-17	X 276, Y 153	楕円形	37	中世以降
BP-18	X 283, Y 152	楕円形	16	中世以降
BP-19	X 283, Y 152	楕円形	24	中世以降
BP-20	X 282, Y 153	楕円形	9	中世以降
BP-21	X 282, Y 153	楕円形	54	中世以降
BP-22	X 283, Y 152	楕円形	19	中世以降
BP-23	X 282, Y 152	楕円形	21	中世以降
BP-24	X 286, Y 152	楕円形	39	中世以降
BP-25	X 286, Y 152	楕円形	25	中世以降
BP-26	X 286, Y 152	円形	34	中世以降
BP-27	X 279, Y 153	楕円形	22	中世以降
BP-28	X 279, Y 153	不整円形	21	中世以降
BP-29	X 279, Y 153	楕円形	22	中世以降
BP-30	X 279, Y 152	楕円形	21	中世以降
BP-31	X 279, Y 152	不整円形	22	中世以降
BP-32	X 278, Y 152	楕丸正方形	9	中世以降
BP-33	X 278, Y 152	楕丸正方形	11	中世以降
BP-34	X 278, Y 152	楕丸正方形	15	中世以降
BP-35	X 278, Y 152	楕丸正方形	19	中世以降
BP-36	X 278, Y 152	楕丸正方形	23	中世以降
BP-37	X 278, Y 152	楕丸正方形	26	中世以降
BP-38	X 278, Y 152	楕丸正方形	30	中世以降
BP-39	X 278, Y 152	楕丸正方形	33	中世以降
BP-40	X 278, Y 152	楕丸正方形	37	中世以降
BP-41	X 278, Y 152	楕丸正方形	40	中世以降
BP-42	X 278, Y 152	楕丸正方形	45	中世以降
BP-43	X 278, Y 152	楕丸正方形	48	中世以降
BP-44	X 277, Y 153	楕円形	18	中世以降
BP-45	X 277, Y 152	楕円形	11	中世以降
BP-46	X 277, Y 152	楕円形	16	中世以降
BP-47	X 276, Y 153	楕円形	18	中世以降
BP-48	X 276, Y 153	楕円形	16	中世以降
BP-49	X 276, Y 153	楕円形	21	中世以降
BP-50	X 276, Y 153	楕丸正方形	21	中世以降
BP-51a	X 277, Y 152	不整円形	23	中世以降
BP-51b	X 277, Y 152	楕円形	15	中世以降
BP-51c	X 277, Y 152	楕丸正方形	23	中世以降
BP-52	X 276, Y 153	楕丸正方形	23	中世以降
BP-53	X 275, Y 153	楕円形	9	中世以降
BP-54	X 275, Y 153	楕円形	13	中世以降
BP-55	X 275, Y 153	楕円形	14	中世以降
BP-56	P-35と同一、上部のA星土			
BP-57	X 275, Y 152	不整円形	16	中世以降
BP-58	X 275, Y 152	楕円形	14	中世以降
BP-59	X 275, Y 152	円形	30	中世以降
BP-60	X 275, Y 152	楕円形	17	中世以降
BP-61	X 275, Y 152	楕円形	17	中世以降
BP-62	X 274, Y 152	楕円形	12	中世以降
BP-63	X 274, Y 153	楕円形	14	中世以降
BP-64	X 274, Y 153	楕円形	13	中世以降
BP-65	X 274, Y 152	楕丸正方形	25	中世以降
BP-66	X 273, Y 153	円形	12	中世以降
BP-67	X 272, Y 152	不整円形	51	中世以降
BP-68	X 282, Y 152	楕円形	30	中世以降
BP-69	X 282, Y 152	楕丸正方形	11	中世以降

ピット一覧表（2） 単位：cm

P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
P-1	X 283, Y 153	楕円形	19	古墳・古代
P-2a	X 283, Y 153	不整円形	45	古墳・古代
P-2b	X 283, Y 152	楕円形	11	古墳・古代
P-3a	X 283, Y 153	楕円形	47	古墳・古代
P-3b	X 282, Y 152	不整円形	36	古墳・古代
P-4	X 273, Y 153	楕円形	66	古墳・古代
P-5	X 273, Y 153	楕丸形	45	古墳
P-6	X 273, Y 153	楕丸形	89	古墳
P-7	X 272, Y 153	楕丸正方形	75	古墳
P-8a	X 272, Y 152	楕円形	39	晩世紀
P-8b	X 272, Y 153	不整円形	33	晩世紀
P-9	X 272, Y 153	楕円形	18	古墳・古代
P-10	X 272, Y 152	楕円形	22	古墳・古代
P-11	X 272, Y 153	楕円形	60	古墳・古代
P-12	X 273, Y 152	不整円形	5	古墳・古代
P-13	X 273, Y 152	楕丸正方形	16	古墳・古代
P-14	X 276, Y 152	楕円形	22	古墳・古代
P-15	X 276, Y 152	楕円形	14	古墳・古代
P-16	X 276, Y 152	楕円形	25	古墳・古代
P-17	X 274, Y 152	楕円形	10	古墳・古代
P-18	X 274, Y 153	楕円形	15	古墳・古代
P-19	X 274, Y 152	楕円形	11	古墳・古代
P-20	X 274, Y 152	楕円形	8	古墳・古代
P-21	X 274, Y 152	楕円形	17	古墳・古代
P-22	X 274, Y 152	楕円形	32	古墳・古代
P-23	X 274, Y 152	円形	32	古墳・古代
P-24	X 274, Y 152	楕円形	22	古墳・古代
P-25	X 274, Y 152	楕円形	45	古墳・古代
P-26	X 274, Y 152	楕丸正方形	18	古墳・古代
P-27	X 274, Y 152	楕丸正方形	21	古墳・古代
P-28	X 274, Y 152	楕丸正方形	26	古墳・古代
P-29	X 273, Y 153	楕円形	33	古墳・古代
P-30	X 273, Y 152	楕円形	30	古墳・古代
P-31	X 273, Y 153	楕円形	23	古墳・古代
P-32	X 273, Y 152	楕丸正方形	25	古墳・古代
P-33	X 273, Y 153	楕円形	23	古墳・古代
P-34	X 273, Y 153	楕円形	23	古墳・古代
P-35	X 275, Y 152	円形	44	古墳
P-36	X 275, Y 152	楕丸正方形	13	古墳
P-37	X 276, Y 152	楕円形	23	古墳
P-38	X 277, Y 152	楕丸正方形	21	古墳
P-39	X 277, Y 152	楕円形	9	古墳
P-40	X 277, Y 152	楕丸正方形	11	古墳・古代
P-41	X 277, Y 153	楕円形	13	古墳・古代
P-42	X 276, Y 153	楕丸正方形	39	古墳
P-43	X 276, Y 153	円形	11	古墳・古代
P-44	文書			
P-45	X 276, Y 153	楕円形	15	古墳・古代
P-46	X 276, Y 152	楕円形	2	古墳・古代
P-47	X 282, Y 152	長楕円形	18	古墳・古代
P-48	X 282, Y 152	楕丸正方形	17	古墳・古代
P-49	X 282, Y 152	楕円形	3	中世以降
P-50	X 282, Y 152	楕円形	3	中世以降
P-51	X 282, Y 152	楕円形	21	中世以降
P-52	X 282, Y 152	楕円形	37	中世以降
P-53	X 282, Y 152	楕円形	37	中世以降
P-54	X 282, Y 152	楕円形	35	中世以降
P-55	X 282, Y 152	楕円形	35	中世以降
P-56	X 276, Y 153	楕円形	27	中世以降
P-57	X 276, Y 153	楕円形	11	中世以降
P-58	X 282, Y 152	楕円形	5	中世以降
P-59	X 276, Y 153	楕円形	55	中世以降
P-60	X 277, Y 153	楕円形	9	中世以降
P-61	X 277, Y 153	楕円形	32	中世以降
P-62	X 276, Y 153	楕円形	29	中世以降
P-63	X 276, Y 153	楕円形	29	中世以降
P-64	X 276, Y 153	楕円形	29	中世以降
P-65	X 276, Y 153	楕円形	29	中世以降
P-66	X 276, Y 153	楕円形	29	中世以降
P-67	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-68	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-69	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-70	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-71	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-72	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-73	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-74	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-75	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-76	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-77	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-78	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-79	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-80	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-81	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-82	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-83	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-84	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-85	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-86	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-87	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-88	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-89	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-90	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-91	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-92	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-93	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-94	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-95	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-96	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-97	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-98	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-99	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-100	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-101	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-102	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-103	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-104	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-105	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-106	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-107	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-108	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-109	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-110	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-111	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-112	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-113	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-114	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-115	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-116	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-117	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-118	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-119	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-120	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-121	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-122	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-123	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-124	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-125	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-126	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-127	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-128	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-129	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-130	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-131	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-132	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-133	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-134	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-135	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-136	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-137	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-138	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-139	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-140	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-141	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-142	X 276, Y 152	楕円形	30	中世以降
P-143	X 276, Y 153	円形	11	古墳・古代
P-144	文書			
P-145	X 276, Y 153	楕円形	11	古墳・古代
P-146	X 276, Y 153	楕円形	11	古墳・古代

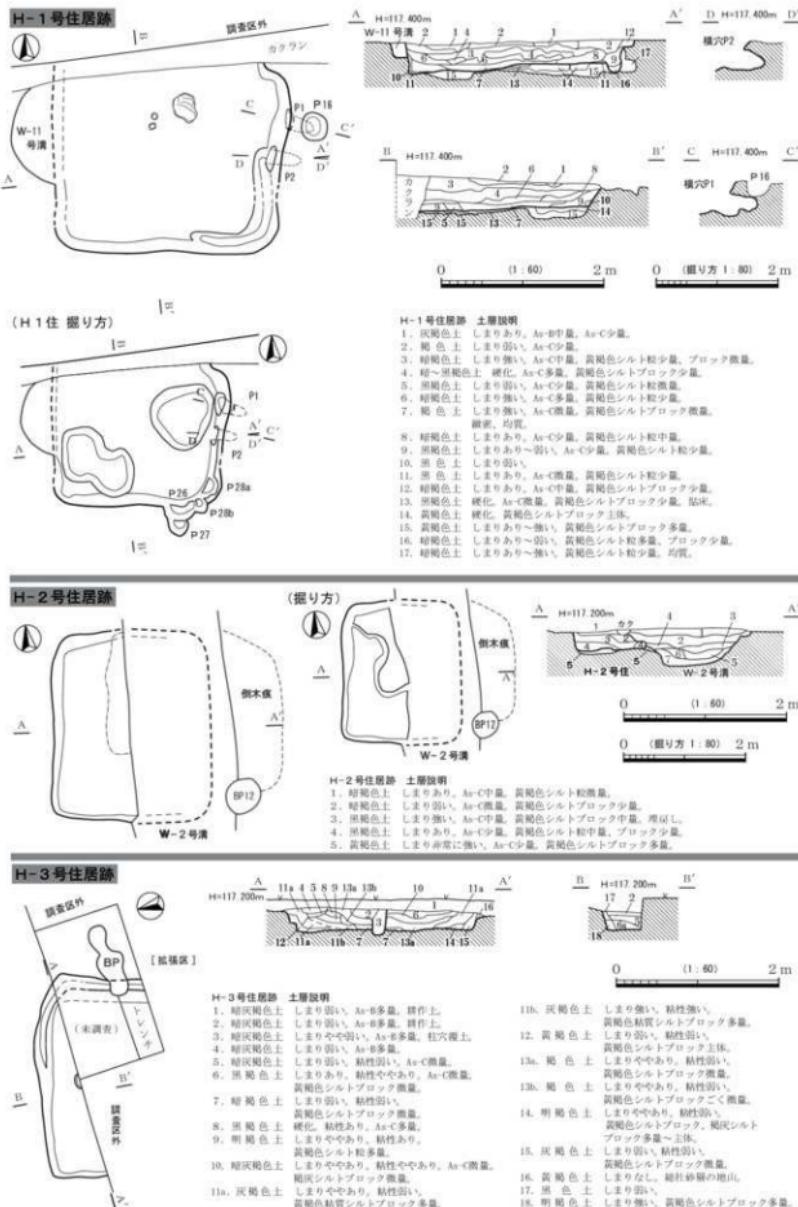


Fig. 7 [100] 駿構図 (1) H-1・2・3号住居跡

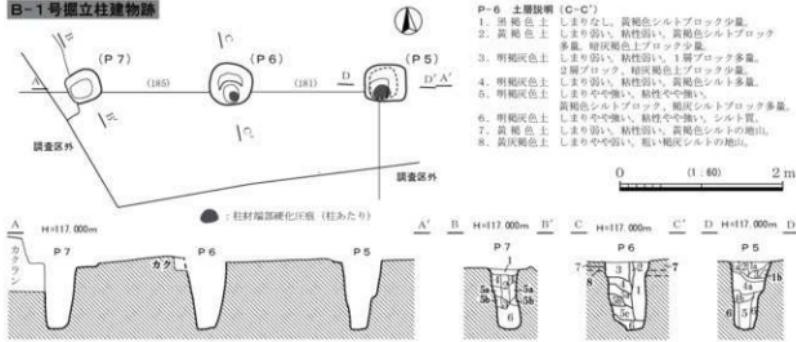


Fig. 8 [100] 遺構図 (2) H-6・7・9号住居跡

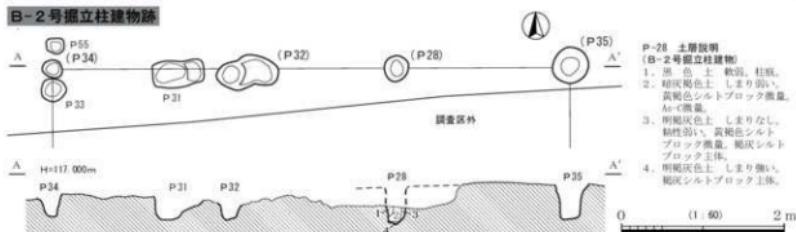
H-9号住居跡



B-1号掘立柱建物跡



B-2号掘立柱建物跡



B-3号掘立柱建物跡

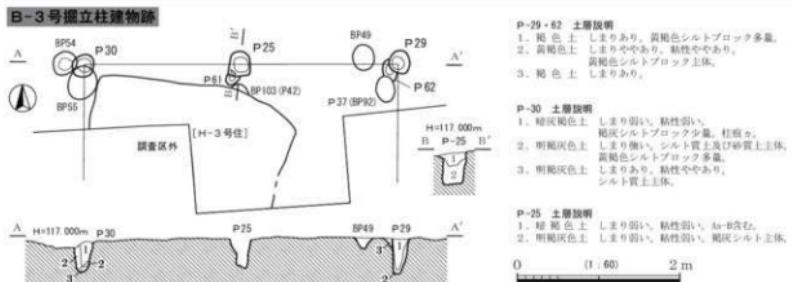


Fig. 9 [100] 遺構図 (3) B-1・2・3号掘立柱建物跡

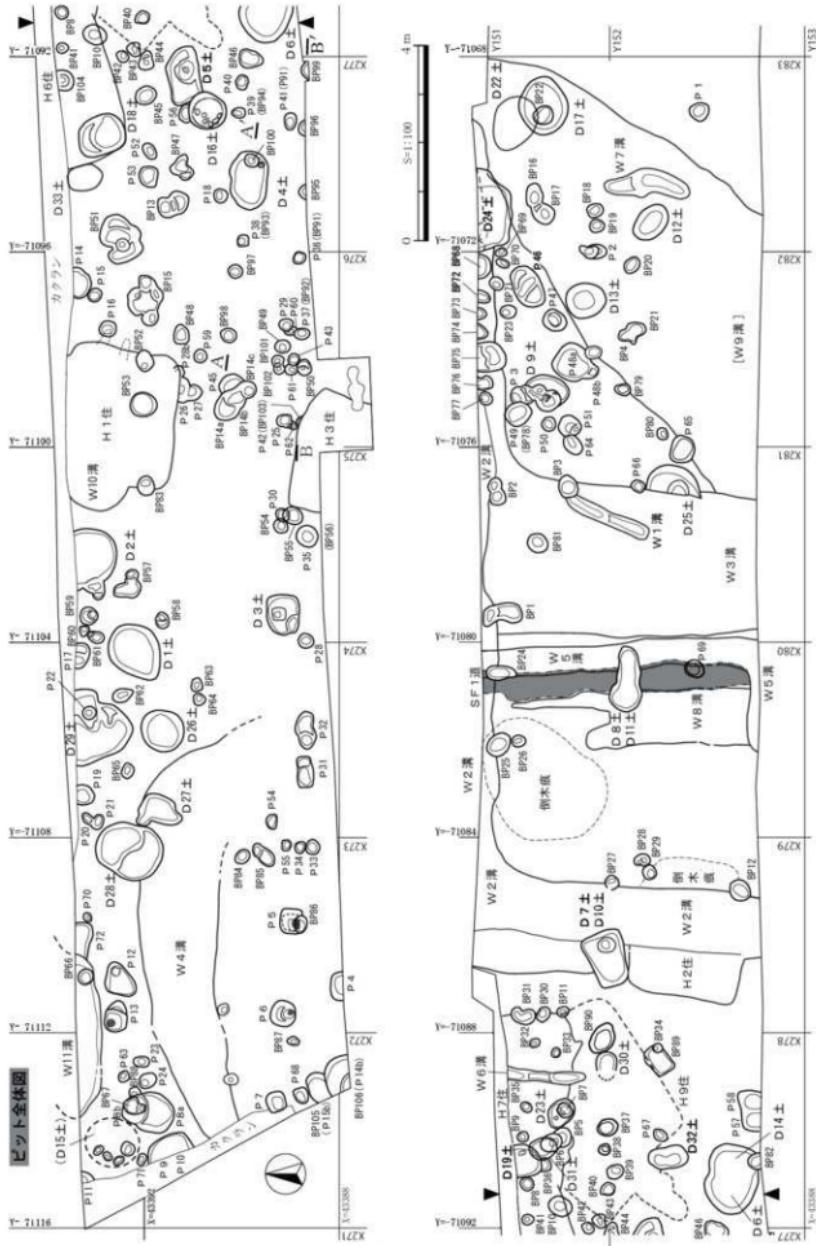


Fig. 10 [100] 遺構図 (4) ピット全体図

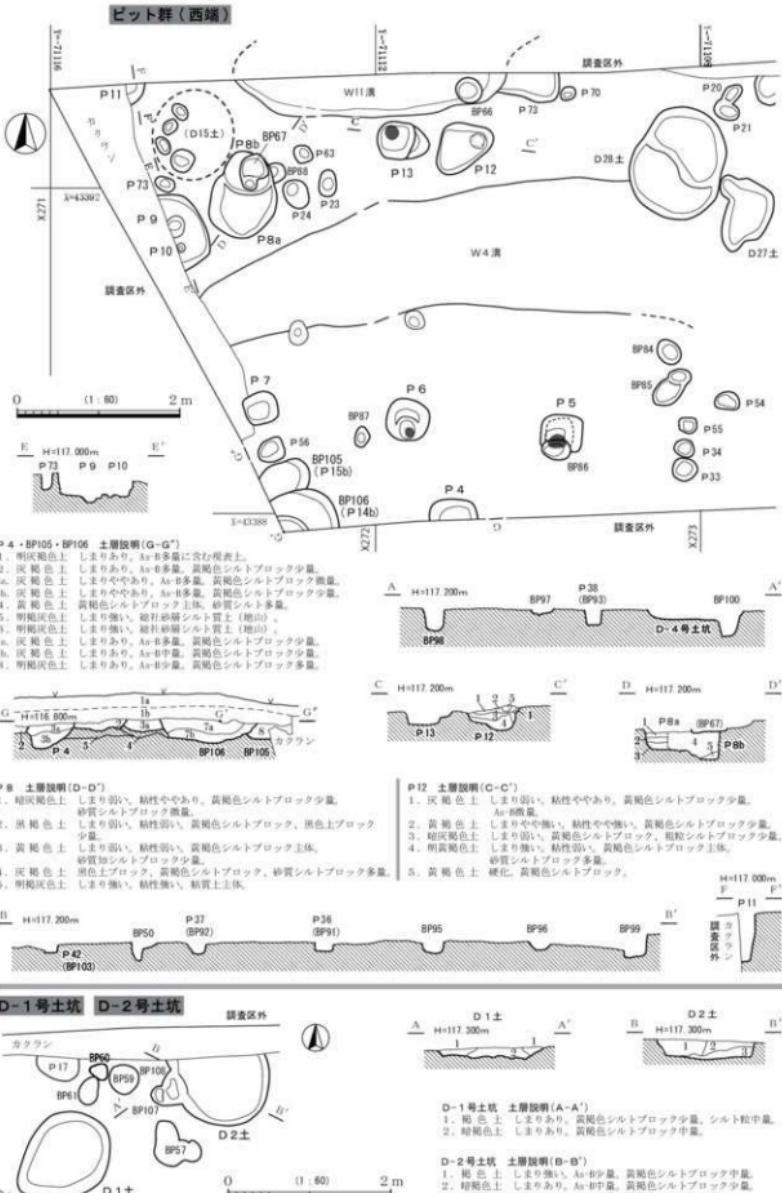


Fig. 11 [100] 遺構図 (5) ビット群（西端）/ D-1・2号土坑

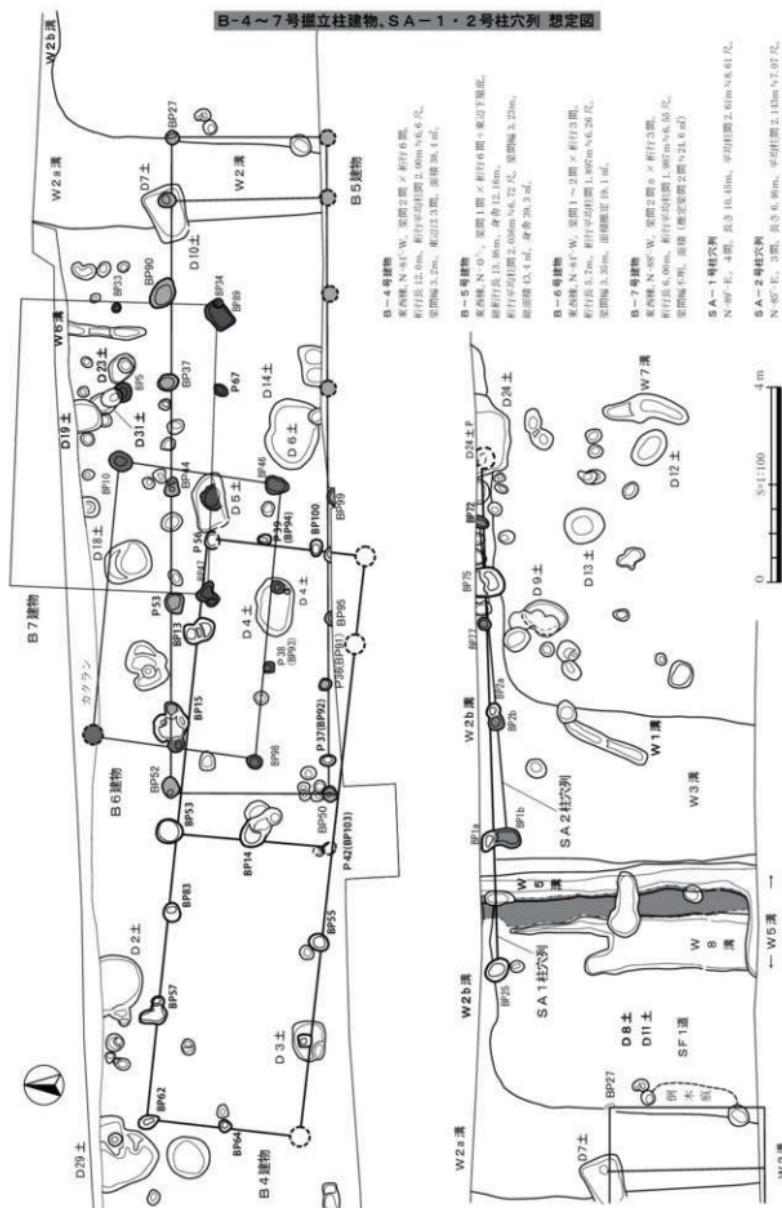


Fig. 12 [100] 遺構図 (6) B-4～7号掘立柱建物 / SA-1・2号柱穴列 想定図

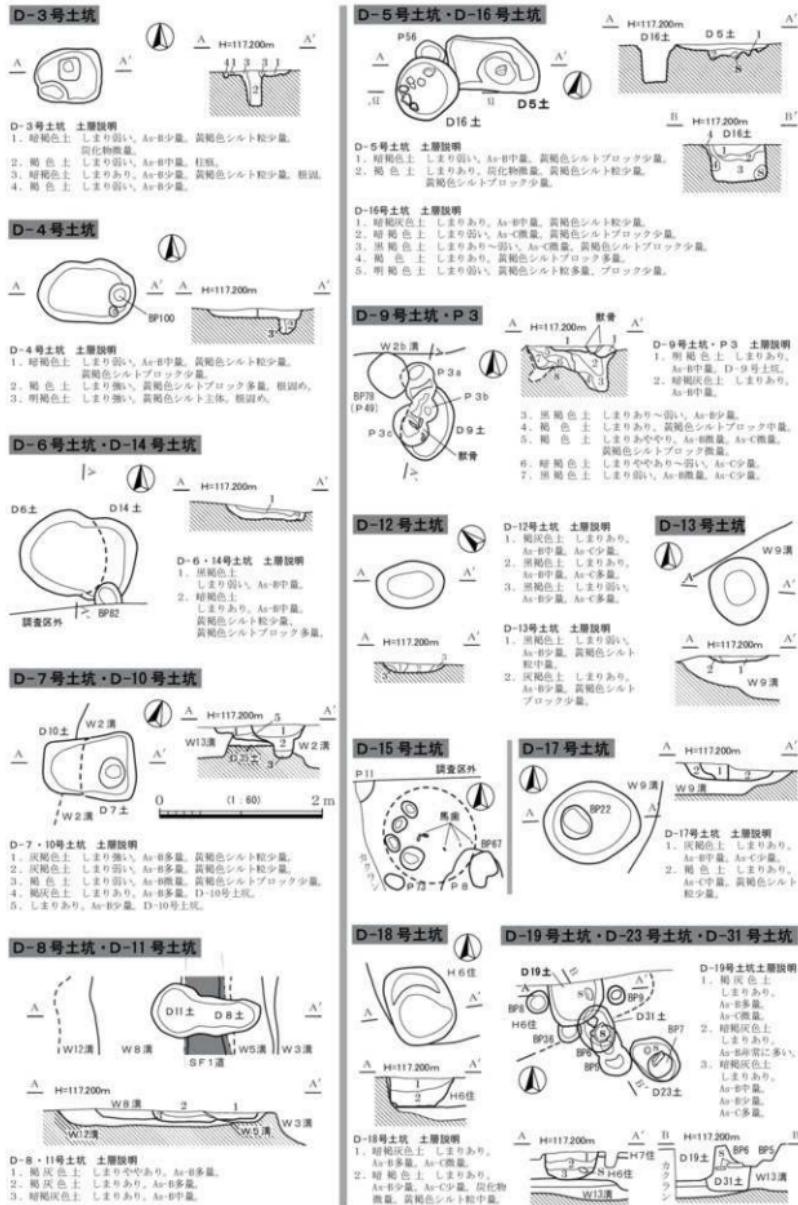


Fig. 13 [100] 遺構図 (7) D-3～19・23・31号土坑

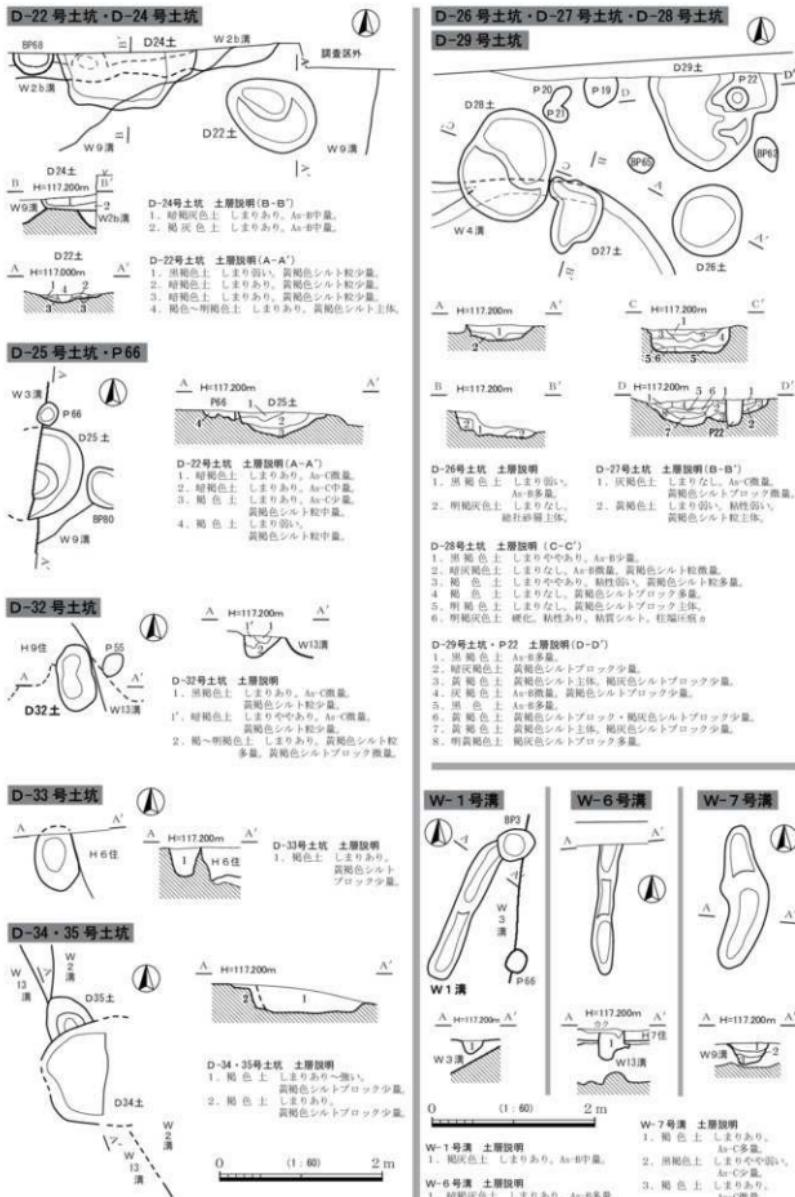


Fig. 14 [100] 遺構図 (8) D-22・24～29・32～35号土坑 / W-1・6・7号溝

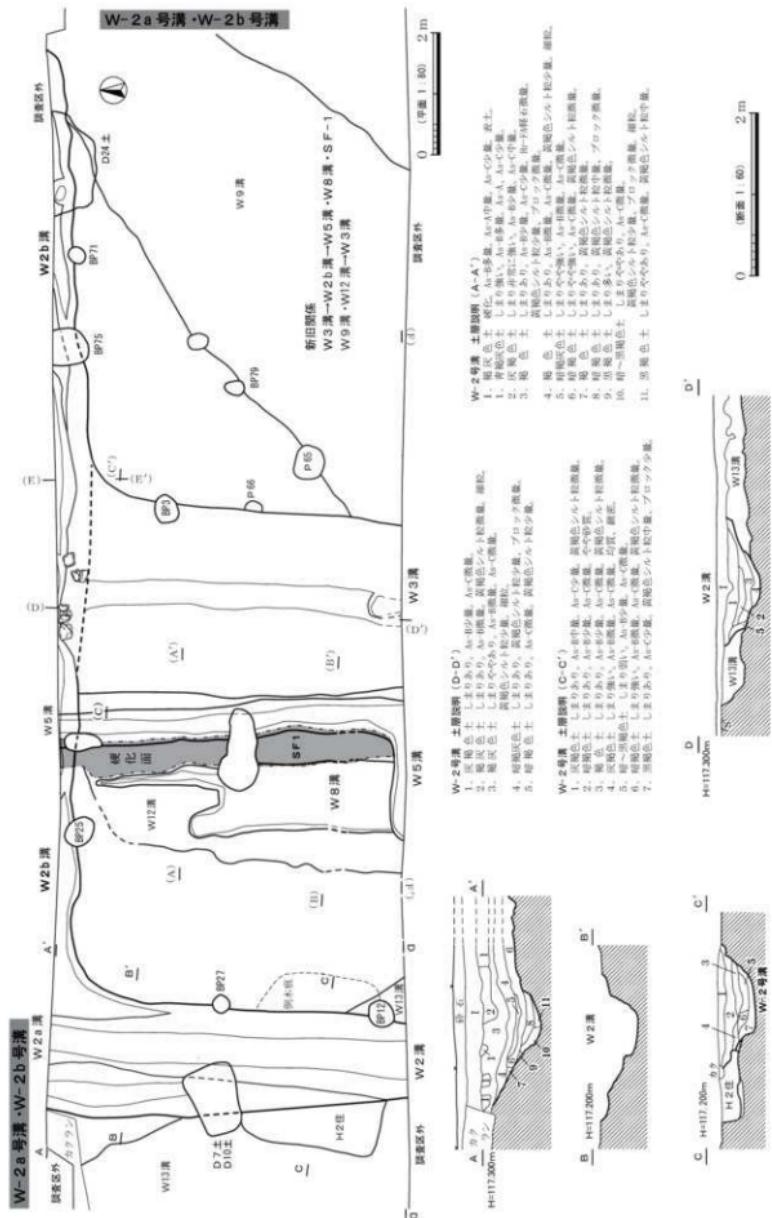
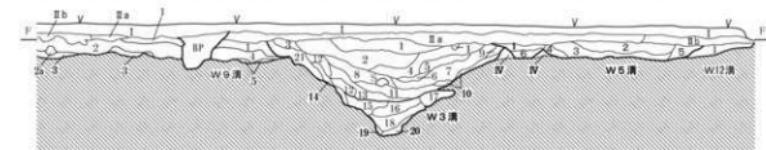
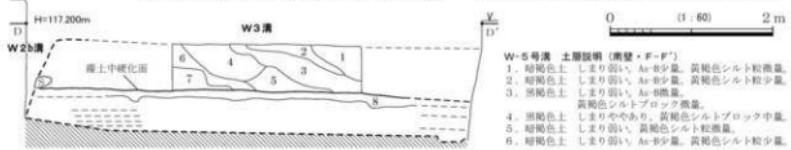
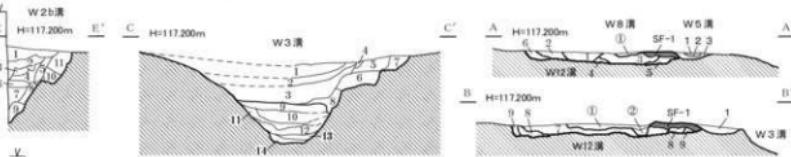
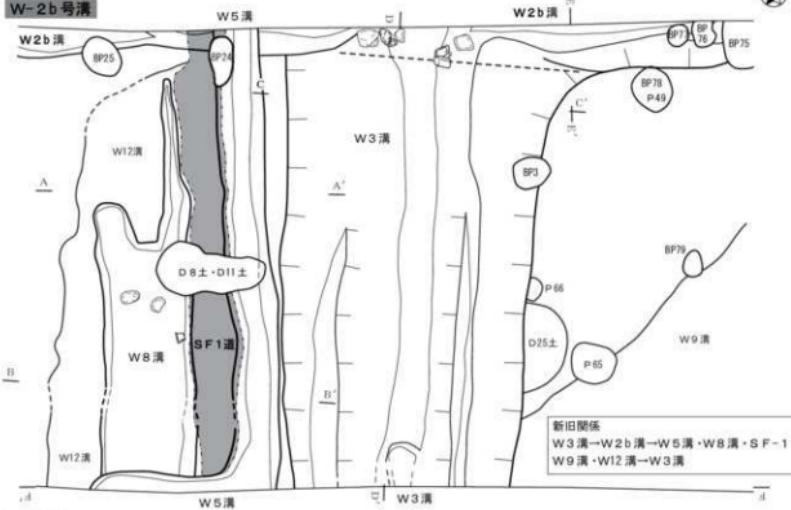


Fig. 15 [100] 遺構図(9) W-2a・2b号溝

W-3号溝・W-5号溝・W-8号溝・S F-1号道路状構

W-2b号溝



- W-3号溝 土層説明 (F-F')**
1. 硫酸色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルトブロック微量。
 2. 明灰褐色土 しまりあり。Ar-B少量。黄褐色シルトブロック中量。側面。
 3. 黄褐色土 しまりややあり。黄褐色シルトブロック微量。
 4. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C微量。黄褐色シルト粒微量。
 5. 紅褐色土 しまりあり。Ar-C微量。黄褐色シルト粒微量。
 6. 紅褐色土 しまりあり。Ar-C微量。黄褐色シルト粒微量。
 7. 紅褐色土 しまりあり。Ar-C微量。黄褐色シルト粒微量。後状。
 8. 深褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック中量。後状。
 9. 黑褐色土 しまりややあり。黄褐色シルト粒微量。
 10. 黑褐色土 しまりややあり。細粒均質。
 11. 黄褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック中量。
 12. 褐褐色土 しまりあり。褐褐色シルトブロック微量。
 13. 黄褐色土 しまりややあり。褐褐色シルトブロック微量。
 14. 細粒褐色土 しまりややあり。均質。
 15. 黄褐色土 しまり非常に強い。黄褐色シルト粒少量。
16. 硫酸灰色土 しまり非常に強い。黄褐色シルトブロック微量。
 17. 明灰灰色土 硫化鉄弱シルトブロック土体。
 18. 黄色土 しまり強い。硫化シルトブロックやや多量。
 19. 明灰灰色土 しまりややあり。黄褐色シルトブロック微量。
 20. 黑褐色土 しまり強い。Ar-B少量。現査土。

基本序序 土層説明 (W3溝 F-F'・W9溝 F-F')

Fig. 16 [100] 道構図 (10) W-2 b・3・5・8号溝 / S F-1号道路状構

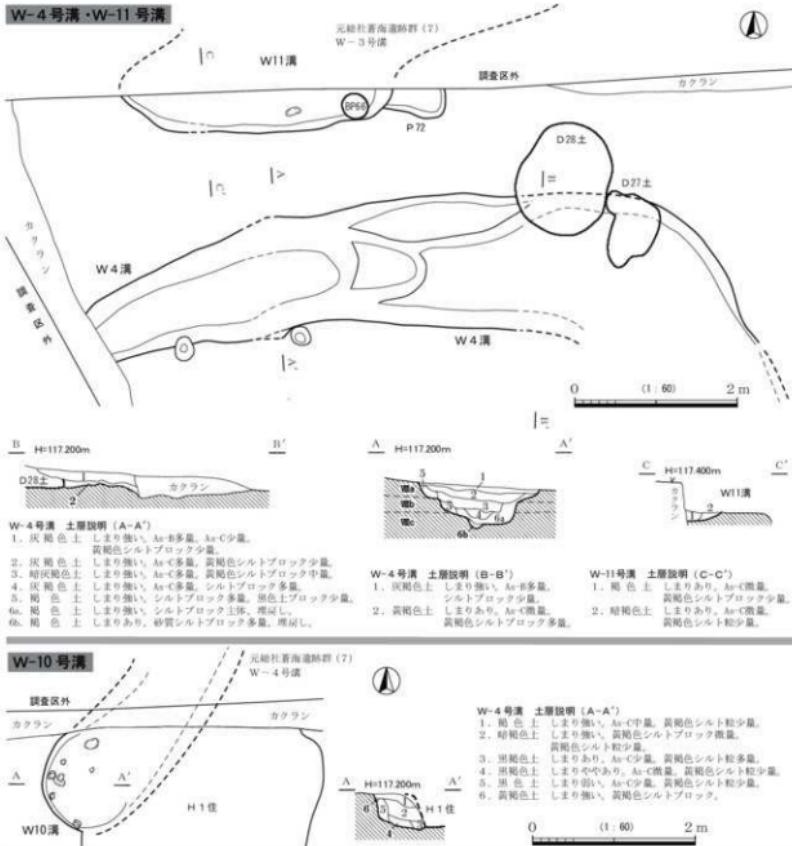


Fig. 17 [100] 駿構図 (11) W-4・10・11号溝 (W-2b・3・5・8号溝 / SF-1道路状構造)

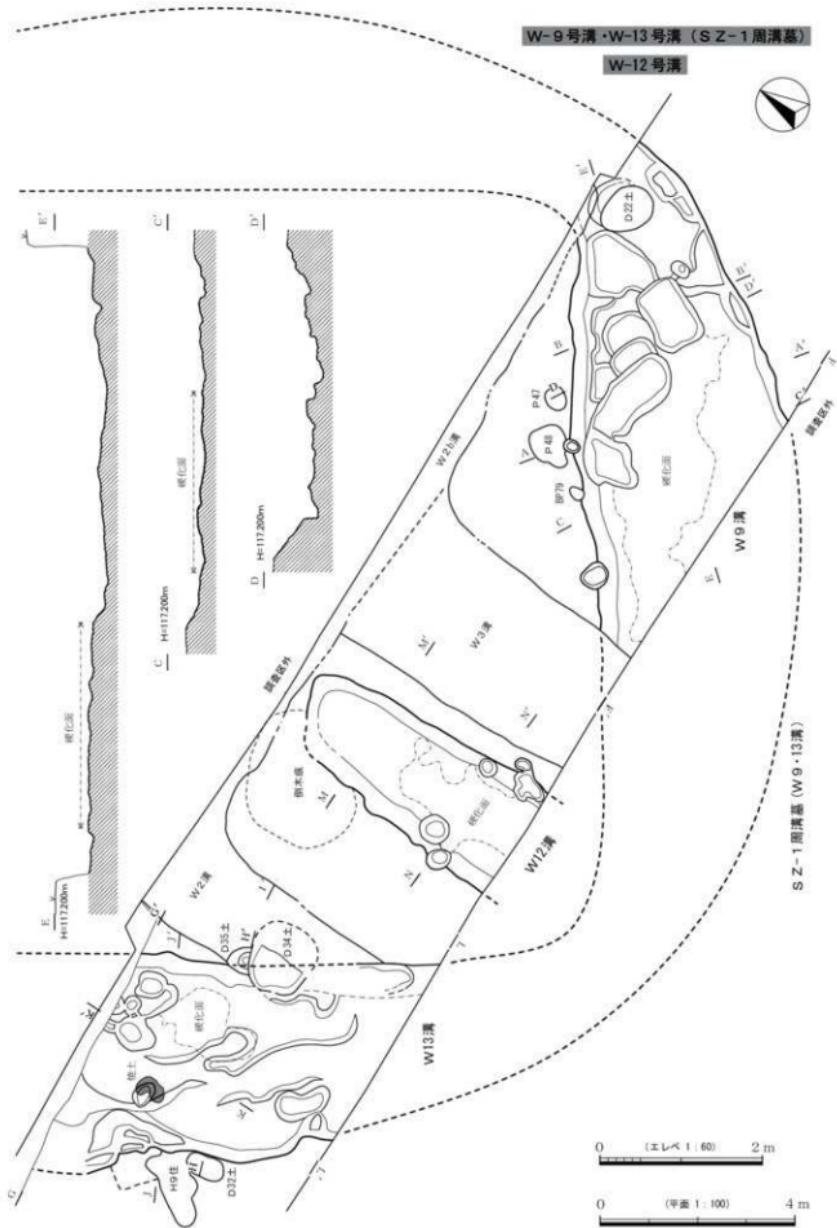


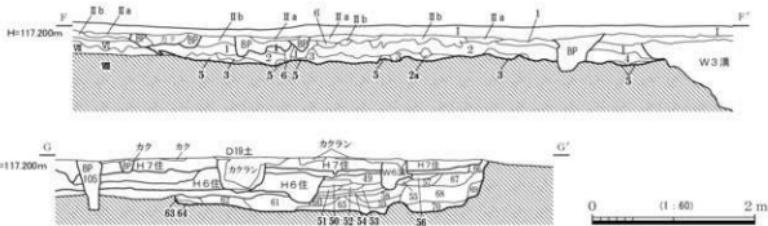
Fig. 18 [100] 遺構図 (12) W-9・13号溝 (S Z-1周溝墓) ① / W-12号溝①

W-9号溝・W-13号溝（SZ-1周溝系）



Geological cross-section diagram B, H-117, 200m. The diagram shows various rock units labeled 1 through 19. Unit 1 is at the top, followed by 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, and 19 at the bottom. Units 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, and 19 are separated by dashed lines, while units 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, and 19 are separated by solid lines.

W-9号系	土壌型別	(A'-A)
1.	暗褐色土色	しまりあり、A-C多量。Ibr-Fa灰弱ブロック微量。
2.	暗褐色土色	しまりややあり、A-C少量。Ibr-Fa灰強ブロック微量。
3.	暗褐色土色	しまりあり、A-C多量。黄褐色シルト粒少量。ブロック微量。
4.	暗褐色土色	しまりあり、A-C少量。黄褐色シルト粒微量。
5.	暗褐色土色	しまりあり、A-C少量。黄褐色シルト粒微量。
6.	褐色土色	しまりあり、A-C少量。黄褐色シルト粒微量。
7.	褐色土色	しまりあり、A-C少量。黄褐色シルト粒微量。
8.	褐色土色	しまりあり、A-C少量。黄褐色シルト粒微量。
9.	褐色土色	しまりあり、A-C無量。黄褐色シルト粘土体。
10.	褐色土色	しまりあり、A-C少量。黄褐色シルト粒微量。
11.	褐色土色	しまりあり、A-C少量。黄褐色シルト粒微量。
12.	褐色土色	しまりあり、A-C少量。黄褐色シルト粒微量。
13.	褐色土色	しまりあり、A-C少量。黄褐色シルト粒微量。
14.	褐 土 色	黄褐色シルト粒微量。灰斑。



W-13号簿 土層説明 (G-G')

1~24、H-7 位号居輪。25~28、H-6 位号居輪。

29. 黄褐色。しまりあり。A-C⁺系に多い。

30. 暗 色 級。しまりあり。A-C⁺系に多い。

31. 暗 色 級。しまりあり。

32. 暗 色 級。またやわらか。A-C⁺系多量。

33. 暗 色 級。しまりやわらか。A-C⁺系。暗褐色シルト少量。

34. 暗 色 級。しまりやわらか。A-C⁺系。暗褐色シルト多量。

35. 暗 色 級。しまりやわらか。A-C⁺系。暗褐色シルト少量。

36. 暗 色 級。しまりやわらか。A-C⁺系。暗褐色シルト中量。

37. 暗 色 級。しまりやわらか。A-C⁺系。暗褐色シルト多量。

38. 暗 色 級。暗褐色シルトブロッケ微量。

39. 暗褐色。しまり個体。A-C⁺系少量。

40. 暗褐色。暗褐色シルトブロッケ微量。

41. 暗褐色。暗褐色シルトブロッケ微量。

42. 暗~暗褐色。しまり個体。A-C⁺系。暗褐色シルト中量。

43. 暗褐色。暗褐色シルトブロッケ微量。

44. 暗褐色。しまりあり。A-C⁺系少量。

45. 暗 色 級。しまりあり。A-C⁺系。暗褐色シルトブロッケ少量。

46. 暗 色 級。しまりあり。A-C⁺系。暗褐色シルトブロッケ多量。

" A-C⁺を多く含む褐色シルトブロッケ含む。

47. 暗褐色。しまりやわらか。A-C⁺系。暗褐色シルト少量。

48. 暗褐色。しまり個体。A-C⁺系少量。

49. 暗褐色。暗褐色シルトブロッケ微量。A-C⁺を含まない褐色シルトブロッケを多く含む。

50. 暗褐色。しまり個体。A-C⁺系少量。

51. 暗褐色。暗褐色シルトブロッケ微量。

52. 暗褐色。しまり個体。A-C⁺系少量。

53. 暗褐色。暗褐色シルトブロッケ微量。

54. 暗褐色。しまり個体。A-C⁺系少量。

55. 暗褐色。暗褐色シルトブロッケ微量。

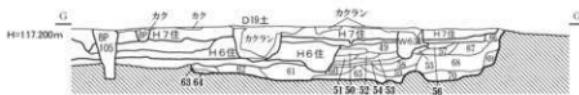
56. 暗褐色。しまり個体。A-C⁺系少量。

57. 黄褐色。しまり個体。地山色の理由。少々。

W-9 号測 土層說明(F-F')

1. 黑褐色土色 しまり弱い、粘性弱い。Ac-やで多量。
黒褐色シントク少数量。
 2. 暗褐色土色 しまりや弱い。Ac-C少量。
黒褐色シントク少量。
 - 2a. 暗褐色土色 しまりや弱いの、Ac-C微量。
黒褐色シントク微量。
 3. 暗黄褐色土色 しまり弱い。Ac-C微量。
暗褐色シントク微量。
 4. 黑褐色土色 しまり弱い、粘性弱い。Ac-やで多量。
黒褐色シントクプロア-やで多量。
黒褐色シントク少数量。
 5. 明黄褐色土色 しまり強めに弱い。白雲母粒少量。
明褐色シントク弱い。
 6. 暗褐色土色 しまり強めに弱い。白雲母少数量。
暗褐色シントク少数量。

W-9号測 土層説明(日-日')



0 (1 : 60) 2 m



W-12号理 土壤盐度 (H-H')

1. 鰐 色 上 (上部) 黄褐色。ハク中量。黄褐色シルト粒・プロック状既に多量、理屈なし。

2. 黒 鮎 色 上 黄褐色やあり。ハク非多量。黄褐色シルト粒少量。

3. 黑 鮎 色 上 黄褐色やあり。ハク少量。黄褐色シルト粒少量。

4. 黑 鮎 色 上 黄褐色やあり。ハクC量。黄褐色シルト粒中量。プロック状。

5. 黑 鮎 色 上 黄褐色やあり。ハクC量。黄褐色シルト粒中量。プロック状。研磨後。

6. 黑 鮎 色 上 黄褐色やあり。ハクC量。黄褐色シルト粒中量。プロック状。

7. 黑 鮎 色 上 黄褐色やあり。ハクC量。黄褐色シルト粒中量。プロック状。

8. 黑 鮎 色 上 黄褐色やあり。ハクC量。黄褐色シルト粒中量。プロック状。

9. 緑~青 黃褐色 上 しまりあり。ハクA量。黄褐色シルト粒多量。

10. 緑~青 黃褐色 上 しまりやあり。ハクC微量。黄褐色シルト粒多量。

11. 灰褐色~灰 黄褐色 上 しまりやあり。ハクC量。黄褐色シルト粒多量。

12. 黄 色 上 しまりあり。シルト気。

13. 黄 色 上 しまりやあり。ハクC量。黄褐色シルト粒多量。プロック状。

14. 黄 色 上 しまりやあり。ハクC量。黄褐色シルト粒少量。プロック状。

15. 黄 色 上 しまりやあり。ハクC量。黄褐色シルト粒少量。プロック状。

16. 棕褐色 色 上 しまりやあり。白色腐石微量。黄褐色シルト粒・プロック状。

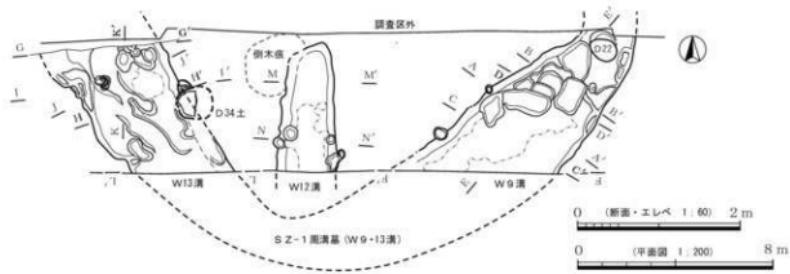
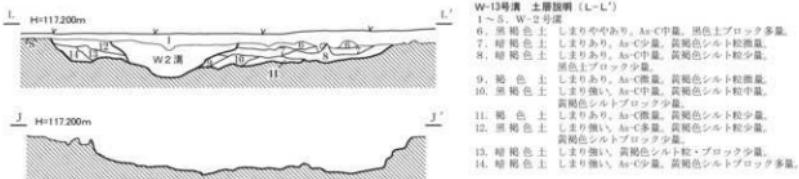
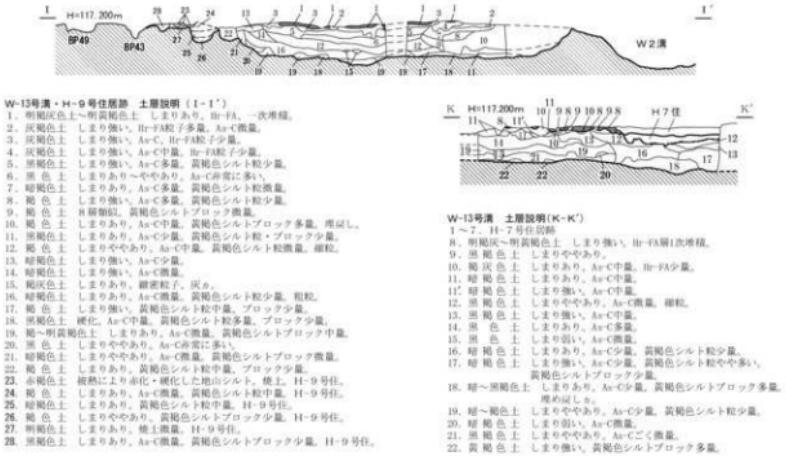
D34号土坂。

17. 棕褐色 色 上 しまりやあり。黄褐色シルト・プロック中量。D34号土坂。

18. 黄褐色 色 上 しまりやあり。黄褐色シルト・プロック。地山坂。

Fig. 19 [100] 離構図 (13) W-9・13号溝 (SZ-1周溝墓) ②

W-9号溝・W-13号溝 (S Z-1周溝墓)



W-12 号溝

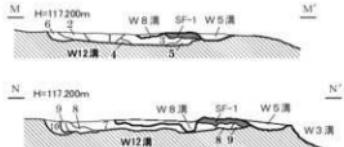


Fig. 20 [100] 遺構図 (14) W-9・13号溝 (SZ-1周溝墓) ③/W-12号溝②

W-12号溝 土層説明 (M-M'・N-N')

1. 黒褐色土 しろやかあり。Ae-C多量。
2. 暗褐色土 しろやかあり。Ae-C中量。褐黄色シルトブロッケ少量。
3. 暗褐色土 しろやかあり。Ae-C中量。褐黄色シルトブロッケ少量。
4. 褐色土 しろやかあり。Ae-C中量。褐黄色シルト粒少量。
5. 褐色土 しろやかあり。Ae-C微量。褐黄色シルト粒少量。
6. 黑褐色土 しろやかあり。褐黄色シルト粒少量。
7. 黑褐色土 しろやかあり。Ae-C少量。褐黄色シルト粒少量。
8. 褐色土 しろやかあり。褐黄色シルト粒微量。
9. 褐色土 しまさり。褐黄色シルトブロッケ量。
10. 褐色土 しまさり。褐黄色シルトブロッケ量。ピット。

0 (1:60) 2 m

0 100 200 300

[View Details](#)

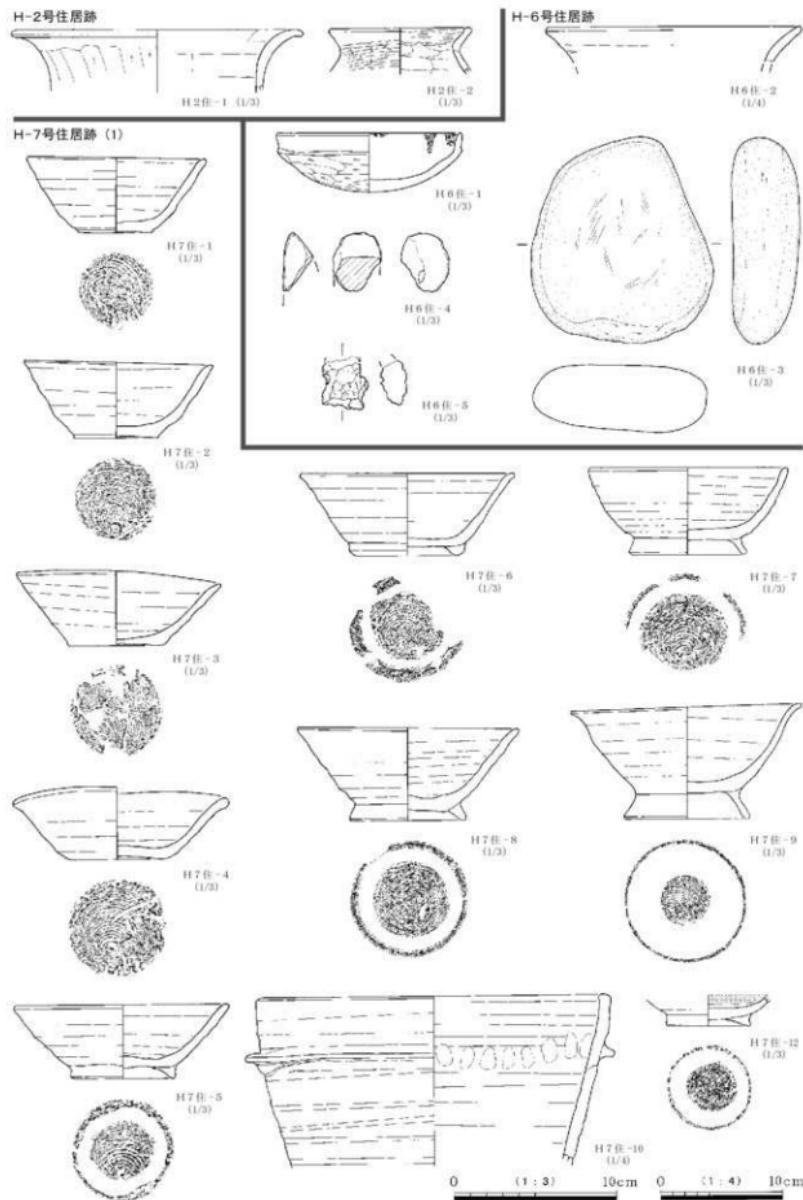


Fig. 21 [100] 遺物図 (1) H-2・6号住居跡 / H-7号住居跡①

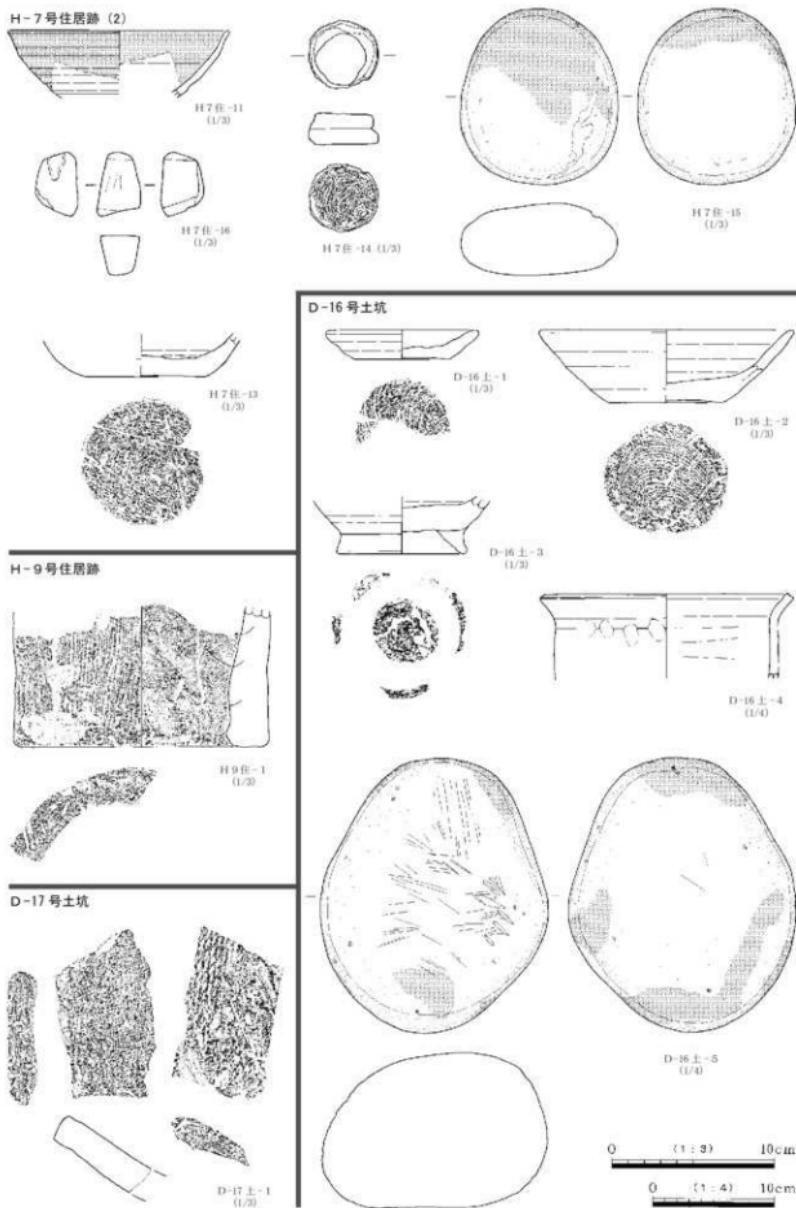


Fig. 22 [100] 遺物図 (2) H-7号住居跡② / H-9号住居跡 / P-12 / D-16・17号土坑

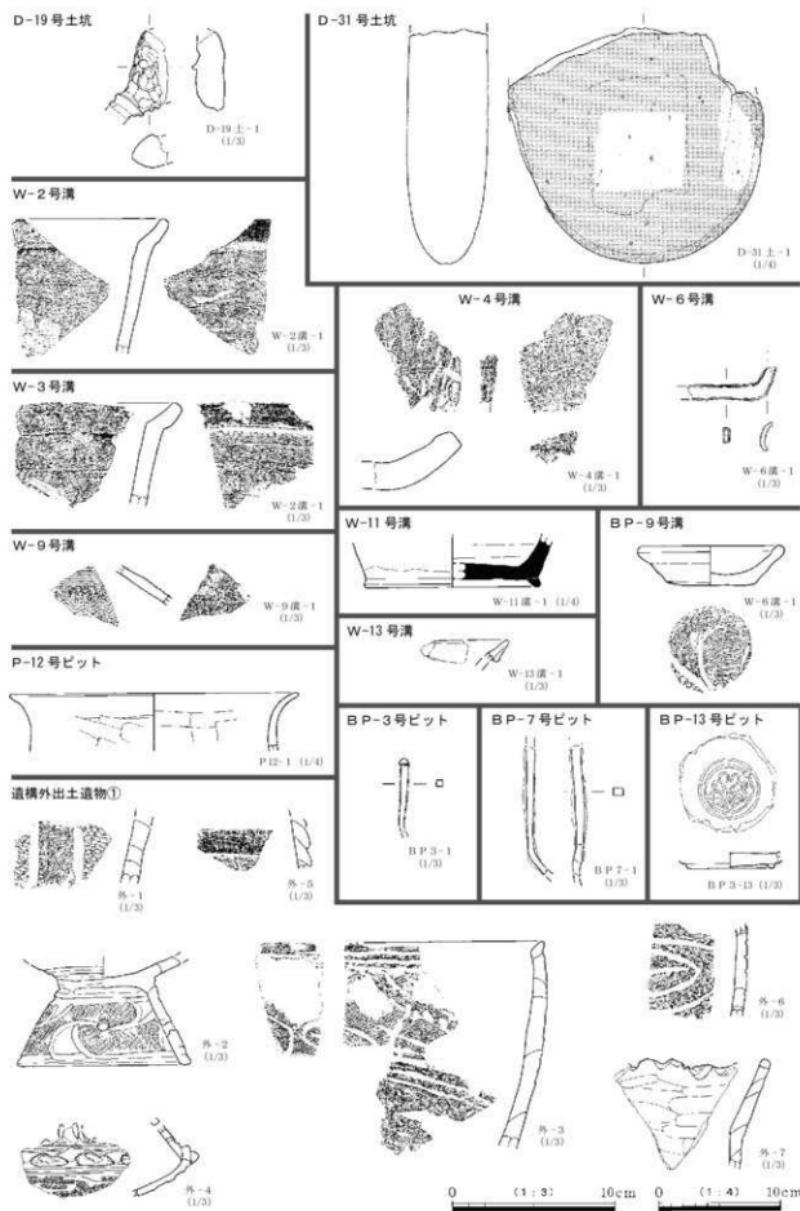


Fig. 23 [100] 遺物図 (3) D-19・31号土坑 / BP-3・7・9 / W-2・3・4・6・9・11・13号溝 / 遺構外出土遺物① 1~7

遺構外出土遺物②

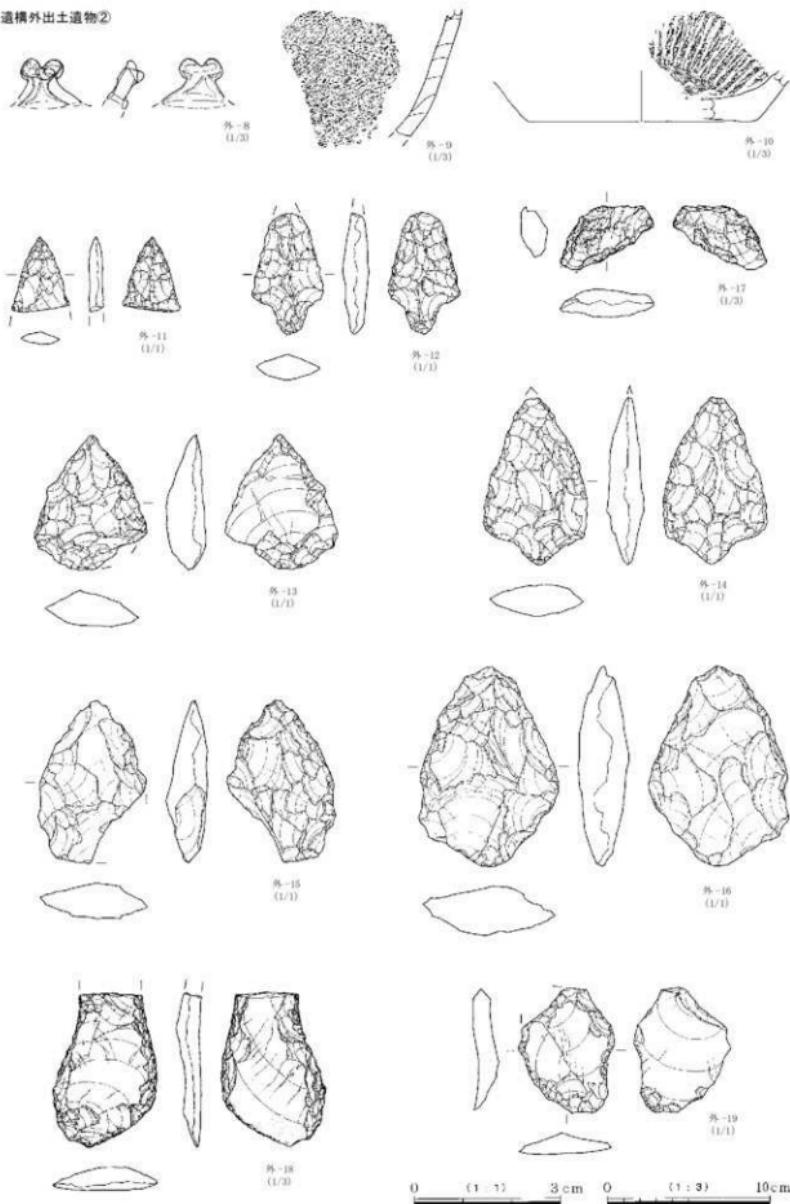


Fig. 24 [100] 遺物図 (4) 遺構外出土遺物② 8 ~ 19

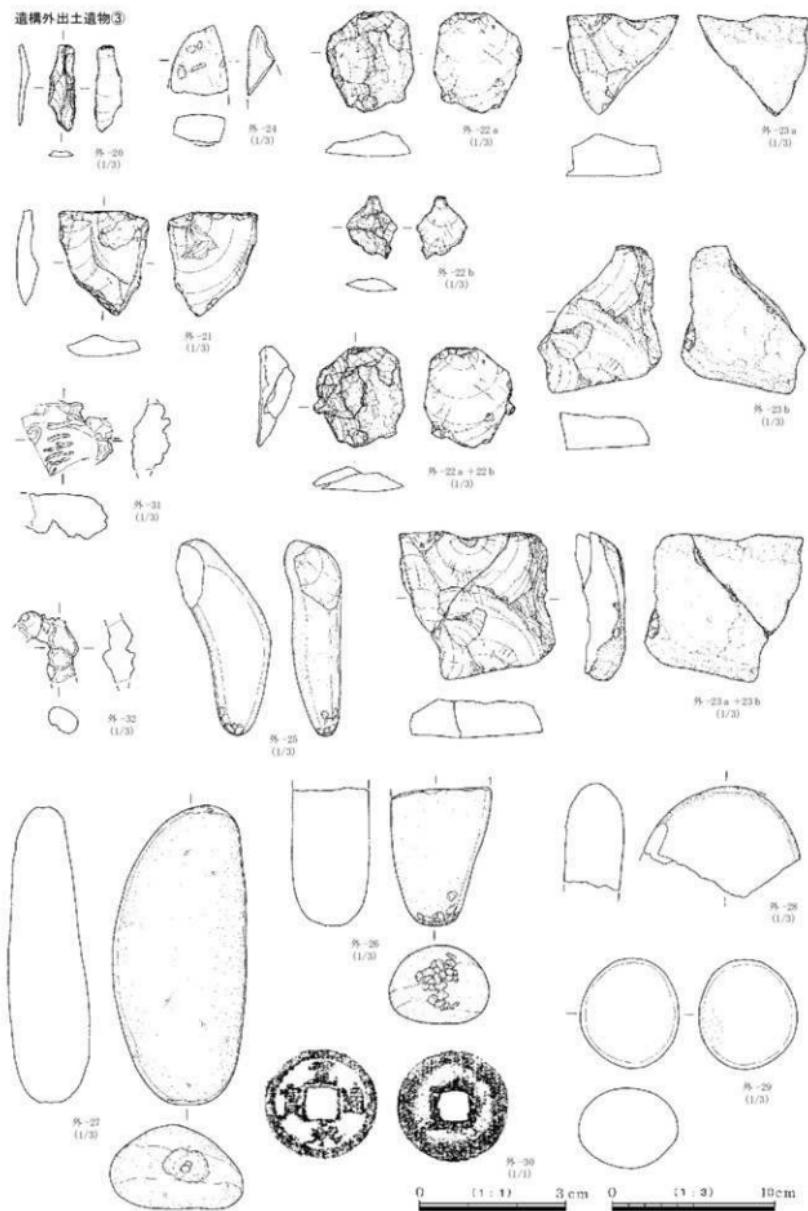


Fig. 25 [100] 遺物図 (5) 遺構外出土遺物③ 20 ~ 32

Tab. 5 [100] 出土遺物観察表(1) 住居跡

H-2号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③耐土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 壺	口径(34.0) 器高(5.1)	①酸化焰 ②にい 黄～浅黄 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部～胴部上位 1/8	外面：口縁部横ナデ。胴部横位箝ケズリ。 内面：口縁部～胴部横位箝ナデ。	覆土一括 H6・7住 覆土上層	
2	土師器 小型甕	口径(11.8) 器高(3.8)	①酸化焰 ②明褐色 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部～胴部上位 1/4	外面：口縁部横ナデ。胴部横位ミガキ。 内面：口縁部横ナデ後、横位ミガキ。胴部横位箝ナデ。	覆土一括	

H-6号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③耐土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 壺	口径 11.4 器高 3.6	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④完形	外面：口縁部横ナデ。体部～底部箝ケズリ。 一部ナデ。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部箝ナデ。	No.1	口縁部内面 に油煙付着。
2	土師器 甕	口径(21.0) 器高(2.9)	①酸化焰 ②にい 黄 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部 1/3	外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ。	H6・7住 覆土一括	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
3	石器 石	扁平な自然岩の表面・右側面に摩耗痕。表面は光沢、擦痕。黒色頁岩。 長さ 12.6 幅 11.2 厚さ 4.0 重さ 920.0			覆土一括	
4	石製品 石砥	小型砾石、筋理による欠損。2面使用。 長さ (3.55) 幅 3.0 最大厚 1.8 重さ 14.8			覆土一括	
5	鉛錠	長さ : 3.25 幅 : 2.5 厚さ : 1.5 重さ 7.51			覆土一括	
		羽口の一部が剥落したものが、発掘している。				

H-7号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③耐土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 壺	口径 11.0 底径 4.6 器高 4.6	①酸化焰 ②浅黄褐色～にい 黄褐色 ③白色粒・石英 ④口沿部完形	外面：埴輪整形。底部右回転糸切り。 内面：埴輪整形。	(H6住) No.7	
2	須恵器 壺	口径 11.6 底径 5.2 器高 4.8	①還元焰 ②にい 黄～黄灰 ③白色粒・石英 ④口沿部完形	外面：埴輪整形。底部右回転糸切り。 内面：埴輪整形。	No.11、 (H6住) No.9	内面全体に スス付着。
3	須恵器 壺	口径 12.5 底径 5.8 器高 4.6	①酸化焰 ②にい 黄褐色 ③白色粒・石英 ④口沿部完形	外面：埴輪整形。底部右回転糸切り。 内面：埴輪整形。	No.1、 中央北確認 面	内外面にス ス付着。
4	須恵器 壺	口径 13.2 底径 6.0 器高 4.5	①酸化焰 ②にい 黄褐色 ③白色粒・石英 ④口沿部完形	外面：埴輪整形。底部右回転糸切り。 内面：埴輪整形。	No.8	内外面にス ス付着。
5	須恵器 甕	口径 13.2 底径 6.4 器高 4.5	①還元焰 気味 ②灰白 ③白色粒・黑色粒 ④口縁部一体部 1/4欠損	外面：埴輪整形。底部右回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。 内面：埴輪整形。	No.4-5、 H6・7住 覆土一括	
6	須恵器 甕	口径 (13.2) 底径 (7.1) 器高 5.0	①還元焰 気味 ②灰白 ③白色粒・黑色粒・雲母 ④口縁部 1/3欠損	外面：埴輪整形。底部回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。 内面：埴輪整形。	No.4	
7	須恵器 甕	口径 (12.2) 底径 5.3 器高 5.3	①酸化焰 ②淡黄～灰黃 ③白色粒・黑色粒・褐色粒	外面：埴輪整形。底部回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。 内面：埴輪整形。	No.7、 土器集中、 上層	
8	須恵器 甕	口径 13.6 底径 7.2 器高 5.7	①酸化焰 ②にい 黄褐色 ③白色粒・黑色粒・石英 ④口縁部～体部 1/3欠損	外面：埴輪整形。底部回転糸切り後ナデ。 高台貼付時に回転ナデ。 内面：埴輪整形。	No.10	内外面にス ス付着。
9	須恵器 甕	口径 13.6 底径 7.7 器高 7.0	①酸化焰 ②にい 黄褐色 ③白色粒・黑色粒 ④口縁部～胴部上位 1/5	外面：埴輪整形。底部回転糸切り後ナデ。 高台貼付時に回転ナデ。 内面：埴輪整形。	No.11	内外面にス ス付着。
10	羽釜	口径 (29.2) 器高 (13.9)	①酸化焰 ②にい 黄褐色～明赤褐色 ③白色粒・黑色粒 ④口縁部～胴部上位 1/5	外面：埴輪整形。蹲貼付。 内面：埴輪整形。	No.3	内外面にス ス付着。
11	灰釉陶器 壺	口径 (13.6) 器高 (4.1)	①還元焰 ②耐土：灰白、釉：灰白 ③白色粒	外面：埴輪整形。体部下位回転糸切り。 内面：埴輪整形。	No.2	釉薬濁け掛 け。
12	灰釉陶器 甕	口径 5.1 器高 (1.9)	①還元焰 ②耐土：灰白、釉：灰オリ ③白色粒・黑色粒 ④底部	外面：埴輪整形。底部回転糸切り後ナデ。 高台貼付時に回転ナデ。 内面：埴輪整形。	(カマド) 上面 見込みに重 ね焼成。	
13	須恵器 壺	底径 7.6 器高 (2.6)	①酸化焰 ②にい 黄褐色 ③白色粒・黑色粒・褐色粒 ④底部 3/4	外面：埴輪整形。底部回転糸切り後、部分 的なナデ。 内面：埴輪整形。	H8住 No.1	
14	土製品 四脚 (須恵器壺)	長さ 4.05 厚さ 1.9	①酸化焰 ②にい 黄褐色～にい 黄褐色 ③白色粒・黑色粒 ④完形	上面：ナデ。 下面：回転糸切り。 側面：打ち欠き後研削。一側面は非常に丁寧。	(カマド) 上面 重さ 33.3 g。底面部 の再利用。	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
15	石器 石砾石	やや扁平な自然岩の表・裏面に平滑な摩耗痕顯著。因縫岩。 長さ 11.7 幅 9.7 厚さ 2.4 重さ 699.0		No.12		
16	石製品 石砾石	不整形な6枚体。全面使用。平滑。流紋岩。		土器集中		

Tab. 6 [100] 出土遺物観察表(2)住居跡・土坑・溝

H-9号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	円筒埴輪	底径 (20.8) 器高 (11.4)	①酸化焰 ②灰～明褐色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④底部1/4	外面：縦ハケ。ハケ目7本/2cm。底面ナデ。 内面：斜位置ナデ。下端部は縦位置ナデ。	No. 1	

D-16号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 壺	口径 (9.4) 底径 (5.8) 器高 1.8	①酸化焰 ②にぶい黄褐色～にぶい橙褐色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④①/2	外面：輪郭整形。底部回転糸切り。 内面：輪郭整形。	No. 1、下層	
2	須恵器 壺	口径 (15.6) 底径 7.2 器高 4.4	①酸化焰 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～全体3/4大崩	外面：輪郭整形。底面右回転糸切り。 内面：輪郭整形。	No. 2、上層	体部下位は 胎土2枚貼り合せ。
3	須恵器 碗	底径 (8.0) 器高 (3.5)	①酸化焰 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④底部2/3	外面：輪郭整形。底部回転糸切り後ナデ。 高台貼付時に回転ナデ。 内面：輪郭整形。	下層	
4	土器器 甕	口径 (20.8) 器高 (6.9)	①酸化焰 ②にぶい橙～にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒・小窓 ④口縁部～胴部上位1/8	外面：口縁部横ナデ。胴部指崩王痕。胴部ナデ。 内面：口縁部横ナデ。胴部横ナデ。	上層	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
5	石器 砾石	厚みのある自然円礫の表、裏面に草刷痕。砾面に織目と原紙。安山岩。				
		長さ 16.8 幅 13.9 厚さ 9.5 重さ 3034.3				

D-17号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 1.9	①酸化焰 ②にぶい黄褐色 ③黑色粒・砂粒 ④狭端部左側破片	凹面：布目压痕後、端部捻ナデ。凸面：調印き、側面：捻ナデ。 狹端部：捻ナデ。	覆土一括	

D-19号土坑

番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鉄滓 泥動渣	長さ : 5.4 幅 : 3.6 厚さ : 2.1 重さ : 31.21		覆土一括	

D-31号土坑

番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	円錐 礫石	扁平な自然錐。ほぼ全面に煤が付着するが、表面中央のみ方形に煤が付着しない柱状崩剥明瞭。砂岩。		覆土下層	B混柱穴。
		長さ 20.2 幅 21.0 厚さ 6.6 重さ 4050			

W-2号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鍋	器高 (8.2)	①酸化焰 ②灰 ③白色粒 ④口縁部～胴部破片	外面：輪郭整形。 内面：輪郭整形。	覆土一括	内耳土器
2	青磁 碗		①還元焰 ②胎土：灰白、輪：明緑灰 ④体部破片	外面：輪郭整形。 鏽迹有文。 内面：輪郭整形。	覆土一括	写真のみ。 釉薬厚い。

W-3号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鍋	器高 (6.3)	①酸化焰 ②黒褐色～灰暗黃 ③白色粒・ 黒色粒・褐色粒 ④口縁部～胴部破片	外面：輪郭整形。 内面：輪郭整形。	覆土一括	内耳土器

W-4号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 1.6	①還元焰 ②灰黃～にぶい黄褐色 ③砂粒・チャート ④狭端部左側破片	凹面：布目压痕。 端面取り。 凸面：捻ナデ。 側面：捻ナデ。 狹端部：捻ナデ。	上層	

W-6号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鉄製品 鍔カ	長さ : 5.4 幅 : 0.7 厚さ : 0.25 重さ : 8.6 端部欠損。			覆土一括	

W-9号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	再生土器 壺		①酸化焰 ②にぶい黄褐色～浅黄 ③白色粒・黒色粒 ④胴部破片	外面：胴部捻ナデ後、平行線文・櫛推波状文。 赤彩。 内面：胴部捻ナデ。	No. 1	

Tab. 7 [100] 出土遺物観察表 (3) 溝・ピット・遺構外出土遺物

W-11号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 壺	底径 (14.5) 高さ (4.3)	①還元焰 ②黄灰～灰 ③白色粒・黒色粒 ④底部 1/4	外面：輪轂整形。底部ナゲ、高台貼付時に回転ナゲ。 内面：輪轂整形。	No.1	

W-13号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 壺		①酸化焰 ②にぶい褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部破片	外面：口縁部横ナゲ。 内面：口縁部横ナゲ。	覆土一括	折り返し口縁。

P-12号ピット

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 甕	口径 (23.8) 高さ (4.7)	①酸化焰 ②にぶい赤褐色 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④口縁部～胴側上位 1/8	外面：口縁部横ナゲ。胴部斜面 kazari。 内面：口縁部横ナゲ。	No.1	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
2	罐 被熱罐	強い被熱により発瘤、破綻。安山岩。重さ 211.6			覆土一括	写真のみ。

BP-3号ピット

番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鉄製品 鉄舟釘	長さ 4.15 幅 0.45 厚さ 0.4 重さ 3.22 端部欠損。		覆土一括	

BP-7号ピット

番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鉄製品 鉄舟釘	長さ 7.9 幅 0.6 厚さ 0.45 重さ 11.4 両端部欠損。		覆土一括	

BP-9号ピット

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	かわらけ	口径 9.0 底径 5.4 調高 2.5	①酸化焰 ②にぶい黄褐色 ③黒色粒・雲母 ④口縁部～全体 1/4 欠損	外面：輪轂整形。底部回転無切り。 内面：輪轂整形。	覆土一括、H 8住、W 6漢 東駕、表土	

BP-13号ピット

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 灰釉皿	底径 5.3 調高 (1.0)	①還元焰 ②胎土：灰白、釉：灰オリーブ ③白色粒・細砂粒 ④底部	外面：輪轂整形。底部ナゲ、高台貼付。底 部無切、高台部灰塗。 内面：輪轂整形。見込み灰塗、劃花。	覆土一括 古漚戸。 高台内輪ト チ。	

遺構外出土遺物①

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	織文土器 深鉢		① ②黄褐色～にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④胴部破片	単沿 LR 織文施文後、平行する單次線を縫合し、区画内に滑消。	W 8号戸	中期後葉 加賀利E 3式
2	織文土器 台付鉢	底径 (10.6) 高さ (6.6)	① ②オリーブ黒～黒 ③白色粒・石英・角閃石・輝石 ④胴部下位～台部	胴下部から台部にかけて横腹單次線を 5 条以上施文。台部は単沿 LR 織文施文後に中央 4ヶ所に穿孔し、この円孔を起点にして弧状・S字状單次線を施し、入組三叉文とする。	W 3号戸 No.1	晚期前半 大洞B 2式
3	織文土器 深鉢		① ②黒～茶リーブ黒 ③石英・角閃石・輝石 ④口縁部・胴部破片	口縁部下に平行する 3 条の横腹次線。胴部に単沿 1 号織文施文後、平行する 2 ～ 3 条の单次線で断続区画を描出し、滑消し。	D 2号土坑、 表土	晚期前半 大洞B式
4	織文土器 注口土器 もししくは 香炉形土器		① ②にぶい黄褐色 ③白色粒・片岩 ④口縁部破片	口縁部をしめ取り。口縁部には 2 個 1 对の小突起を連続的に貼付し、突起間に胴上部に隙刻三文を施す。胴下部は単沿 LR 織文施文後、単次線によって雲形文を描出。	W 13号戸	晚期前半 大洞C 1式
5	織文土器 粗製深鉢		① ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒・角閃石 ④胴部破片	複数段の縫合縁の深鉢。口縁部粘土帯をヒ ズ状に残して接合形成。	W 13号戸	晚期前半 安行 3式併行
6	織文土器 深鉢		① ②にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部破片	やや深い単沿縁を横置・弧状・環状に施文する。	W 13号戸	晚期前半 安行 3式併行
7	織文土器 粗製深鉢		① ②灰黄 ③白色粒・黒色粒・片岩 ④口縁部破片	口唇部は竹管状工具によって押圧され、不規則な小波状を呈する。口縁部～胴上部は輪轂ナゲ、ケズリ痕が顕著。	W 12号戸 No.1	晚期前半 安行 3式併行
8	織文土器 突起		① ②明黄色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁突起	2本の粘土紐を合わせて三角形状に成形。頂部には 2 つの円形小突起を貼付。内外面に陰刻三叉文。	H 7・8住 灰層	晚期前半 大洞A式

Tab. 8 [100] 出土遺物観察表(4) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物②

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③紡土 ④残存	成・整形技法の特徴		出土層位	備考
				制下部。単面1.8周文を全面施文。	表面・輪縁整形。底部ナゲ。		
9	陶文土器 粗製壺鉢		① 法明赤褐・灰暗黄 ② 白色粒・黒色粒・チャート・石英 ③ 白色粒 ④ 脚部破片			W 13号構	晚期前半カ
10	炻器 壺鉢	底径 (14.0) 器高 (3.1)	① 法明赤褐 ② 白色粒 ③ ④ 体部下部~底部 1/5			表土	壺・明石系 外底面削成。
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考		
11	石器 石鏟	先端部のみ残存。全面に2次調整。黒色安山岩。 長さ (1.55) 幅 (1.2) 最大厚 0.3 重さ 0.4			中央確認面		
12	石器 石鏟	凸基有茎。先端部欠損。黒色安山岩。 長さ (2.15) 幅 (1.49) 最大厚 0.54 重さ 1.51			H 9号住 焼土直下		
13	石器 石鏟	円基。未製品か。裏面に主要剥離面残存。表面は2次調整、微細剥離顯著。頁岩。 長さ (2.76) 幅 (2.32) 最大厚 0.73 重さ 4.06			W 13号構		
14	石器 石鏟	凸基有茎。全面に2次調整。微細剥離。黒色頁岩。 長さ (3.46) 幅 (2.14) 最大厚 0.77 重さ 4.47			表土		
15	石器 石鏟	平基。基部欠損。全面2次調整、一部微細剥離。頁岩。 長さ (3.33) 幅 (2.21) 最大厚 0.88 重さ 5.47			H 9号住		
16	石器 石鏟	凸基有茎か。未製品。全体に2次調整、裏面に主要剥離面残存。黒色安山岩。 長さ (4.1) 幅 (2.9) 最大厚 1.04 重さ 11.0			H 1号住		
17	石器 画面加工石器	全体に2次加工を施し、一部調整剥離。スクレイバーカ。黒色安山岩(外-2と類似)。			W 13号構		
18	石器 打製石斧	形態もしくは分離形。基部欠損。刃部摩耗顯著。頁岩。 長さ (9.49) 幅 (6.36) 最大厚 1.5 重さ 89.5			W 9号構		
19	石器 RF	剥片周縁部に微細剥離。チャート。 長さ 2.69 幅 2.0 最大厚 0.45 重さ 2.02			D 32号土坑		
20	石器 RF	研磨剥片の両側縁に微細剥離。チャート。 長さ 5.34 幅 1.61 最大厚 0.49 重さ 3.53			W 13号構		
21	石器 RF	側縁へ下端に微細剥離。ホルンフェルズ。 長さ 6.6 幅 5.5 最大厚 1.32 重さ 50.8			W 13号構		
22a	石器 スクレイバー	22bと接合資料。左側縁に2次加工と微細剥離。黒色安山岩。 長さ 6.2 幅 5.4 最大厚 1.5 重さ 50.6			W 13号構		
22b	石器 剥片	22aと接合資料。22aから剥離された剥片。黒色安山岩。 長さ 3.82 幅 3.1 最大厚 0.79 重さ 7.8			W 13号構		
23a	石器 石棒	23bと接合資料。上左右4方向から剥離して板状の残株の、左側中央剥離面に加壓して23a・23bに分割。分離後の剥片剥離は認められない。長さ 6.14 幅 6.89 重さ 185.6			W 13号構		
23b	石器 石棒	23aと接合資料。長さ 8.2 幅 7.95 重さ 109.0 23a・23b・長さ 9.28 幅 9.03 最大厚 2.57			W 13号構		
24	石器 磨製石斧	定角式斧形。基部のみ残存。4面を平面にて研磨。簡形による欠損。流紋状。 長さ (4.3) 幅 3.5 最大厚 (1.7) 重さ 22.2			東側確認面		
25	石器 卯石	不整形な棒状縁の下端部に敲打痕。上端部は敲打による剥離か。緑色岩類。 長さ 11.9 幅 3.9 厚さ 2.95 重さ 229.7			W 3号構		
26	石器 卯石	棒状縁の下端部に敲打痕が顯著。上半部欠損。砂岩。 長さ (8.5) 幅 6.15 厚さ 4.8 重さ 355.5			W 3号構		
27	石器 卯石	長楕円形の扁平縁の両端部と、左側縁の一部に敲打混。やや熱然。筒縁状。 長さ 18.3 幅 8.2 厚さ 5.2 重さ 1032.6			H 11号住		
28	石器 磨石	片面のみ平滑に磨耗。敲打による破碎の可能性あり。黒色安山岩。 長さ (6.8) 幅 (9.55) 厚さ (3.55) 重さ 281.7			D 20号土坑 No. 2		
29	石器 磨石	小型。扁平縁状。全体に磨耗痕。砂岩。 長さ 6.7 幅 6.0 厚さ 4.9 重さ 284.5			H 13号住		
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考		
30	古錢	長さ : 2.35 幅 : 2.35 厚さ : 0.1 重さ : 2.72 完形。「寛永通宝」。		東側確認面			
31	鉄滓 流動滓	長さ : 4.4 幅 : 5.5 厚さ : 2.75 重さ 86.16		表土			
32	鉄滓 流動滓	長さ : 4.3 幅 : 3.75 厚さ : 1.95 重さ 24.66		W 4 構南側 櫻丸			

元総社蒼海遺跡群（101）

VI 標準堆積土層

(101) 調査区の現況は北西から南東へと緩やかに傾斜する台地で、東側の低地（沼）からは幅の狭い谷（現道）が調査区方向に向かって抉りこんでいる。調査区北側の平坦面には埋没谷が存在するよう、調査区中央付近を境にして、黒色土（黒ボク土）の土質が変化する。

表土は全体に厚く、古代の遺物包含層（VI層）までが約1m、総社砂層の漸移層（VII層）までが約1.4mを測る。特にAs-A混土・As-B混土が厚い。IV層B混土中には、乾燥するときラミナ状の縞模様を呈する硬化薄層が顕著に観察できる。これは中世の土坑覆土中にも認められるが、成因は不明である。南側隣接調査区・元総社蒼海遺跡群（75）で確認された巨大な蒼海城外郭堀は、厚いB混土（III・IV層）を切っている。中世の遺構群はV層直下で検出した。V層下のW-1号溝が白色シルトで埋没していることから、この頃に西方で洪水が起ったものと推測する。VII層はAs-Cを多量に含む黒色土で、北側ほど顕著である。VII-XI層は縄文時代の包含層と推定され、南側は細粒で乾燥し、僅かながら北側ほど粘性が高い。北端部は東西方向の埋没谷へと落ち込む地形変換点にあたり、XIII-XIV層は北端部でのみ確認できる土層堆積である。おそらくは総社砂層の堆積完了時点においてすでに谷地形は存在し、縄文時代には浸食とともに谷頭の埋没が進行していったものと推測する。

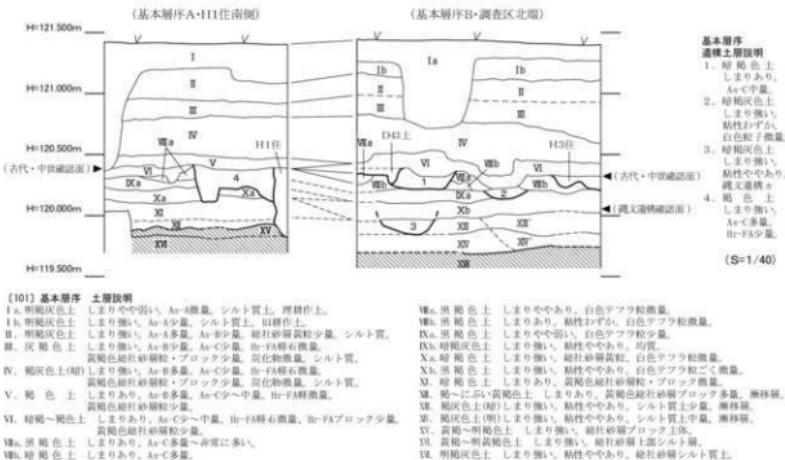


Fig. 26 [101] 標準堆積土層

VII 遺構と遺物

1. 遺跡の概要

本遺跡は字草作で、元総社小見遺跡・元総社草作遺跡などと隣接する。蒼海域の最外郭部にあたり、直前に調査された南側隣接調査区（元総社蒼海遺跡群75）では、深さ2m以上の外郭堀が開口していた。

調査の結果、縄文時代後期・古墳時代後期（7世紀後半）・古代・中世にかけての集落遺跡であることが判明した。加曾利B式期の土坑群、9世紀以前の掘立柱建物跡、10世紀前半の埋葬人骨が確認できたことは、注目してよいだろう。以下、各時代ごとに概要を記述し、個別遺構については遺構一覧表を参照されたい。

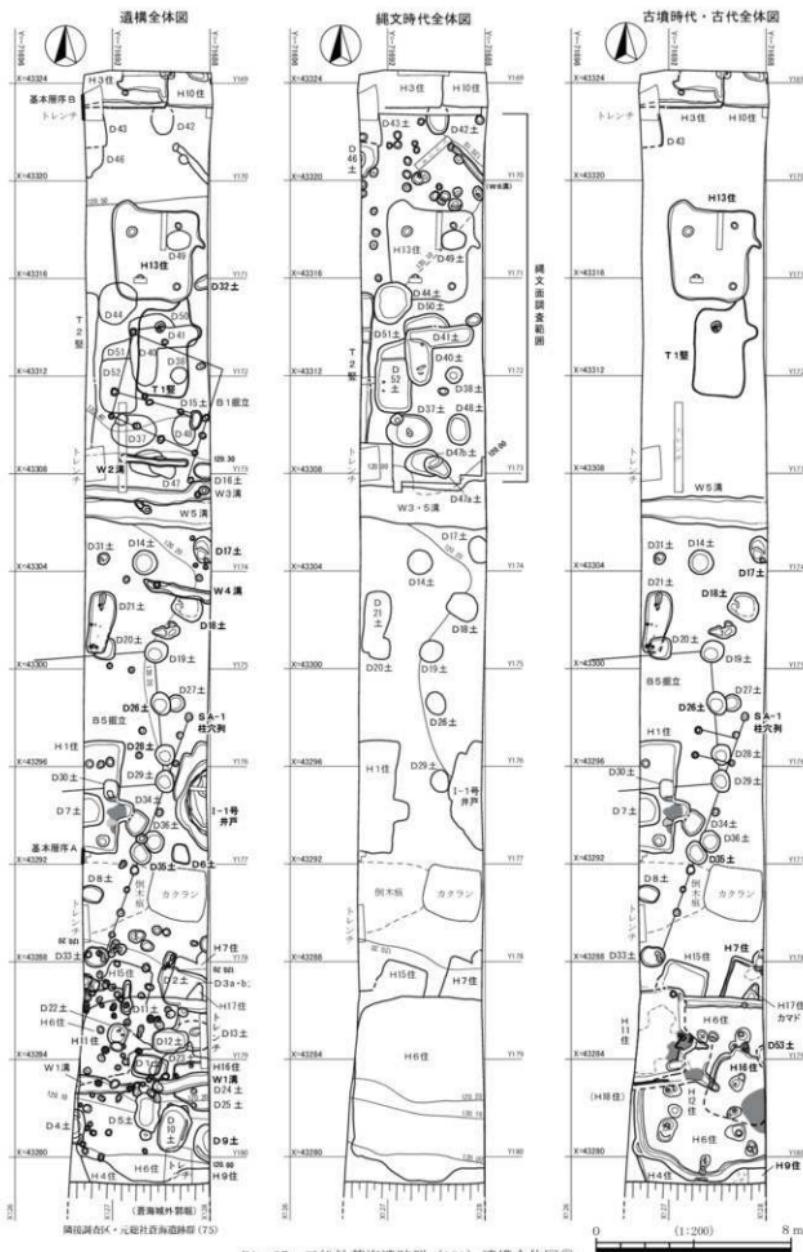


Fig. 27 元總社蒼海遺跡群（101）遺構全体図①



Fig. 28. 元絶社蒼海遺跡群(101)
遺構全体図②

縄文時代

後期中葉の土坑 13 基・竪穴状遺構 1 基ならびにピット群を確認した。南側では縄文土器が皆無であることから、時間的制約もあり、縄文面の調査範囲は北側に限定した。D-21 号土坑付近を境にして北側は、埋没谷へと徐々に傾斜してゆく地形にある。遺構確認は非常に困難であり、形状の誤認や遺構自体の見落としを完全には否定できない。土坑は隅丸長方形や楕円形を主体とし、重複が著しい。遺物量は極めて少ないながらも、多孔石や板状陶のみを伴う土坑もあり、土坑形状も考慮して、大半は墓坑と推定する。包含層遺物も含めて、土器は加曾利 B 式にほぼ限定される。T-2 号竪穴状遺構は壁際にあり、詳細不明ながら、2~3 基の土坑が重複したものかもしれない。W-6 号溝としたものは、竪穴住居壁周溝の一部と推測している。明晰な墓群を伴う後期集落が埋没谷頭に沿って展開する様相が想定され、今後の調査では注意を要する。

古墳時代-古代

本遺跡の主体となる時代で、竪穴住居 13 軒・竪穴状遺構 2 基・掘立柱建物跡 1 棟・柱穴列 1 条・土坑 12 基・溝 1 条を確認した。遺構は南側に集中して、重複が著しい。H-4 号および H-9 号住居跡は一部しか残存せず、詳細不明だが、7 世紀代であろう。H-7・15 号住居跡は小規模な竪穴で、カマド煙道部のみ確認した H-17 号住居跡も含めて主軸方位が相同である。SA-1 号柱穴列も主軸方位が近似し、同時期と推測する。

H-6 号住居跡は南北 6.9 m (最大 7.5 m) × 東西推定 5.8m の大型住居跡である。隅丸長方形を呈し、南側に明晰な出入口張出部を設ける。当初は複数軒の重複と想定していたため、H-5・7・8 号は欠番となつた。6 本主柱穴・周溝内補助柱穴・出入り口ピット・棟筋補助柱穴で構成される。中央部にはシルトで埋め戻された 4 本主柱穴があり、竪穴・上屋の拡張・更新が明晰な事例である。貯蔵穴は不整形で小さく、調査区外のカマド脇にもう 1 基存在する可能性がある。竪穴は地山の黄褐色シルトブロックや褐色土によってある程度埋め戻され、P1・P5 の土層断面を見ると、埋戻し後に主柱を抜き取ったことが判る。ただし、東列中央の P2 はシルトで硬く埋め戻されており、P2 の直上に構築された H-16 号住居跡が関与しているものと推測する。H-16 号住居跡は 8 世紀代と推定される。H-6 号住居跡としての調査中に確認したため床面と西・南壁が不明となってしまったが、土層断面からおおよその大きさ・形状を復元した。床面には灰混じりの土層が堆積する。

10 世紀前半の H-11 号住居跡も H-6 号住居の覆土中に構築される。東・南壁を明晰に確認できなかったが、貼床の硬化は顯著で、カマド焚口や前庭の灰層は厚い。H-12 号住居跡はカマドと南壁しか認識することができなかつた。出土遺物は元々 H-6 号住居跡に伴うものと考えられ、竪穴やカマドの形状・構造からは 10 世紀代と推測される。H-12

住→H 11 住へと連続的な推移が想定される。北壁のH-3・10号住居跡（H-3号が新しい）も10世紀前半頃と考えられる。埋没谷上に構築され、全体像は不明である。縁釉陶器片が出土したW-5号溝は南・北住居群のほぼ中間を東西に走行し、黒ボク土質の変換点にも相当する。微地形と土壤の違いを考慮した土地区画溝の可能性がある。

H-13号住居跡は浅く不整形な竪穴で、As-C混土を覆土とする。実際には性格不明な竪穴状遺構であり、調査時遺構名をそのまま採用した。遺物は繩文土器や石器のみで、時期判断は難しい。ピット4基を確認したが、竪穴に伴わない可能性もある。隣接するT-1号竪穴状遺構も非常に浅い性格不明遺構で、As-C混土を覆土とする以外、時期判断の材料に欠く。当初はC混水田の可能性を探索したが、最終的には竪穴として記録した。

B-5号掘立柱建物跡（各柱穴は土坑として登録）は、梁間2間、桁行2間以上の東西棟建物で、北東の柱穴は隅丸方形を呈する。土層断面では柱痕が明瞭だった。時期を特定する遺物は出土していないが、北東隅の柱穴（D-20号土坑）はD-21号土坑（10世紀前半の墓坑）によって切られ、南辺の柱穴（D 30号土坑）はH-1号住居跡（9世紀第4四半期）に壊されている。建物柱穴以外の土坑は計13基確認した。浅い土坑が多く、7世紀後半～10世紀代に収まる。D 7号土坑はH-1号住居跡を破壊しており、10世紀代と思われる。古代のピットは少数限定的で、直線的に並ぶピット8基+2基をもってSA-1号柱穴列と判断した。この時期の土坑群はSA-1号柱穴列の西側およびW-5号溝の南側に集中する。SA-1号柱穴列の主軸はH-7・15・16号住居跡と近似しており、9世紀代の可能性があるB-5号掘立柱建物跡とは重複することから、柱穴列の時期は7世紀代～8世紀代と推測する。土地利用に関して区画の面で一定の制約が働いていたものと考えられる。

D-21号土坑は10世紀前半の墓坑である。頭蓋骨と四肢骨の一部が検出され、鑑定の結果、20～30歳代の成人女性と推定された。上顎右第1切歯に特徴的な摩耗が認められ、いわゆる「親不知」は水平萌出している。頭位は北を向いた伸展葬で、体の右側に須恵器碗1点が置かれ、土坑南端には体部に焼成後穿孔のある須恵器小型壺と須恵器碗2点が副葬されていた。うち1点には内面に「寸」の墨書がある。碗の間からは鉄釘2本が検出され、木質が付着している。土層断面からは棺の痕跡は認められなかった。小型壺以外は底面からかなり浮いており、土層断面8層を見る限り、南端の副葬品は南半部埋戻し直後に再掘削して埋納したものと推測する。

中世

中世遺構は掘立柱建物跡4棟以上やピット99基（B-2～4号建物跡含む）、柱穴列2条、土坑18基、井戸1基、溝3条を確認した。遺構は南側に集中する。各遺構の新旧重複関係と主軸方位から、1期：B 1建物・SA 3柱穴列および土坑群→2期：B 2号建物・W 2～4号溝・SA 2号柱穴列→3期：B 3号建物→4期：W 1号溝→5期：B 4号建物 という変遷を想定する。北部のB 1建物とSA-3号柱穴列は軸が一致しており、同時期であろう。ほぼ等間隔で直線的に並ぶピット群を柱穴列としたが、例えば畠地などの区画を表示するような施設と想像する。並走するW-2～4溝には扇のサクの可能性があり、SA-2号柱穴列とW-4溝が直交する点に注意しておきたい。土坑群は形状や覆土から3群に分かれる。南端のD-4・5・9・10 b号土坑は楕円形で、As-Bの混入量が多い。北側のD-2・3a・3b・12・23号土坑は隅丸長方形を基調とし、D-13・24・25号土坑は非常に浅い。出土遺物はほぼ皆無ながら、南・北群はその特徴的な形状から、墓坑と推定する。As-Bの混入量から推察して、北群の方が新しい可能性がある。B 2号建物は推定面積が40m²を超える主屋であろう。ラミナ状に堆積した白色極細粒シルトで埋没していたW-1号溝はD-24・25号土坑を切る。西側からの洪水層堆積物と推定する。B-4号建物のピット覆土には白色シルトが混入する。D-10a号土坑はD-10 b号土坑覆土中に掘削された長楕円形土坑で、シルトブロックとAs-B混土で一括埋戻しされている。I-1号井戸は安全を考慮して完掘しなかったが、南部建物群に伴う井戸であろう。遺物は遺構外のかわらけ1点以外ほぼ皆無なため中世遺構群の時期特定は非常に難しいが、隣接調査区の堀を16世紀と仮定した場合、堀の上端からW-1号溝確認面まで40～50cmの堆積土が存在するため、遺構群全体としては14～15世紀頃と想定される。

Tab. 9 [101] 道構一覧表 (1)

住居跡・壁穴状道構一覧表 (H-2・5・8・14号住居跡は欠番) 単位:m

道構名	グリッド	平面形	主軸方位	長軸×短軸×深さ	カマド	貯蔵穴	遺物	所見	時期
H-1号住居跡	X 127, Y 177	楕丸形	N-93°-E	4.58 × (1.64) × 0.47	不明	南東隅	乳頭器、土師器等	(D 7・34土に切られ、D 30土・(B 5断面)を擴す。	9世紀後半 第4四半期
H-3号住居跡	X 127・128, Y 169・170	方形	N-90°-E	(3.49) × (1.53) × 0.23 (断面0.36)	外、東	不明	乳頭器等	H 10住を切る。南側にわたりかね段。	10世紀 前半
H-6号住居跡	X 274, Y 153	楕丸形	N-2°-E	6.96 × 7.52 × (0.28)	内・外	南東隅 小規模	乳頭器等・櫛・鉢、土師器等	南壁に出入り口張出と梯子穴、6本柱柱穴。建替之後は4本柱穴。	7世紀後半
H-7号住居跡	X 128, Y 178	正方形	N-18°-E	(1.75) × (1.67) × 0.38	北壁	不明	乳頭器等、土師器片	H 6・17住に切られる。	7世紀後半
H-9号住居跡	X 128, Y 181	不明	不明	(-) × (-) × 0.23	不明	不明		H 6住、着床城壁に上って破壊。H 4住と同一か	7世紀代
H-10号住居跡	X 128, Y 170	楕丸形	N-2°-E	(2.20) × (1.44) × 0.10 (断面0.44)	外	不明	灰陶胸器蓋、瓦片、小判状製品	H 3住に切られる。西壁部に小切口。	10世紀代
H-11号住居跡	X 127・128, Y 179・180	楕丸形	N-79°-E	(2.20) × 3.63 × 0.44	東壁南側	南東隅	乳頭器等・櫛、羽茎	H 6・12・15住を切る。	10世紀前半
H-12号住居跡	X 127・128, Y 179・180	楕丸形	N-82°-E	(3.26) × (0.75) × 0.74	南東隅	不明	乳頭器等、土師器等	H 6・15住を切る。H 11住はほぼ重複。	10世紀前半
H-13号住居跡	X 128, Y 171	不整楕丸 長方形	N-0°-	3.61 × 3.59 × 0.15	—	—	圓土器底、石器	Ar-C 脣黒色覆土。古墳～古代窓穴道構。	古墳～古代
H-15号住居跡	X 128, Y 179	不整楕丸	N-17°-E	2.02 × (1.29) × 0.39	不明	不明	土師器片	H 6・11住に切られる。窓穴道構。	7世紀代
H-16号住居跡	X 128, Y 180	楕丸正方形	N-19°-E	(2.47) × (1.98) × 0.66	不明	不明	乳頭器等・櫛・片口	H 6住擅土中に構築。床面に瓦混土。	8世紀代
H-17号住居跡 (カマドのみ)	X 128, Y 180	—	N-22°-E	(0.76) × (0.64) × 0.29	北カマド	—	—	カマドのみ。H 7住を破壊し、木造住に切られる。	7世紀代
H-18分住居跡 (西壁跡のみ)	X 127, Y 180	不整楕丸	—	—	—	—		H 11住の南側西壁のみ確認。H 6・11住より古い。	7世紀代
T-1号 壁穴状道構	X 128, Y 172・173	不整楕丸 長方形	N-5°-E	3.51 × 1.99 × 0.05	—	—		Ar-C 脣黒色覆土。古く窓穴道構。	古墳～古代
T-2号 壁穴状道構	X 127, Y 172・173	楕丸	N-0°-	9.40 × (0.50) × 0.22	—	—		2基重複か。堅穴住の可能性あり。	調査時代 後半

掘立柱建物跡・柱穴列一覧表 単位:m

道構名	グリッド	平面形	主軸方位	棟方向	梁間×行距/構成/桁行平均勾配/床面/所見	時期
B-1号	X 128, Y 172・173	平行四辺形	N-66°-W	東西棟	2.58 × 3.51 × 3.96, 1間 × 3間 + 下梁。桁行平均1.222 × 4.06尺。面積13.9 m ² 、身寄8.6 m。中世 掘立柱建物跡	中世
B-2号	X 127・128, Y 178・180	長方形	N-13°-E	南北棟	全体5.02 × 8.92、身寄4.13 × 5.94。S A 3柱列同時にS A 4柱列	中世
B-3号	X 127・128, Y 178・180	長方形	N-1°-W	南北棟	3.99 × 3.79 × 6.04 × 5.94、2間 × 3間 + 下梁。桁行平均1.983 × 6.54尺。 梁間平均柱間1.93 × 6.6尺。P 13・17・22・31・54・68・75・78	中世
B-4号	X 127・128, Y 178・180	長方形	N-80°-E	東西棟	2.96 × 2.66以降、2間 × 3間以上。残存桁行平均1.322 × 4.36尺。 白色シート張出しロットの移動、束柱1系統。P 29・32・38・42・51・55・99	中世
B-5号	X 127・128, Y 175・177	長方形	N-96°-E	東西棟	5.41 × 2。2間 × 2間以上。残存桁行平均2.195 × 7.24尺。 D 19・20・26・29・30土で構築。柱間明瞭。	9世紀後半4/8 中期以前
S.A-1号 柱穴列	X 127・128, Y 176・178	—	N-20°-E	柱穴8系×2系	柱間は1.90 ~ 2.06 mを測る。半開位置のピット2基。北側に突出。古墳～古代	古墳～古代
S.A-2号 柱穴列	X 127・128, Y 174・175	—	N-16°-E	柱穴3系	柱間は3.03 m × 3.56 m、W 4漢とは直進の位置関係。壁面など。土地 中世	中世
S.A-3号 柱穴列	X 127・128, Y 174・176	—	N-29°-E	柱穴4系	柱間は4.06 m × 3.79 m × 4.05 m。B 1柱立位置と通連的。壁面など。 土地上区画や境界を示す施設の可能性あり。S A-2号とは時期差。	中世

土坑一覧表(1) (D-20・21号土坑は欠番) 単位:m

道構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
D-1号土坑	X 128, Y 180	N-81°-W	楕丸形	逆台形	1.10 × 0.83 × 0.14	Aa-B面	ガラス片		古代
D-2号土坑	X 128, Y 179	N-5°-W	楕丸長方形	逆台形	1.56 × (0.80) × 0.29	Aa-B面	土師器片	D 3土に切られる。	中世
D-3号土坑	X 128, Y 179	N-80°-W	楕丸長方形	逆台形	1.26 × (0.98) × 0.08	Aa-B面	乳頭器、土師器片	D 2土・D 3土を切る。	中世
D-4号土坑	X 128, Y 179	N-70°-W	楕丸長方形	逆台形	1.45 × (0.74) × 0.22	—	—	D 2土を切る。D 3a土に切られる。	中世
D-5号土坑	X 127, Y 180	N-83°-E	楕円形	U字状	0.49 × 1.39 × 0.83	Aa-B面	破砕なAa-B面土含む。		中世
D-6号土坑	X 128, Y 180	N-4°-E	不整 楕丸長方形	逆台形	1.53 × 1.01 × 0.43	Aa-B面	壁面に破砕なAa-B面土		中世
D-7号土坑	X 128, Y 177	N-2°-W	不整楕丸形	浅底狀	0.79 × 0.72 × 0.03	Aa-A面			近世以降
D-8号土坑	X 127, Y 177	N-83°-E	楕円形	逆台形	0.92 × 1.28 × 0.66	Aa-C面	乳頭器片、土師器片	H 1住を擴す。	9世紀以降
D-9号土坑	X 127, Y 177	N-69°-W	不整椭円形	逆台形	0.89 × 0.70 × 0.13	Aa-C面			古代
D-10号土坑	X 128, Y 180	N-0°-E	椭円形	逆台形	1.54 × (0.65) × 0.64	Aa-B面	乳頭器片、土師器片	下部にBPRM、上層硬化。	中世
D-11号土坑	X 128, Y 180	N-35°-W	楕丸形	逆台形	1.45 × (0.68) × 0.29	Aa-C面	Ar-B・白色シルト多量混入。 -埴運土。		中世
D-12号土坑	X 128, Y 179	N-41°-W	楕丸形	浅底狀	0.92 × 1.26 × 0.43	Aa-B面	乳頭器片、平H.	ピット様。	中世

Tab. 10 [100] 遺構一覧表(2)

土坑一覧表(2) (D-39~45号土坑は欠番) 単位:m

遺構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×切軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期	
D-13号土坑	X 128, Y 179	N-85°-E	圓孔円形	浅底状	1.46 × 1.17 × (1.21) × 0.16	As-B层	乳頭器・土師器片		中世	
D-14号土坑	X 128, Y 174	N-65°-E	円形	逆台形	1.09 × 0.97 × 0.39	As-C层	土師器片		7世紀後半	
D-15号土坑	X 128, Y 179	N-15°-E	不整圓形	浅底状	0.78 × 0.47 × 0.06	As-B层	土師器片	B1骨物に伴う施設か	中世	
D-16号土坑	X 128, Y 173	N-84°-W	椭円形	浅底状	0.68 × 0.64 × 0.09	As-B层		B1骨物に伴う施設か	中世	
D-17号土坑	X 128, Y 174	N-26°-W	椭円形	逆台形状	1.10 × 0.83 × 0.47	As-C层	乳頭器片・土師器片		7世紀後半~8世紀前半	
D-18号土坑	X 128, Y 175	N-88°-W	不整圓丸形	浅底状	1.27 × 1.17 × 0.21	As-C层	土師器片・織文土器		古墳~古代	
D-19号土坑	(有旨留空)	X 128, Y 175	N-95°-W	円形	矩形	0.96 × 0.88 × 0.84	As-C层		B5獨立建物の北東柱穴。9世紀以前 柱根あり。	9世紀以前
D-20号土坑	X 127, Y 175	N-86°-E	圓孔直方形	踏形	0.92 × 0.90 × 0.94	As-C层		B5独立建物の柱穴。	9世紀以前	
D-21号土坑	(有旨留空)	X 127, Y 175	N-8°-E	圓孔直長方形	タライ状	2.54 × 1.09 × 0.82 × 0.27	As-C层	副葬品: 乳頭器碗3。須 成入女性人骨1体。須冠 須冠小型骨1、靴釘2		10世紀前半
D-22号土坑	X 127, Y 179	N-25°-E	椭円形	踏形	0.88 × 0.80 × 0.71	As-B层	須冠器片・土師器片		中世	
D-23号土坑	X 128, Y 180	N-26°-W	圓孔直方形	逆台形状	1.40 × 0.94 × 0.34	As-B层	須冠直角柱1	D1土と重複。	中世	
D-24号土坑	X 128, Y 179	N-88°-E	不整圓丸丘形	浅底状	1.45 × 1.38 × 0.12	As-B层	須冠器片	D25土より古い。W1墓 に切られる。	中世	
D-25号土坑	X 128, Y 179	N-0°-	圓孔方形	浅底状	1.35 × 0.75 × 0.07	As-B层	土師器片	D24土を切る。W1墓に 切られる。斬跡では土坑外 周縁に土師器が埋蔵する。	中世	
D-26号土坑	X 128, Y 176	N-29°-W	椭円形	踏形	0.95 × 0.76 × 0.28	As-C层		B5独立建物の柱穴。	9世紀以前	
D-27号土坑	X 128, Y 176	N-69°-E	椭円形	逆台形	0.90 × 0.69 × 0.10	As-C层		D26土に切られる。	9世紀以前	
D-28号土坑	X 128, Y 176	N-28°-W	椭円形	逆台形	0.83 × 0.77 × 0.28	As-C层		B5地	古墳	
D-29号土坑	X 128, Y 177	N-40°-W	椭円形	踏形	0.87 × 0.76 × 0.71	As-C层		B5独立建物の柱穴。	9世紀以前	
D-30号土坑	X 127, Y 177	N-15°-W	不整圓形	逆台形	0.88 × 0.76 × 0.60	As-C层		B5独立建物の柱穴。 H1柱が上部を破壊。	9世紀以前	
D-31号土坑	X 127, Y 174	N-4°-E	円形	漏斗状	0.51 × 0.44 × 0.55	As-C层	土師器片	柱穴状。	7世紀後半	
D-32号土坑	X 126, Y 172	N-64°-E	長楕円形	浅底状	0.66 × 0.51 × 0.26	As-C层	織文土器		古墳~古代	
D-33号土坑	X 127, Y 176	N-90°	椭円形	逆台形	1.09 × 0.80 × 0.20	As-C层	土師器片		古墳~古代	
D-34号土坑	X 128, Y 177	N-26°-E	不整圓丸形	逆台形	0.96 × 0.89 × 0.20	As-C层	須冠器片	H1住カドを切る。	10世紀前半	
D-35号土坑	X 128, Y 177	N-17°-E	不整圓形	逆台形状	0.94 × 0.72 × 0.19	As-C层	須冠器片	D36土に切られる。	古墳~古代	
D-36号土坑	X 128, Y 177	N-8°-W	不整圓形	逆台形状	0.91 × 0.78 × 0.15	As-C层	土師器片	D35土を切る。	古墳~古代	
D-37号土坑	X 128, Y 173	N-85°-E	椭円形	踏形	1.84 × 1.32 × 0.43	織文色土	多孔石	複定期床(船石)。	調査後期	
D-38号土坑	X 128, Y 173	N-87°-E	椭円形	逆台形	0.69 × 0.45 × 0.27	須冠色土	土師器片	調査後期	調査後期	
D-39号土坑	X 128, Y 172	N-5°-W	長楕円形	踏形	1.97 × 1.10 × 0.33	須冠色土	板状織(宜山羽・長さ 42cm、厚さ3cm)、深鉢	複定期床(船石)。	調査後期	
D-41号土坑	X 128, Y 172	N-83°-E	不整圓丸 方形式	逆台形状	2.39 × 0.89 × 0.34	須冠色土	土師器片	D40土に切れる。D 50 土を切る。	調査後期	
D-42号土坑	X 128, Y 170	N-8°-W	不整圓形	逆台形状	0.96 × 0.77 × 0.34	須冠色土		北側に調査。	調査後期	
D-43号土坑	X 128, Y 170	N-80°-W	方形式	浅底状	(1.33) × (0.86) × 0.16	須冠色土		D46土を切る。	古代	
D-44号土坑	X 128, Y 170	N-7°-E	不整圓形	逆台形状	1.72 × 1.54 × 0.48	須冠色土	調査岩削片		調査後期	
D-46号土坑	X 127, Y 170	N-0°-	不整圓形	踏形	1.45 × 0.72 × 0.39	須冠色土			調査後期	
D-47号土坑	X 128, Y 173	N-55°-W	不整圓形	逆台形状	1.15 × 0.74 × 0.42	須冠色土		D47土と重複。	調査後期	
D-47号土坑	X 128, Y 173	N-84°-W	不整圓形	丸状	(1.36) × 0.67 × 0.22	須冠色土		D47a土と重複。	調査後期	
D-48号土坑	X 128, Y 173	N-5°-W	椭円形	逆台形	1.25 × 0.92 × 0.23	須冠色土			調査後期	
D-49号土坑	X 128, Y 171	N-86°-E	椭円形	逆台形状	1.09 × 0.79 × 0.25	須冠色土		H13住内。	調査後期	
D-50号土坑	X 128, Y 172	N-76°-E	不整 圓孔方形	逆台形状	1.83 × 0.77 × 0.34	須冠色土	調査土器深部	D41土に切られる。	調査後期	
D-51号土坑	X 127, Y 172	N-72°-E	圓孔長方形	逆台形	(1.42) × (0.75) × 0.19	須冠色土		D40・52土に切られる。	調査後期	
D-52号土坑	X 127, Y 172	N-3°-E	圓孔長方形	逆台形	2.24 × 1.47 × 0.25	須冠色土	調査土器深部 面右	D40土に切れる。D 51土 を切る。	調査後期	

満一覧表 単位:m

遺構名	グリッド	走向方位	断面形	上端幅×下端幅×深さ	覆土	遺物	所見	時期
W-1号罐	X 127~128, Y 180	N-87°-W N-76°-W	U字状	0.76 ~ 0.31 × 0.62 ~ 0.11 × 0.19	灰白色シルト	土師器片	洪水シルトで埋没。土質群 より新しく、建物群と同時 期。西→東。	中世
W-2号罐	X 127~128, Y 173	N-85°-W	U字状	0.29 × 0.18 × 0.05 長さ2.34m	As-B层			中世
W-3号罐	X 127~128, Y 173	N-87°-W	浅底状	0.79 ~ 0.47 × 0.59 ~ 0.28 × 0.08	As-B层			中世
W-4号罐	X 128, Y 175	N-28°-W	浅底状	0.50 ~ 0.30 × 0.28 ~ 0.12 × 0.07	As-B层		S-A~柱穴側とは直交	中世
W-5号罐	X 127~128, Y 174	N-87°-W	逆台形状	1.34 ~ 0.67 × 0.91 ~ 0.52 × 0.20	As-C层	縦軸陶器片、直交土器		10世紀後半
W-6号罐	X 128, Y 170	N-42°-W	U字状	0.29 × 0.12 × 0.11, 長さ1.92	須冠色土	柱穴住居の周囲		調査後期

H-1号住居跡

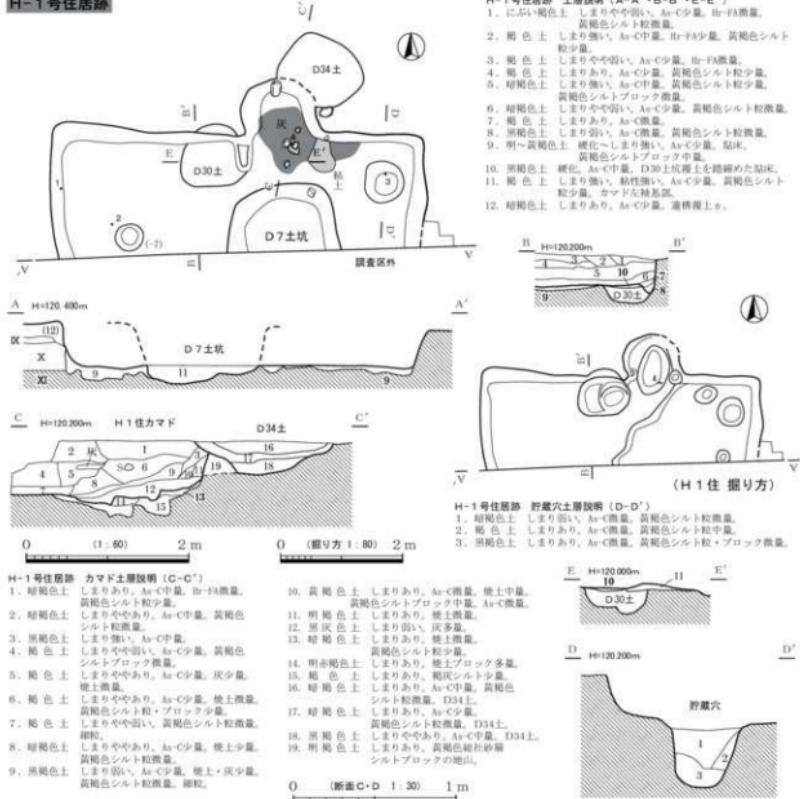


Fig. 29 [101] 遺構図 (1) H-1・3・10号住居跡

H-3号住居跡・H-10号住居跡

H-10号住居跡 土質剖面図 (A-A')

- ① 黄褐色土 しまりやや少々あり。As-C少量。Hr-FA軽石微量。
- ② 粘褐色土 しまりやや少々あり。As-C軽石微量。
- ③ 黄褐色土 しまりやや少々あり。As-C中量。Hr-FA軽石微量。
- ④ 黄褐色土 しまりやや少々あり。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。

- ⑤ 黄褐色土 しまり無い。As-Cやや多量。Hr-FA軽石微量。
- ⑥ 黄褐色土 しまりやや少々あり。As-C中量。
- ⑦ 黄褐色土 しまりやや少々あり。As-C微量。
- ⑧ 黄褐色土 しまりやや少々あり。As-C中量。

H-4号住居跡・H-6号住居跡・H-7号住居跡・H-9号住居跡・H-15号住居跡・H-17号住居跡

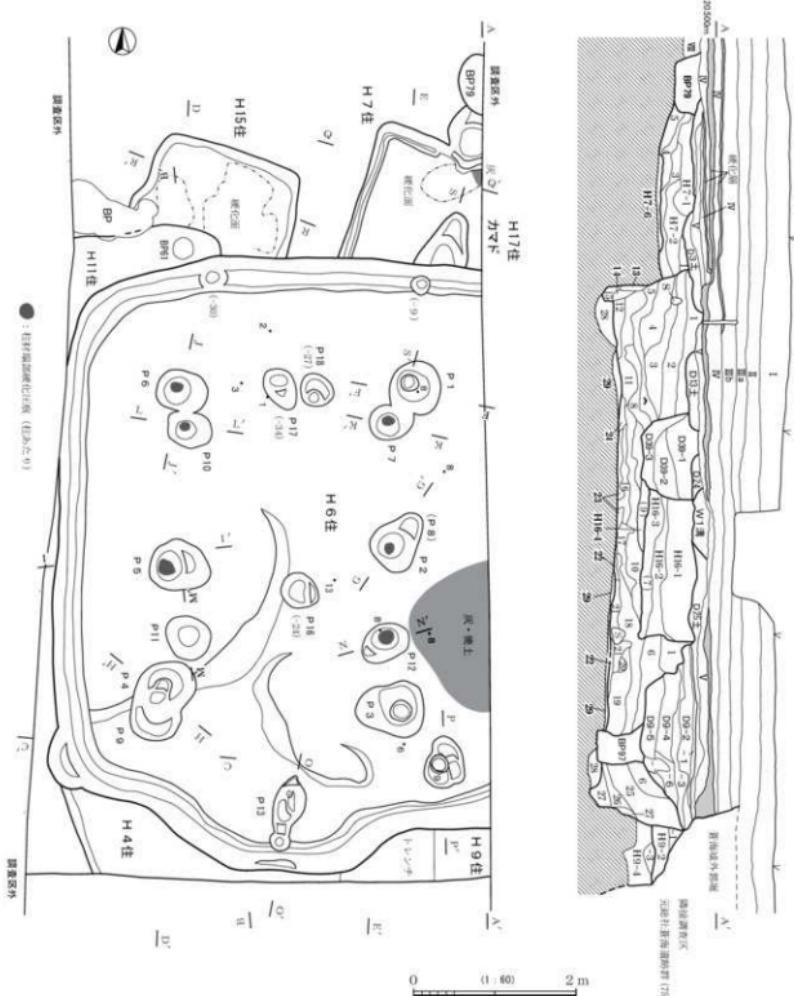


Fig. 30 [101] 遺構図 (2) H-4・6・7・9・15・17号住居跡①

H-4号住居跡・H-6号住居跡・H-7号住居跡・H-9号住居跡・H-15号住居跡・H-17号住居跡

H-6号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 緑褐色土 しまりあり。Ar-C多量。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。
2. 緑褐色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。
3. 緑褐色土 しまりあり。Ar-C少。黄褐色シルト粘少量。
4. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少。黄褐色シルト粘少量。
5. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C微量。粘性土ブロック微量。
6. 緑褐色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルト粘少量。
7. 緑褐色土 しまりあり。Ar-C少。黄褐色シルト粘少量。H-16号住居跡。
8. 黄褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
9. 柳暗褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。H-16号住居跡。
10. 黄褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
11. 黄褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
12. 柳暗褐色土 しまりあり。Ar-C少量。粘性土ブロック微量。
13. 柳暗褐色土 しまりやや少。黄褐色シルトブロック微量。
14. 黄褐色土 しまりあり。弱斑。黄褐色シルト。
15. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルトブロック微量。固結。
16. 黄褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
17. 明褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
18. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少。黄褐色シルト粘少量。固結。黃褐色シルトブロック微量。
19. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。粘性土。
20. 黄褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黃褐色シルトブロック微量。
21. にぶい黃褐色土 しまり強。Ar-C少量。黄褐色シルト。
22. 緑褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト。
23. にぶい黃褐色土 しまり強。Ar-C少量。黄褐色シルト。
24. 緑褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
25. 緑褐色土 しまり強。Ar-C多量。黄褐色シルト粘少量。
26. 緑褐色土 しまりあり。Ar-C微量。
27. 黄褐色土 しまり強。Ar-C少量。黄褐色シルトブロック微量。
28. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少。黄褐色シルトブロック微量。固結。
29. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルト。

H-6号住居跡 土層説明 (B-B')

1. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C多量。H-12号住居跡。
10. 緑褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
11. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
12. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。
13. 乳白色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
14. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C無量。黄褐色シルト。
15. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
16. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルトブロック微量。
17. 明褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
18. 明褐色土 しまりあり。弱斑。Ar-C少量。黄褐色シルトブロック微量。
19. 明褐色土 しまり少。Ar-C無量。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。
20. 緑褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト。
21. 黄褐色土 しまり非常に強。Ar-C多量。H-14号住居跡。
- 22a. 明褐色土 しまり少。Ar-C微量。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。
- 22b. 黄褐色土 しまり強。Ar-C微量。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。

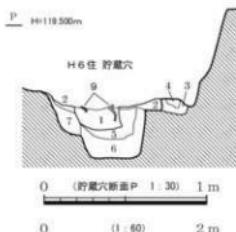
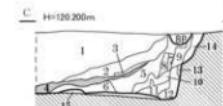


Fig. 31 [101] 地質図 (3) H-4・6・7・9・15・17号住居跡②

H-4号住居跡 土層説明 (D-D')

1. 明褐色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルト粘少量。
2. 黄褐色土 しまり強。Ar-C少量。黄褐色シルト粘微量。粘土。

H-7号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 明褐色土 しまりあり。Ar-C多量。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。
2. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
3. 明褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。粘土。
4. 明褐色土 しまりややあり。Ar-C中量。黄褐色シルト粘少量。粘土。

H-9号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルト粘少量。
2. 明褐色土 しまり強。Ar-C少量。黄褐色シルト粘中量。
3. 明褐色土 しまり強。Ar-C少量。黄褐色シルト粘微量。粘土。
4. 明褐色土 しまり強。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。粘土。

H-16号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 明褐色土 しまりあり。Ar-C多量。黄褐色シルト粘少量。
2. 明褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
3. 明褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
4. 柳暗褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。粘土。(7)

D-9号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 柳暗褐色土 しまり強。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
2. 柳暗褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
3. 黑褐色土 しまりややあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。

B-P(A-B)試坑(ピット) 土層説明 (B-B')

1. 暗褐色土 しまりあり。白色シルト多量。Ar-b, Ar-c少量。

H-1号住居跡 土層説明 (B-B')

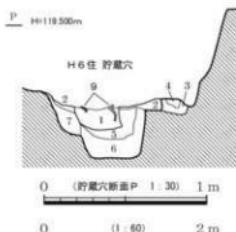
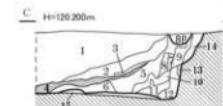
1. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。H-11号住居跡。
10. 緑褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
11. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
12. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。
13. 乳白色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
14. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C無量。黄褐色シルト。
15. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
16. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト。
17. 明褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト。
18. 明褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト。
19. 明褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト。
20. 緑褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト。
21. 黄褐色土 しまり非常に強。Ar-C多量。H-14号住居跡。
- 22a. 明褐色土 しまり少。Ar-C微量。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。
- 22b. 黄褐色土 しまり強。Ar-C微量。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。

H-6号住居跡 南西面戻し 土層説明 (C-C')

1. 黒褐色土 しまりあり。Ar-C多量。黄褐色シルト粘少量。ブロック微量。
2. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルト粘中量。ブロック中量。
3. 黑褐色土 しまり少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。
4. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。シルトブロック主。
5. 黑褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。固結。
6. 黑褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。固結。
7. 黑褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト。
8. 黑褐色土 しまりあり。Ar-C中量。固結。
9. 黑褐色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルト粘中量。
10. 黑褐色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルト粘少量。
11. 黑褐色土 しまりあり。Ar-C中量。黄褐色シルト粘少量。
12. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘微量。
13. 黄褐色土 しまりやや少。Ar-C少量。黄褐色シルト粘主。
14. 黄褐色土 しまり少。Ar-C少量。黄褐色シルト。
15. 明褐色土 しまり少。Ar-C少量。黄褐色シルト。

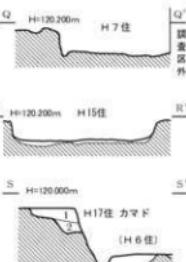
H-1号住居跡 カマド 土層説明 (S-S')

1. 明褐色土 しまりあり。Ar-c少量。使上潤量。黄褐色シルト粘少量。
2. 暗褐色土 しまりあり。Ar-c少量。使上潤量。黄褐色シルト粘少量。

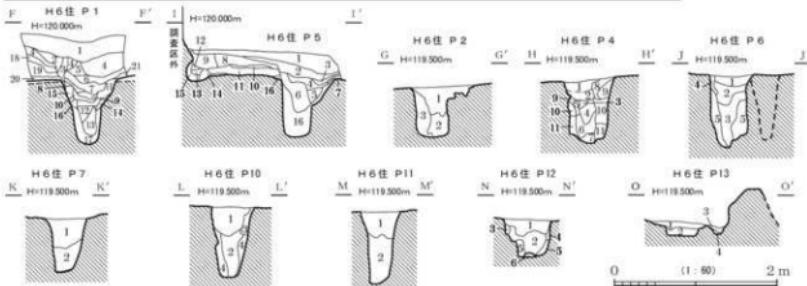


H-6号住居跡 診断窓 (P-P')

1. 黒褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘微量。ブロック微量。
2. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト粘微量。ブロック微量。
3. 黄褐色土 しまり少。Ar-C少量。黄褐色シルト。
4. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト。
5. 黑褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト。
6. 黄褐色土 しまりあり。Ar-C少量。黄褐色シルト。



H-4号住居跡・H-6号住居跡・H-7号住居跡・H-9号住居跡・H-15号住居跡・H-17号住居跡



H-4号住居跡 P 1 土層説明 (F-F')

1. 黒褐色土 しまり弱い。A-C少量。
2. 細粒褐色土 しまりやや弱い。A-C少量。
3. 明褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック少量。
4. 細粒褐色土 しまりあり。A-C多量。
5. 褐色土 しまりやや弱い。A-C少量。
6. 細粒褐色土 しまりやや弱い。A-C少量。
7. 黑褐色土 しまりやや弱い。A-C少量。
8. 黄褐色土 しまりやや弱い。黄褐色シルト粒中量。
9. 黑褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒微量。
10. 黄褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック土体。
11. 黑褐色土 しまり弱い。黒褐色シルト粒少量。A-C微量。
12. 明褐色土 しまりやや弱い。シルト質土主体。柱抜後埋戻し。
13. 細粒褐色土 しまりやや弱い。シルト質土主体。柱抜後埋戻し。
14. 明褐色土 しまり強い。シルト質土主体。根固め。
15. 黑褐色土 しまり弱い。シルト質土主体。根固め。
16. 明褐色土 しまり強い。シルト質土主体。下部柱抜。
17. 黑褐色土 しまり強い。A-C中量。
18. 黑褐色土 しまり強い。A-C中量。
19. 黄褐色土 しまりやや弱い。A-C少量。
20. 黑褐色土 しまり弱い。A-C微量。灰褐色含む。
21. 黑褐色土 しまり中。

H-6号住居跡 P 2 土層説明 (G-G')

1. 黑褐色土 しまり弱い。黒褐色シルト粒多量。黃褐色シルト粒中量。A-C少量。黒褐色土上に黒褐色土層が堆積。
2. 黄褐色土 しまり非常に弱い。シルト質土。根固め。
3. 明褐色土 しまりあり。シルト質土主体。根固め。

H-6号住居跡 P 4 土層説明 (J-J')

1. 黑褐色土 しまり弱い。A-C微量。根固めシルト粒多量。
2. 明褐色土 しまり弱い。黒褐色シルト粒中量。A-C少量。黒褐色土上に黒褐色土層が堆積。柱抜後埋戻し。
3. 黄褐色土 しまりあり。黒褐色シルトブロック土体。
4. 黑褐色土 しまりやや強い。黒褐色シルトブロック多量。
5. 細粒褐色土 しまり弱い。黒褐色シルト粒土体。
6. 明褐色土 しまりあり。黒褐色シルトブロック土体。
7. 細粒褐色土 しまりあり。黒褐色シルト粒土体。
8. 乳白色土 しまりやや弱い。シルト質土主体。柱抜後埋戻し。
9. 黄褐色土 しまり弱い。シルトシルトブロック土。根固め。
10. 黑褐色土 しまり非常に弱い。シルトブロック土主体。根固め。
11. 明褐色土 しまりやや弱い。シルトブロック土主体。根固め。

H-6号住居跡 P 6 土層説明 (J-J')

1. 黃褐色土 しまり弱い。A-C微量。
2. 細粒褐色土 しまり弱い。根固め。
3. 黑褐色土 しまり弱い。黒褐色シルト粒微量。

H-6号住居跡 P 7 土層説明 (I-I')

1. 黄褐色土 しまり弱い。A-C微量。原生物微量。
2. 黄褐色土 しまり弱い。A-C微量。
3. 黑褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒少量。A-C微量。
4. 黑褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒中量。A-C少量。
5. 基礎土 しまり弱い。黄褐色シルト粒中量。A-C少量。
6. 基礎土 しまり弱い。A-C中量。黄褐色シルト粒少量。黄褐色シルト粒微量。
7. 黑褐色土 しまり弱い。A-C少量。
8. 黑褐色土 しまり弱い。シルトシルト粒。黄褐色シルト粒中量。混在する。
9. 黑褐色土 しまり弱い。A-C少量。
10. 黑褐色土 しまり弱い。A-C微量。
11. 基礎土 しまり弱い。A-C少量。
12. 黄褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒微量。
13. 黄褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒中量。
14. 黑褐色土 しまり弱い。A-C少量。
15. 黑褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒微量。
16. 黑褐色土 しまり強い。粘性土や砂。

H-6号住居跡 P 11 土層説明 (K-K')

1. 明褐色土 しまり強い。黄褐色シルト粒多量。シルト粒中量。開窓。
2. 明褐色土 しまり弱い。A-C少量。

H-6号住居跡 P 10 土層説明 (L-L')

1. 明褐色土 しまり強い。黄褐色シルト粒多量。黄褐色シルト粒主体。開窓。
2. 黄褐色土 しまり弱い。A-C少量。

H-6号住居跡 P 11 土層説明 (M-M')

1. 黄褐色土 しまり強い。黄褐色シルト粒多量。黄褐色シルト粒中量。柱根め。
2. 基礎土 しまり弱い。A-C少量。

H-6号住居跡 P 12 土層説明 (N-N')

1. 明褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒。根抜シルト粒。根抜シルト粒多量。多量。開窓。
2. 黑褐色土 しまり弱い。A-C少量。
3. 黄褐色土 しまり弱い。シルトブロック。
4. 黑褐色土 しまり弱い。A-C少量。
5. 基礎土 しまり弱い。黄褐色シルト粒。根抜シルト粒少量。根固め。
6. 明褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒多量。柱根め。

H-6号住居跡 P 13 土層説明 (O-O')

1. 黑褐色土 しまり弱い。黒褐色シルト粒中量。柱抜土上にシルト粒微量。
2. 明褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒多量。柱根め。
3. 黑褐色土 しまりやや弱い。黒褐色シルト粒中量。
4. 明褐色土 しまり弱い。柱根め。

H-6b号住居跡 (新)

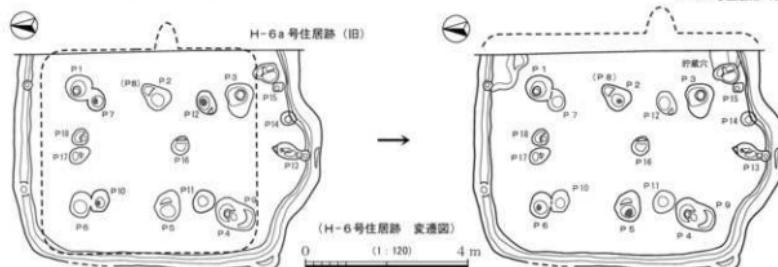
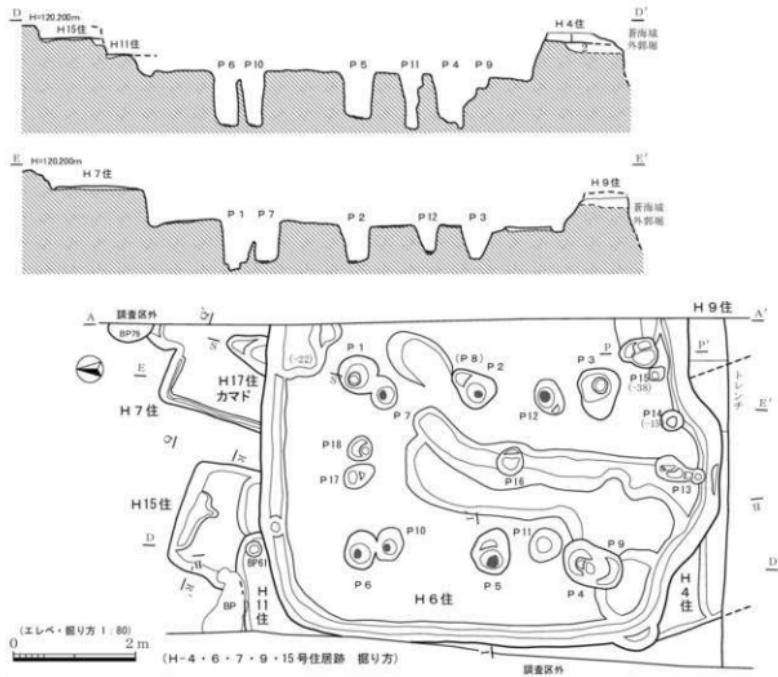


Fig. 32 [101] 遺構図 (4) H-4・6・7・9・15・17号住居跡③

H-4号住居跡・H-6号住居跡・H-7号住居跡・H-9号住居跡・H-15号住居跡・H-17号住居跡



H-11号住居跡・H-12号住居跡

H-16号住居跡

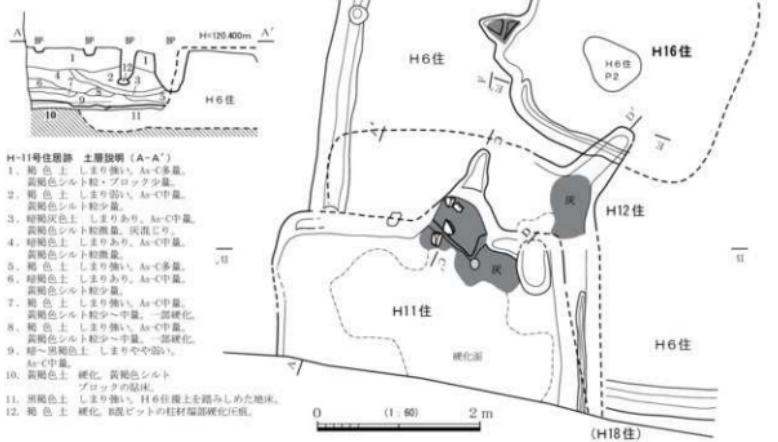
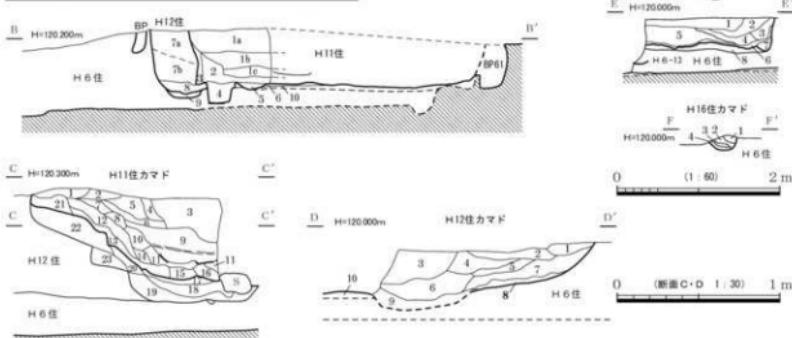


Fig. 33 (101) 遺構図 (5) H-4・6・7・9・15・17号住居跡④ / H-11・12・16号住居跡①

H-11号住居跡・H-12号住居跡・H-16号住居跡



H-11・H-12号住居跡 土層説明（B-B'）

- 褐色土 しまり無い。Ar-C多量。黄褐色シルト粒・ブロック微量。
- 褐褐色土 しまり少額。
- 暗褐色土 しまりあり。Ar-C多量。黄褐色シルト粒・ブロック微量。
- 暗褐色土 しまり無い。Ar-C少額。黄褐色シルト粒・ブロック微量。
- 暗褐色土 しまり少額。Ar-C少額。黄褐色シルト粒・微量。
- 暗褐色土 しまりあり。Ar-C無量。灰褐色土。
- 暗褐色土 しまりなし。Ar-C少額。灰褐色土。
- 暗褐色土 しまりあり。Ar-C多量。灰褐色土。
- 暗褐色土 しまりあり。Ar-C少額。黄褐色シルト粒微量。
- 暗褐色土 しまりあり。Ar-C無量。黄褐色シルト粒微量。
- 暗褐色土 しまり無い。Ar-C無量。黄褐色シルト粒微量。
- 暗褐色土 しまり無い。Ar-C無量。黄褐色シルト粒微量。
- 暗褐色土 しまり無い。Ar-C無量。黄褐色シルト粒微量。
- 暗褐色土 しまり無い。Ar-C無量。黄褐色シルト粒微量。
- 褐色土 しまり非常に無い。黄褐色シルト粒・ブロック少額。粘土。
- 褐色土 しまり非常に無い。黄褐色シルト粒・ブロック少額。粘土。

H-12号住居跡 カマド土層説明（D-D'）

- 褐色土 しまりあり。灰ブロッケ量。Ar-C, 粘土微量。
- 赤褐色土 しまりあり。地上中量。灰中量。Ar-C少額。
- 暗褐色土 しまりあり。地表無量。Ar-C中量。
- 暗褐色土 しまりあり。Ar-C無量。灰褐色土。
- 暗褐色土 しまりあり。Ar-C中量。灰褐色土。

H-16号住居跡 カマド土層説明（F-F'）

- 褐色土 しまり無い。Ar-C多量。粘土微量。
- 黒褐色土 しまり少額。地表中量。灰中量。Ar-C少額。
- 黒褐色土 しまりあり。地表無量。Ar-C中量。灰土体。
- 黒褐色土 しまり無い。Ar-C無量。灰褐色土。
- 暗褐色土 しまりやや多い。灰土体。Ar-C微量。
- 暗褐色土 しまり少額。灰褐。しまつときめ細い砂礫。
- 暗褐色土 しまり非常に無い。Ar-C無量。黄褐色シルトブロック中量。

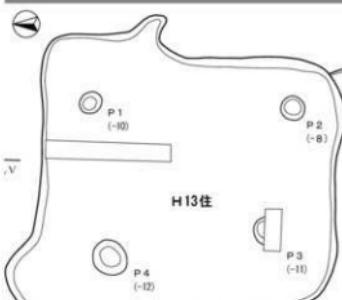
H-11号住居跡 カマド 土層説明（C-C'）

- 明褐色灰土色 しまり無い。粘土少量。粘土中量。Ar-C少量。
- 褐褐色土色 しまり無い。地表少額。Ar-C少量。
- 暗褐色土色 しまりあり。地表無量。Ar-C中量。黄褐色シルト粒少額。
- 暗褐色土色 しまり少額。Ar-C無量。灰褐色土。
- 所産褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C中量。黄褐色シルト粒少額。
- 褐褐色土色 しまり少額。地表無量。Ar-C少量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表多量。灰少量。Ar-C少量。
- 暗褐色土色 しまりあり。地表無量。Ar-C中量。黄褐色シルト粒微量。
- 明褐色灰土色 しまり少額。地表無量。Ar-C中量。灰褐色土。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表無量。Ar-C少量。
- 明褐色灰土色 しまり少額。地表少額。灰土体。Ar-C少量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C中量。灰褐色土。
- 明褐色灰土色 しまり少額。地表少額。Ar-C中量。灰褐色土。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表無量。Ar-C少量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表無量。Ar-C中量。灰褐色土。
- 赤褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C微量。
- 赤褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C少量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C微量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C中量。

H-16号住居跡 土層説明（E-E'）

- 褐色土 しまり少額。Ar-C微量。灰-Pa少量。
- 暗褐色土 しまりやや少額。Ar-C微量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C微量。
- 明褐色灰土色 しまり少額。地表少額。Ar-C微量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C微量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C微量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C微量。
- 暗褐色土色 しまり少額。地表少額。Ar-C微量。

H-13号住居跡・T-1号竪穴状遺構



H-1号住居跡 土層説明（A-A'）

- 暗褐色土色 しまり無い。粘性少額。Ar-C多量。
- 深褐色土 しまり無く、粘性あり。Ar-C少量。
- 暗褐色土 しまり無い。粘性あり。Ar-C少額。黄色粒少額。
- 灰褐色土 しまり無い。粘性あり。馬糞。白色粒少額。鰐文包含弱。

Fig. 34 [101] 遺構図 (6) H-11・12・16号住居跡②/H-13号住居跡/T-1号竪穴状遺構

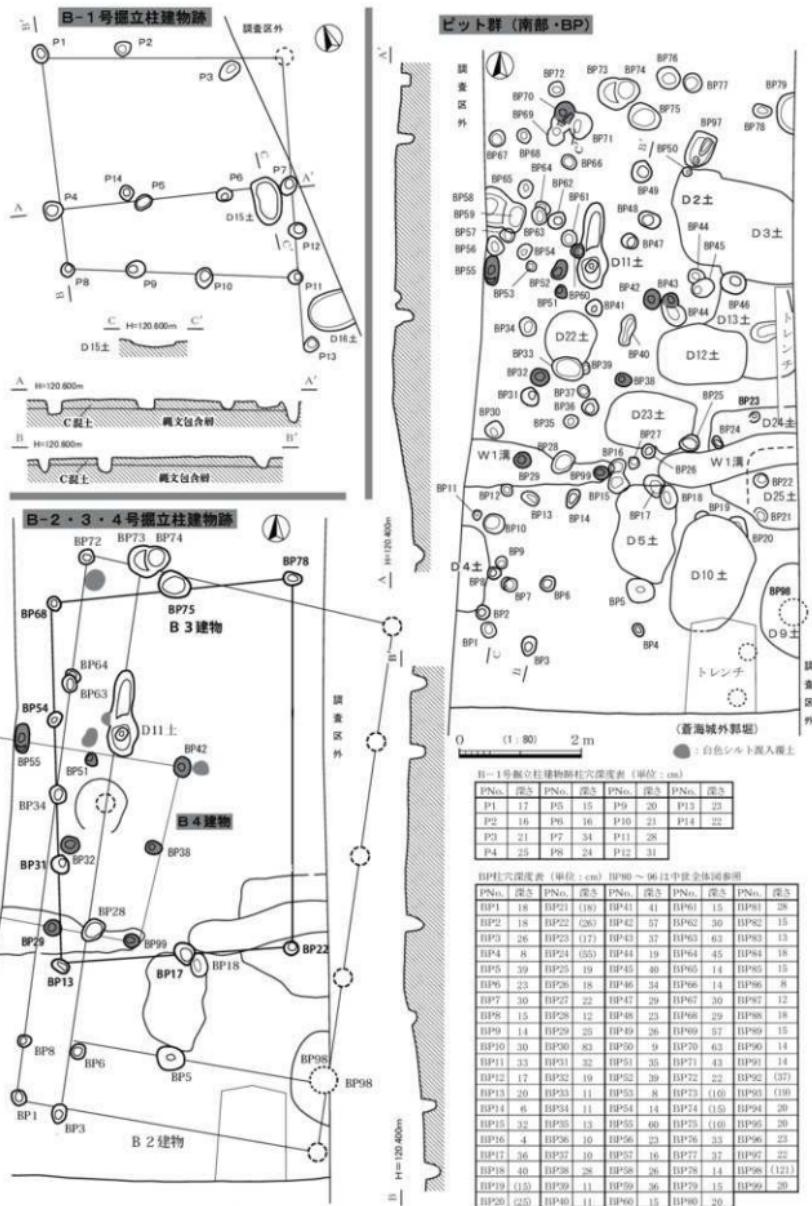
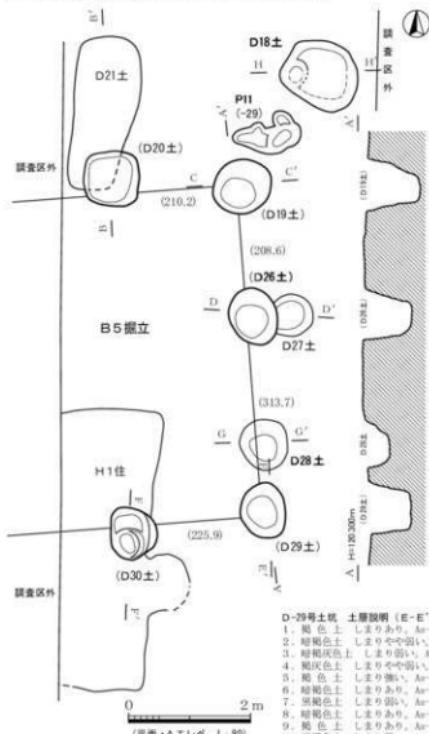


Fig. 35 [101] 遺構図 (7) B-1・2・3・4号掘立柱建物跡 / ピット群(南部)

B-5号掘立柱建物跡、D-18・27・28号土坑



D-19号土坑 土層説明 (C-E')

1. 茶色土 しまりあり。As-C多量。柱根。
2. 細粘土色上 しまりやや弱い。As-C少量。柱根。
3. 茶色土 しまりあり。As-C中量。柱根。
4. 細粘土色上 しまりやや弱い。As-C少量。柱根。
5. 黒褐色土 しまりあり。As-C多量。根固め(～10)。
6. 黑褐色土 しまりあり。As-C多量。
7. 黑褐色土 しまりあり。As-C多量。
8. 黑褐色土 しまりあり。As-C多量。
9. 黑褐色土 しまりやや弱い。As-C少量。柱端硬化。
10. 黑褐色土 しまりやや弱い。As-C少量。柱端硬化。
11. 黄褐色土 黄褐色シルトプロック中量。
12. 黑褐色土 しまりやや弱い。As-C少量。
13. 黑褐色土 しまりやや弱い。As-C少量。

D-18号土坑 土層説明 (H-H')

1. 茶色土 しまり強い。As-C多量。Hr-fa少量。黄褐色シルト少微量。

D-14号土坑・D-17号土坑・D-31号土坑

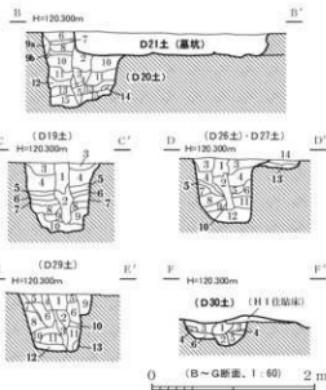
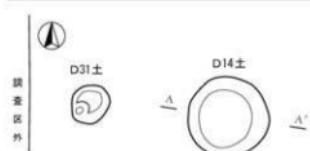


Fig. 36 [101] 遺構図 (8) B-5号掘立柱建物跡 / D-14・17・18・27・28・31号土坑

S A - 1 号柱穴列・D - 7 号土坑・D - 8 号土坑・D - 33 号土坑・D - 34 号土坑・D - 35 号土坑・D - 36 号土坑

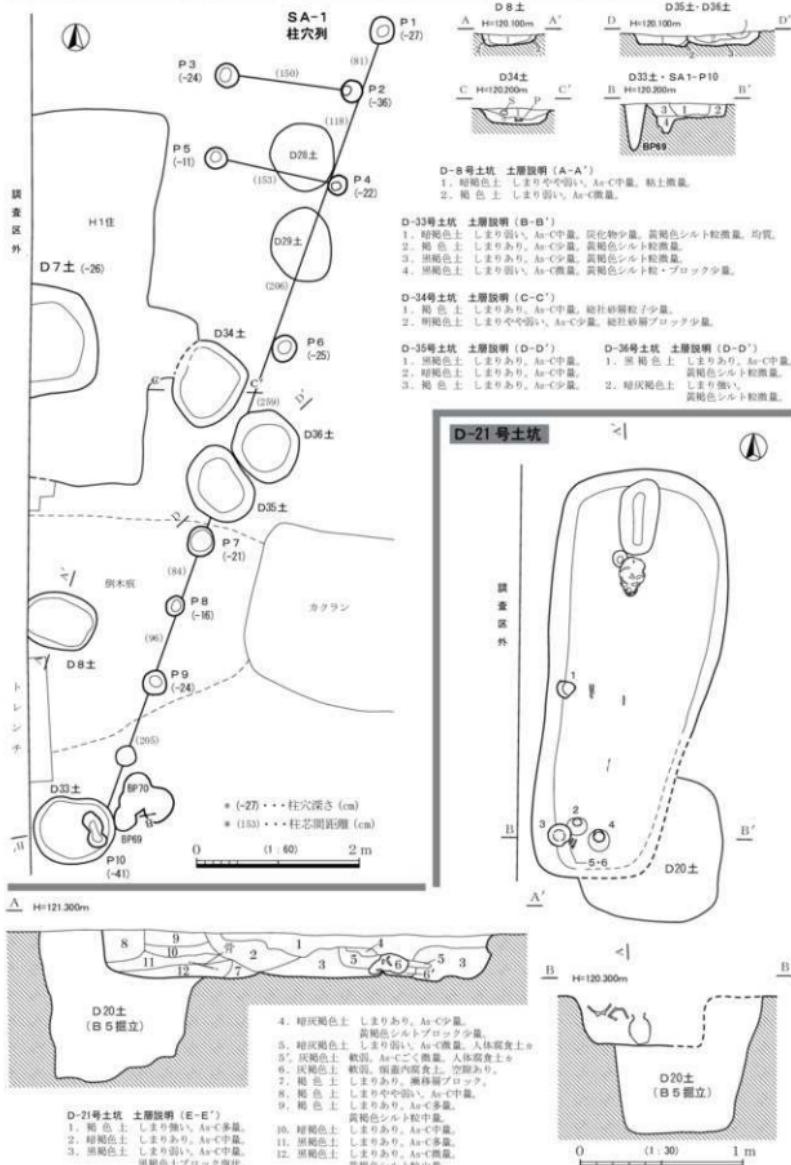
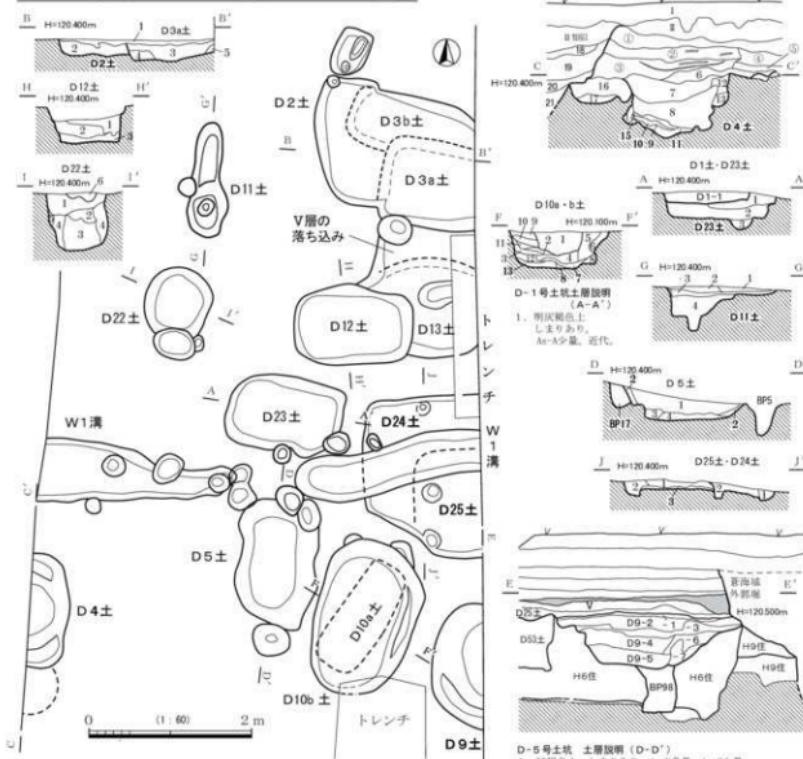


Fig. 37 [101] 遺構図 (9) S A - 1 号柱穴列 / D - 7 • 8 • 33 ~ 36 号土坑 / D - 21 号土坑

D-2～5号土坑・D-9～13号土坑・D-22～25号土坑



D-23号土坑 土壠説明 (A-A')

1. 細粒褐色土 (明) しまりあり。Ar-B少量。Ar-C中量。黄褐色シルト粘少量。
2. 細粒褐色土 しまりあり。Ar-B中量。Ar-C微量。黄褐色シルト粘少量。
3. 細粒褐色土 (明) しまりあり。Ar-B少量。Ar-C中量。シルト粘少量。

D-2～3号土坑 土壠説明 (B-B')

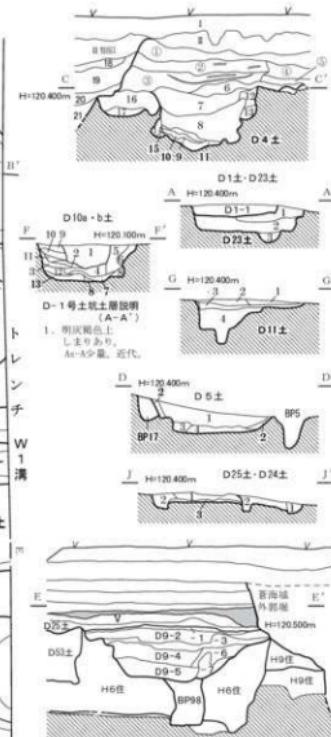
1. 細粒褐色土 (明) しまりあり。Ar-B多量。Ar-C少量。
2. 細粒褐色土 (明) しまりあり。Ar-B少量。Ar-C中量。g5～20mmシルト質土少量。
3. 細粒褐色土 (明) しまりあり。Ar-B少量。Ar-C中量。g5～20mmシルト質土少量。
4. 細粒褐色土 (明) しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C少量。シルト粘少量。
5. 細粒褐色土 (明) しまりやや少い。Ar-B少量。Ar-C微量。

D-4号土坑 土壠説明 (C-C')

1. 細粒褐色土 しまり少い。Ar-B少量。Ar-C少量。黄褐色シルト粘少量。シルト質。
2. 細粒褐色土 (明) しまり少い。Ar-B中量。Ar-C微量。経年硬化薄層多少。
3. 細粒褐色土 (明) しまり少い。Ar-B少量。Ar-C中量。黄褐色シルトブロック微量。
4. 明細褐色土 しまり少い。Ar-B中量。Ar-C中量。
5. 黑褐色土 しまり強い。Ar-B少量。Ar-C少量。
6. 細粒褐色土 しまりあり。Ar-B中量。Ar-C微量。黄褐色シルト粘少量。

7. 細粒褐色土 しまりあり。Ar-B多量。黄褐色シルトブロック微量。
8. 細粒褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。黄褐色シルト粘少量。
9. 黄褐色土 (明) しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。黄褐色シルト粘少量。
10. 黑灰褐色土 枯葉。Ar-B中量に多く。
11. 細粒灰色土 しまりやや少い。Ar-B多量。
12. 黑褐褐色土 しまり少い。Ar-B中量。黄褐色シルト粘少量。
13. 黑褐色土 しまり多量。

14. 明細褐色土 しまり少い。黄褐色シルト粘土体。
15. 明細褐色土 しまり少い。Ar-B中量。黄褐色シルト粘土体。
16. 黑褐色土 しまり少い。Ar-B中量。黄褐色シルト粘土体。
17. 黑褐色土 (明) しまりやや少い。Ar-B中量。黄褐色シルト粘土体。
18. 黑褐褐色土 しまり少い。Ar-B中量。シルト質土。崩壊土。
19. 黑褐色土 しまり少い。Ar-B中量。シルト質土。崩壊土。
20. 黑褐褐色土 しまり少い。Ar-B中量。シルト質土。崩壊土。
21. 黑褐色土 しまりあり。Ar-B中量。シルト質土。崩壊土。



D-5号土坑 土壠説明 (D-D')

1. 細粒褐色土 しまりあり。Ar-B多量。Ar-C少量。
2. 細粒褐色土 しまりやや少い。Ar-B多量。Ar-C少量。
3. 細粒褐色土 しまり少い。Ar-B多量。Ar-C微量。
4. 黑褐色～細粒褐色土 しまりあり。Ar-B少量。Ar-C中量。

D-9号土坑 土壠説明 (E-E')

1. 黒褐色土 (明) しまり少い。Ar-B多量。
2. 明細褐色土 しまり少い。Ar-B中量。Ar-C微量。
3. 細粒褐色土 しまりやや少い。Ar-B少量。Ar-C微量。
4. 黑灰褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。
5. 細粒灰褐色土 しまりやや少い。Ar-B少量。Ar-C微量。
6. 坡地化灰褐色土 しまりあり。Ar-B中量。Ar-C微量。
7. 明細褐色土 しまりやや少い。Ar-B少量。シルト質土少量。Ar-C微量。
8. 黑褐色土 しまりやや少い。Ar-B少量。シルト質土少量。Ar-C微量。
9. 黑褐色土 (明) しまりやや少い。Ar-B少量。シルト質土少量。Ar-C微量。
10. 黑灰褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。
11. 坡地化灰褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。
12. 明細褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。
13. 細粒褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。

D-10a-b号土坑 土壠説明 (F-F')

1. 黑褐色土 しまりあり。Ar-B多量。Ar-C中量。
2. 明細褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。
3. 黄褐色土 しまり少い。Ar-B中量。アッシュ少量。
4. 明細灰褐色土 しまり少い。Ar-B多量。Ar-C微量。黄褐色シルトブロック微量。シルト質土微量。
5. 坡地化灰褐色土 しまり少い。Ar-B多量。Ar-C微量。シルト質土微量。
6. 黑褐色土 (明) しまり少い。Ar-B多量。Ar-C微量。
7. 固結褐色土 (明) しまり少い。Ar-B中量。シルト質土少量。Ar-C微量。
8. 黑褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。シルト質土微量。Ar-C微量。
9. 黑褐色土 (明) しまりやや少い。Ar-B中量。シルト質土微量。Ar-C微量。
10. 黑灰褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。
11. 坡地化灰褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。
12. 明細褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。
13. 細粒褐色土 しまりやや少い。Ar-B中量。Ar-C微量。

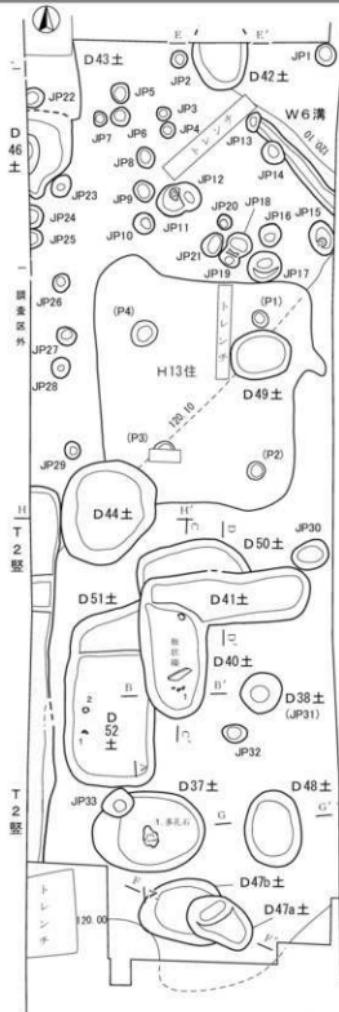
Fig. 38 [101] 遺構図 (10) D-2～5・9～13・22～25号土坑

D-11・12・22・24・25 号土坑

- D-11号土坑 土層説明 (G-G')
- 明褐色土上 しまりあり。Ae-B多量。粘土ブロック少量。シルト質土多量。均質。
 - 褐色土上 しまりあり。Ae-B多量。粘土ブロック少量。シルト質土少量。
 - 青褐色土上 しまり強い。Ae-B多量。
 - 暗褐色土上 しまりあり。Ae-B少量。Ae-C中量。

D-22号土坑 土層説明 (I-I')

- 褐色土上 しまりあり。Ae-B多量。Ae-C中量。
- 暗褐色土上 しまりあり。Ae-B多量。Ae-C微量。絶粒細弱ブロック微量。
- 黒褐色土上 しまりあり。Ae-B少量。Ae-C多量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
- 暗褐色土上 しまりやや弱い。Ae-C中量。Ae-C少量。黄褐色シルトブロック少量。
- 黒褐色土上 しまり弱い。Ae-B多量。
- 灰褐色土上 しまりややあり。Ae-B多量。直視したビット。



D-12号土坑 土層説明 (H-H')

- 暗褐色土上 しまりややあり。Ae-B少量。Ae-C中量。Hr-Fm微量。
- 暗褐色土上 しまり弱い。Ae-B多量。Ae-C微量。
- 褐褐色土上 しまり弱い。Ae-B多量。Ae-C微量。

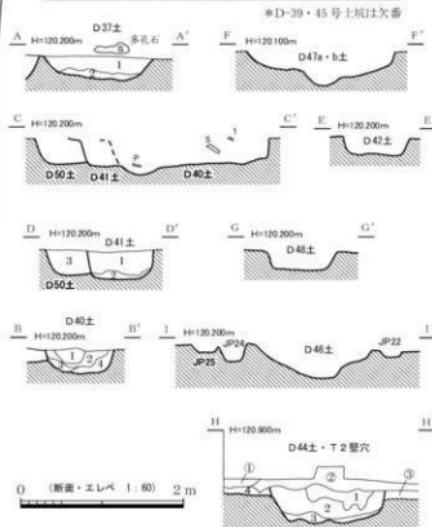
D-24号土坑 土層説明 (J-J')

- 暗褐色土上 しまりややあり。Ae-B多量。
- 褐褐色土上 しまりややあり。Ae-B中量。Ae-C微量。

D-25号土坑 土層説明 (J-J')

- 褐褐色土上 しまりややあり。Ae-B少量。Ae-C微量。
- 暗褐色土上 しまりややあり。Ae-B中量。
- 灰褐色土 (Hg) しまり強い。Ae-B多量。Ae-C微量。研磨化。

縄文遺構群 (D-37・38・40～42・44・52号土坑)



D-37号土坑 土層説明 (A-A')

- 褐褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石少量。
- 褐褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石微量。

D-40号土坑 土層説明 (B-B')

- 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石多量。
- 褐褐色土 しまり非常に強い。白色軽石多量。
- 黒褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石微量。
- 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石少量。

D-41・50号土坑 土層説明 (D-D')

- 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石微量。
- 褐褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石微量。
- 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石微量。
- 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石微量。

D-44号土坑 T-2号壁穴状遺構 土層説明 (H-H')

- 原色土 しまり強い。Ae-C多量。
- 暗褐色土 しまり強い。Ae-C上部ブロックを少含む。
- 褐褐色土 しまり弱い。粘性弱い。白色軽石微量。
- 黒褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石少量。
- 暗褐色土 しまり強い。白色軽石微量。
- 暗褐色土 しまり強い。白色軽石微量。黄色粘土微量。
- 暗褐色土 しまり強い。白色軽石微量。

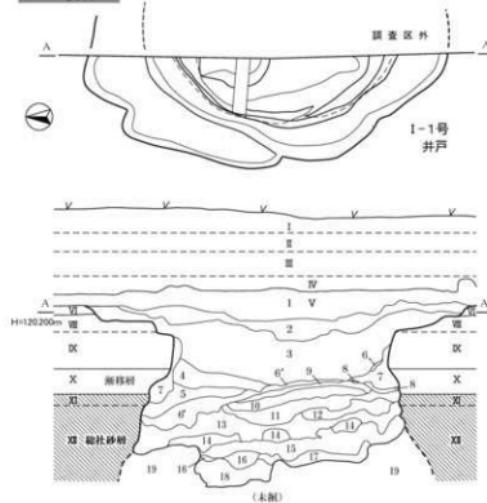
JP (縄文時代) (cm) 深度表

JP1	JP2	JP3	JP4
JP1 15	JP2 15	JP3 20	JP4 20
JP2 15	JP22 14		
JP3 9	JP23 22		
JP4 14	JP24 20		
JP5 15	JP25 18		
JP6 16	JP26 21		
JP7 13	JP27 14		
JP8 14	JP28 23		
JP9 14	JP29 29		
JP10 19	JP90 21		
JP11 23	JP91 25		
JP12 26	JP92 28		
JP13 11	JP93 28		
JP14 20			
JP15 19	W6壁 9		
JP16 26			
JP17 27			
JP18 22			
JP19 20			
JP20 22			

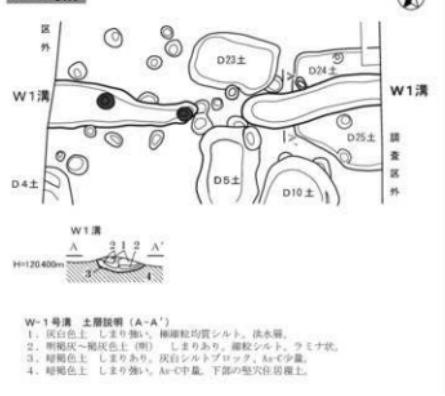
(単位: cm)

Fig. 39 [101] 遺構図 (11) 縄文時代 土坑・ビット

I-1号井戸



W-1号溝



W-2～4号溝 土層説明 (A-A')

1. 褐色土 しまりあり。Ax-C中量。Ax-C少量。やや砂質。

W-5号溝 土層説明 (A-A')

1. 褐色土 しまりあり。Ax-C中量。Hr-FA解離微量。

2. 褐色土 しまりあり。Ax-C中量。

3. 褐色土 しまりあり。Ax-C中量。

0 (平面 1:80) 2 m

0 (断面 1:60) 2 m

H=120.300m

A W4溝

W5溝

W3溝-1 W2溝-1 A'

Fig. 40 [101] 遺構図 (12) I-1号井戸 / W-1～5号溝

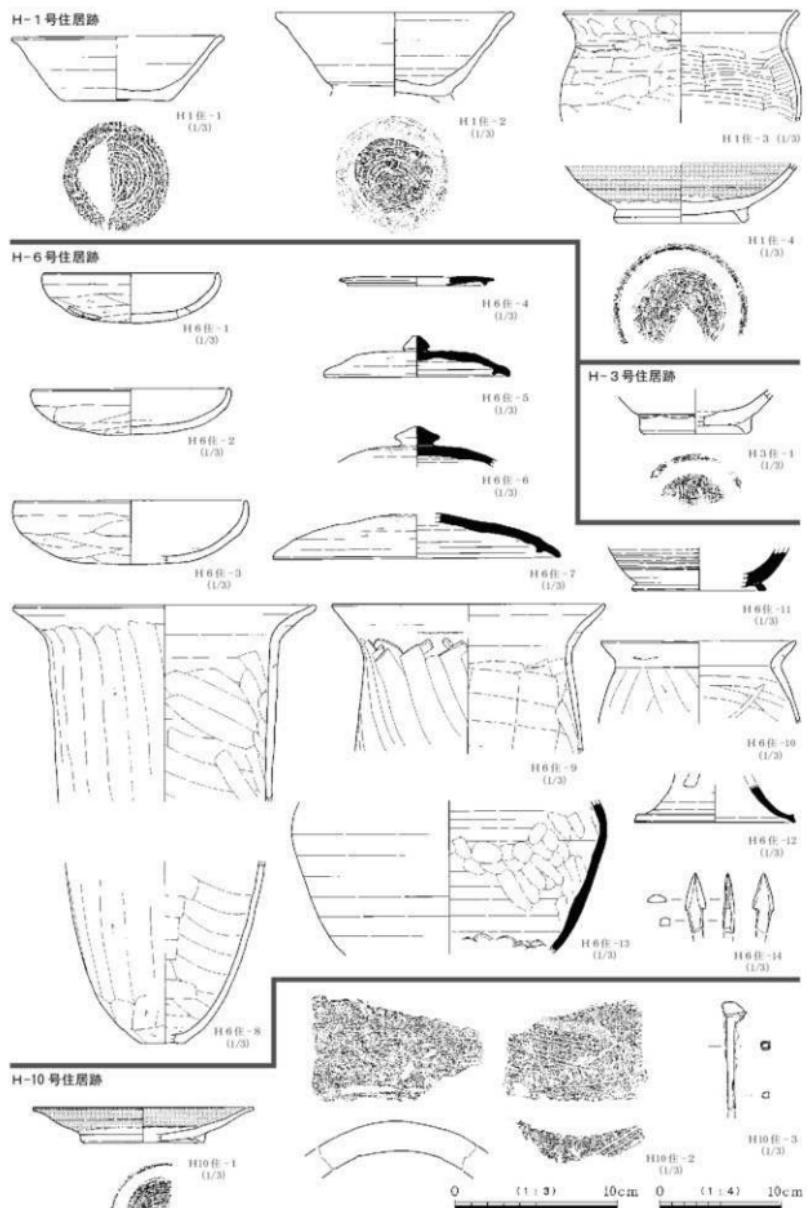


Fig. 41 [101] 遺物図 (1) H-1・3・6・10号住居跡

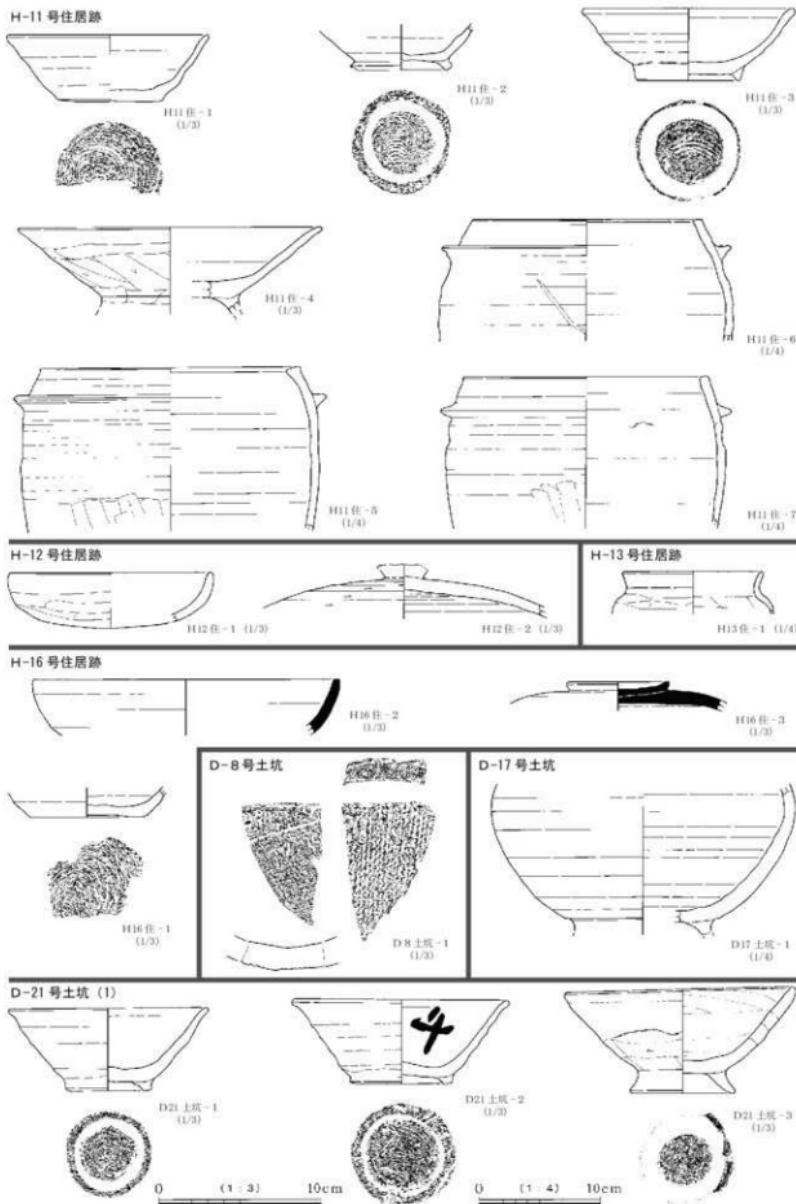


Fig. 42 [101] 遺物圖 (2) H-11・12・13・16号住居跡 / D-8・17号土坑 / D-21号土坑 ①

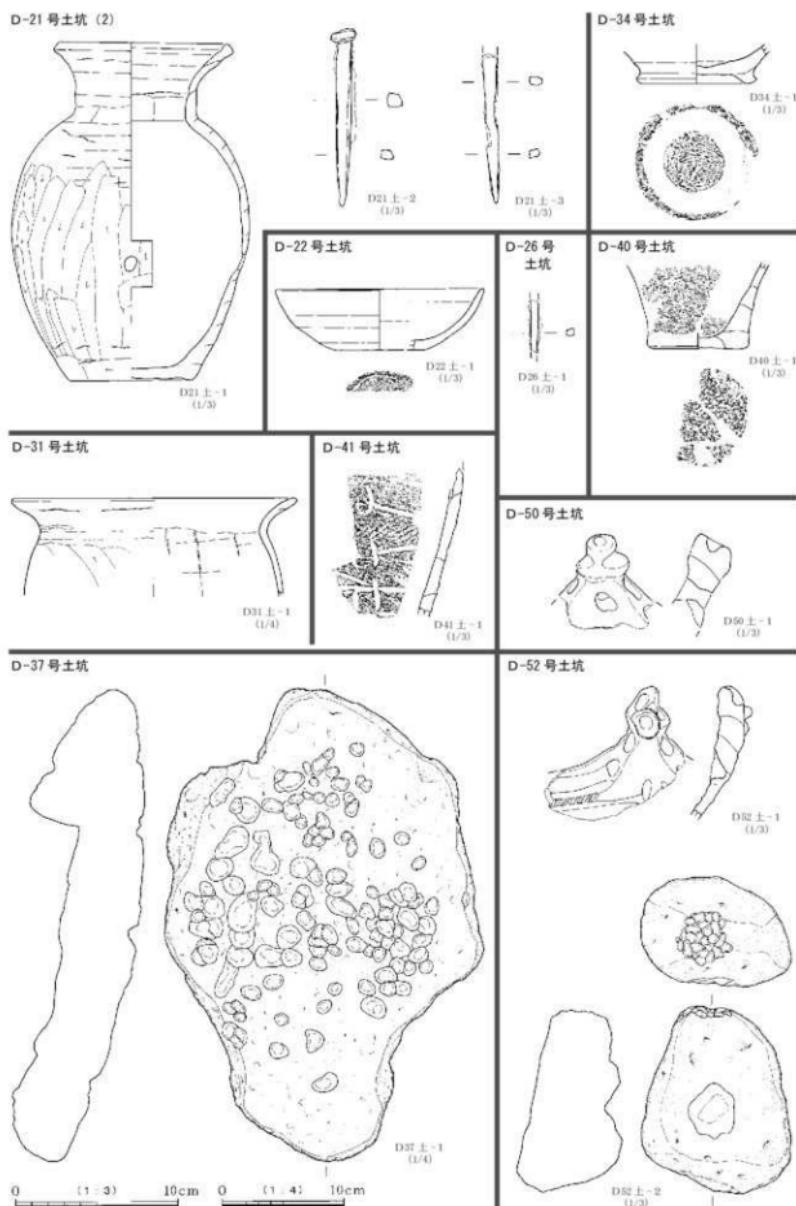


Fig. 43 [101] 遺物図 (3) D-21号土坑② / D-22・26・31・34・37・40・41・50・52号土坑

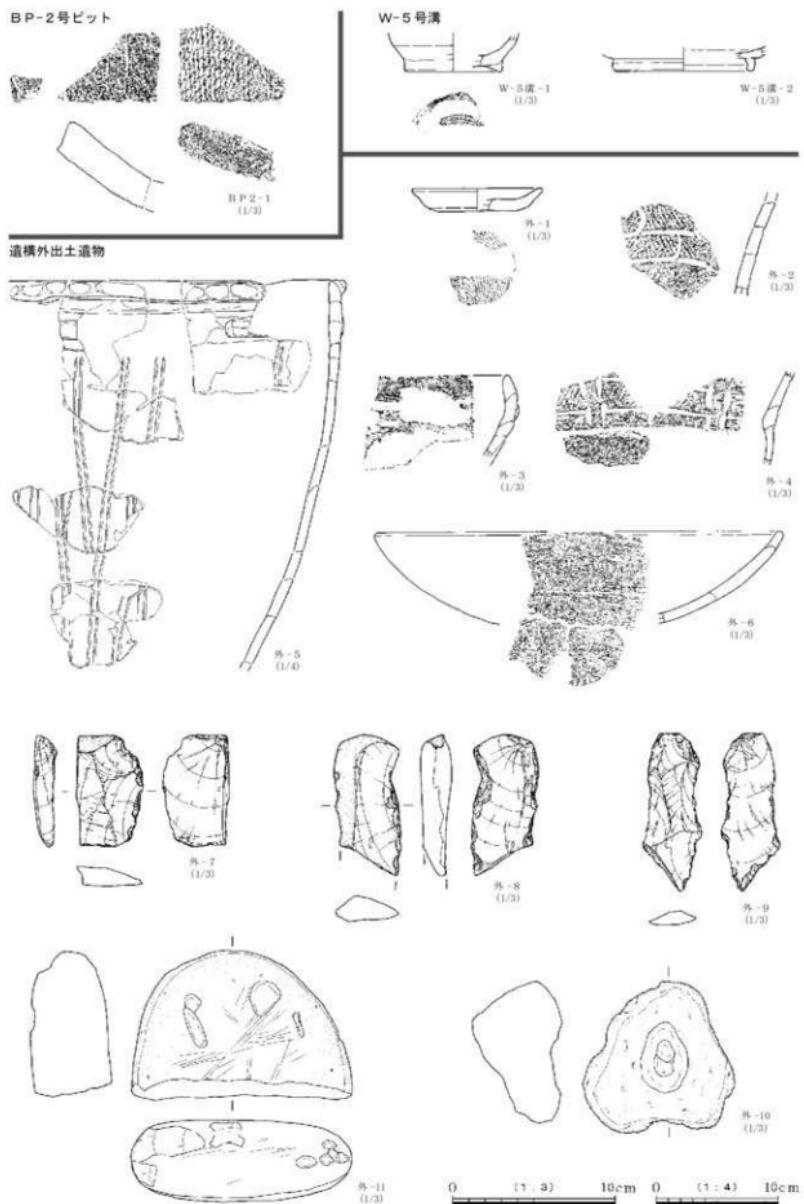


Fig. 44 [101] 遺物図 (4) BP-2 / W-5号溝 / 遺構外出土遺物 1~11

Tab. 11 [101] 出土遺物観察表 (1) 住居跡

H-1号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 壺	口径(12.9) 底径 6.5 器高 4.0	①酸化焰 ②灰黄 ③白色粒 ④口縁部～体部2/3欠損	外面：輪轍整形。底部回転糸切り。 内面：輪轍整形。	No. 7	
2	須恵器 瓶	口径(14.6) 器高(5.1)	①酸化焰灰赤 ②灰黄 ③白色粒 ④口縁部～体部3/4・高台部欠損	外面：輪轍整形。底部回転糸切り。 内面：輪轍整形。	No. 6	
3	土師器 甕	口径(19.4) 器高(9.2)	①酸化焰 ②にぶい赤褐色～橙 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位1/3	外面：口縁部横ナデ後、指痕压痕。胴部斜 位窓ケズリ後、上位に横窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。胴部木口計工具によ る模位ナゲ。	No. 1、貯蔵穴 No. 1、覆土一 括	
4	灰釉陶器 甕	底径 8.2 器高(3.7)	①還元焰 ②粘土：灰白、釉：オリ ③灰 ④白色粒 ⑤底部1/3	外面：輪轍整形。底部回転糸切り後ナデ。 高台貼付時に回転ナデ。 内面：輪轍整形。	カマド No. 1-2	

H-3号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 甕	底径(6.8) 高(2.7)	①酸化焰 ②暗灰黄～黒褐 ③白色粒 ④底部1/4	外面：輪轍整形。底面回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。 内面：輪轍整形。	No. 1	

H-6号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 壺	口径 10.7 器高 3.1	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体部上位ナデ。 体部下位～底部窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。底部ナデ。	No. 5、 覆土一括	体部に外側 からの穿孔。
2	土師器 壺	口径(12.0) 器高 2.8	①酸化焰 ②橙 ③白色粒	外面：口縁部横ナデ。体部底部窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。底部窓ナデ。	No. 2、 覆土上層	
3	土師器 壺	底径(14.2) 器高(3.8)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒 ④1/4	外面：口縁部横ナデ。体部上位ナデ。 体部中位～底部窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。底部窓ナデ。	覆土一括	
4	須恵器 壺蓋	口径(8.4) 器高(0.6)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④1/3	外面：輪轍整形。 内面：輪轍整形。返りをもつ。	覆土一括	
5	須恵器 壺蓋	口径(11.2) 器高 2.5	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④1/4	外面：輪轍整形。天井部回転窓ケズリ。宝 珠形窓。内面：輪轍整形。返りをもつ。	覆土一括	
6	須恵器 壺蓋	器高(2.5)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④天井部	外面：輪轍整形。天井部回転窓ケズリ。 内面：輪轍整形。	No. 1	
7	須恵器 壺蓋	口径(17.6) 器高(2.7)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④1/5	外面：輪轍整形。天井部回転窓ケズリ。 内面：輪轍整形。返りをもつ。	覆土一括, H 11往カマド	
8	土師器 甕	口径 24.8 底径 3.6 器高(25.8)	①酸化焰 ②淡黃褐 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④口縁部～ 脚部上位3/4、脚部下位～底部1/2	外面：口縁部横ナデ。胴部窓位窓ケズリ後、 下端窓位窓ケズリ。底部窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。胴部窓位窓ナデ後、 上端窓位窓ナデ。底部窓ナデ。	No. 8-10-12、床直、 P1、下層、H 14往 カマド付近、H 14 住丁層、H 11住	床上 復元
9	土師器 甕	口径 22.4 器高(12.1)	①酸化焰 ②にぶい橙～橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部・脚部上位	外面：口縁部横ナデ。胴部窓位窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。胴部窓位窓ナデ後、 部分的に斜位窓ナデ。	貯蔵穴	
10	土師器 甕	口径(16.0) 器高(6.8)	①酸化焰 ②にぶい黄緑 ③白色粒・黒 色粒 ④口縁部～脚部上位1/5	外面：口縁部横ナデ。胴部窓位窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。積物跡ナデ。	No. 6	
11	須恵器 瓶	底径(11.0) 器高(3.6)	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④脚部1/4	外面：輪轍整形。胴部下位窓位窓ナメ。高 台貼付。	覆土一括、 D. 12号土坑	
12	須恵器 壺	底径(13.2) 器高(3.1)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④脚部1/3	外面：輪轍整形。自然釉付着。	No. 2	透し札あり。
13	須恵器 甕	器高(12.5)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④胴部破片	内面：輪轍整形後、指ナメ。下端に同心円 の当て具痕。	No. 9	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
14	鉄製品 鉗鉗	他先長：(3.65) 総先幅：1.2 重さ：(3.54) 基(茎) 部欠損。		覆土一括		

H-10号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③粘土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	灰釉陶器 盤皿	口径(13.5) 底径(7.5) 器高 2.2	①還元焰 ②粘土：灰白、釉：灰白 ③白色粒 ④1/8	外面：輪轍整形。底部回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。	覆土上層	
2	瓦 丸瓦	厚さ 1.8	①酸化焰 ②灰黄～にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 ④端部破片	背面：布目压痕。端面部取り。 凸面：横窓位窓ナデ。 端部：端ナデ。	覆土一括	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
3	鉄製品 釘	長さ 6.7 幅 0.6～1.9 厚さ 0.6 重さ 7.61 端部欠損。		覆土一括		

Tab. 12 [101] 出土遺物観察表（2）住居跡・土坑

H-11号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 环	口径 12.4 底径 6.5 器高 4.1 ④1/2	①酸化焰 ②灰白 ③白色粒・褐色粒	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。 内面：輪縁整形。	N-5貯蔵穴	
2	須恵器 碗	口径 6.1 器高 (2.8)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④底部	外面：輪縁整形。底部右回転糸切り。高台貼付時に回転ナギ。内面：輪縁整形。	上層N-4	
3	須恵器 碗	口径 (13.0) 底径 6.4 器高 4.3 ④口縁部~体部3/4欠損	①酸化焰 ②灰黄~淡黄 ③白色粒	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。高台貼付時に回転ナギ。 内面：輪縁整形。	N-3	
4	土師器 碗	口径 (18.6) 器高 (5.3)	①酸化焰 ②黒~黒褐 ③白色粒 ④1/3、高台部欠損	外面：口縁部横ナギ。体部位置ケズリ後、カマドN-1 上、下端横位置ナギ。 内面：口縁部~体部回転ナギ、底部ナギ。	カマドN-1	
5	羽釜	口径 (21.4) 器高 (13.4)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・雲母 ④口縁部~胸上部1/4	外面：輪縁整形。胸部継位置ケズリ。鰐貼付。カマドN-2		
6	羽釜	口径 (19.0) 器高 (9.9)	①還元焰 ②灰黄 ③白色粒 ④口縁部~胸上部1/5	外面：輪縁整形。胸部に棒状工具によるナギ痕あり。鰐貼付。内面：輪縁整形。	N-2	
7	羽釜	口径 (20.0) 器高 (12.4)	①酸化焰氣味 ②灰白~灰黄褐 ③白色粒 ④口縁部~胸上部1/8	外面：輪縁整形。胸部継位置ナギ。鰐貼付。 内面：輪縁整形。	N-1	

H-12号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 环	口径 (12.0) 器高 (3.1)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部~体部1/5	外面：口縁部横ナギ。体部上位ナギ後、謹ケズリ。 内面：口縁部~体部横ナギ。	覆土一括	
2	須恵器 蓋	器高 (3.3)	①還元焰 ②灰白~灰 ③白色粒 ④天井部1/4	外面：輪縁整形。天井部回転謹ケズリ。謹 宝持込み。 内面：輪縁整形。	N-1	

H-13号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 小型甕	口径 (11.5) 器高 (3.5)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・角閃石 ④口縁部~胸上部1/5	外面：口縁部横ナギ。胸部横位置ケズリ。 内面：口縁部横ナギ。胸部横位置ナギ。	覆土一括	

H-16号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 环	口径 (7.0) 器高 (1.8)	①酸化焰氣味 ②オリーブ黒~灰 ③白色粒	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。 内面：輪縁整形。	カマド	
2	須恵器 碗	口径 (18.0) 器高 (3.4)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④口縁部~体部1/8	外面：輪縁整形。体部下位回転謹ケズリ。 内面：輪縁整形。	覆土一括	
3	須恵器 杯盤	器高 (1.8)	①還元焰 ②灰白~灰 ③白色粒 ④天井部1/4	外面：輪縁整形。天井部回転謹ケズリ。謹 状構み。自然釉付着。内面：輪縁整形。	H-14住居跡 (6.2)	H-14住居跡 (6.2)

D-8号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 1.5	①酸化焰 ②砂 ③黑色粒・砂粒 ④端部破片	凹面：布附压痕。端部置ナギ。 凸面：繩引き。端部：置ナギ。	覆土一括	破損後に二 次被熱。

D-17号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 器	器高 (12.4)	①還元焰 ②暗灰~灰 ③白色粒 ④胴部下半1/3	外面：輪縁整形。高台貼付。自然釉付着。 内面：輪縁整形。	覆土一括	

* D-21号土坑は次頁

D-22号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 环	口径 (12.8) 底径 (5.5) 器高 3.7 ④1/3	①酸化焰氣味 ②暗灰~灰 ③黑色粒 ④胴部下半1/3	外面：輪縁整形。底部回転糸切り。 内面：輪縁整形。	覆土一括	

D-26号土坑

番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鉄製品 棒状	長さ：3.2 幅：0.5 厚さ 0.4 重さ：3.71 両端部欠損。		覆土一括	

Tab. 13 [101] 出土遺物観察表（3）土坑

D-21号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 瓢	口径 13.3 底径 6.3 器高 5.2	①酸化焰味 ②灰白～灰黄 ③白色粒 ④完形	外面：輪轂整形。底部回転条切り。高台貼付時に回転ナヂ。 内面：輪轂整形。	No. 2	内面に墨書きあり。
2	須恵器 瓢	口径 12.2 底径 5.3 器高 5.1	①酸化焰味 ②淡黄 ③白色粒・片岩 ④口縁部一部1/5欠損	外面：輪轂整形。底部回転条切り。高台貼付時に回転ナヂ。 内面：輪轂整形。	No. 1	
3	土師器 瓢	口径 14.1 底径 6.4 器高 6.4	①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒 ④高台部2/3欠損	外面：口縁部横ナヂ。体部上半ナヂ。下半横位窓ケズリ後横位窓ナヂ。底部回転条切り後ナヂ。高台部横ナヂ。 内面：口縁部～体部横・斜位窓ナヂ。底部窓ナヂ。高台部横ナヂ。	No. 3	
4	須恵器 煙	口径 (11.0) 底径 7.5 器高 20.6	①酸化焰味 ②灰黄 ③白色粒 ④口縁部2/3欠損	外面：輪轂形。胴部底位窓ケズリ後、下端横位窓ケズリ。底部ナヂ。 内面：輪轂形。頸部横位窓ナヂ。	No. 1	胴部中位に穿孔。0.9×0.7 cm。
番号	器種	法量(cm・g)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
5	鉄製品 釘	長さ 10.9 幅 0.7～0.9 厚さ 0.6～0.8 重さ 23.98	丸頭完形。		No. 4	
6	鉄製品 釘	長さ 9.1 幅 0.6～0.9 厚さ 0.45～0.5 重さ 8.72 上端部欠損。			No. 5	

D-31号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 瓢	口径 (23.4) 器高 (8.1)cm	①酸化焰 ②にぶい褐 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位1/3	外面：口縁部横ナヂ。胴部底位窓ケズリ。 内面：口縁部横ナヂ。胴部横位窓ナヂ。	No. 1, 覆土一括	

D-34号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 瓢	底径 7.3 器高 (2.4)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒	外面：輪轂形。底部回転条切り。高台貼付時に回転ナヂ。 内面：輪轂形。	No. 1	

D-37号土坑

番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	石器 多孔石	不整形な錐の両面に敲打とみられる凹穴が多数。やや黒然、風化頗者。完形。安山岩。 長さ 38.7 幅 26.2 厚さ 12.4 重さ 5600			抱石。

D-40号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器 深鉢	底径 (6.2) 器高 (5.3)	①酸化焰 ②にぶい褐～黒褐 ③白色粒	内外面に平滑なミガキ。底部網代底。	P 1	後期前葉～中葉

D-41号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器 深鉢		①酸化焰 ②灰黄褐～にぶい黄褐 ③白色粒		覆土上層	

D-50号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器 深鉢		①酸化焰 ②灰黄褐～にぶい黄褐 ③白色粒	頂部と協に5ヵ所の横円孔。中央部に1ヵ所の貫通円孔を伴う。	覆土一括	後期中葉～加曾利B 2式

D-52号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器 深鉢		①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒・チャート・片岩 ④突起部	波頂部に外側7ヵ所、内面1ヵ所の円孔を伴う突起を作り出す。口縁下に平行する2条の深い庇を横位窓文し、沈窓間に無筋1条の闊い庇を横位窓文。口縁下に「U」の字状短疣を施す。口縁内面に平行する横位单線2条。	覆土一括	後期中葉～加曾利B 2式
2	石器 同敲石	不整形な自然岩の表面に深い凹み、裏面に浅い凹み。上下端部に頗著な敲打痕。完形。安山岩。 長さ 11.5 幅 9.1 厚さ 6.1 重さ 533.9			No. 2	

Tab. 14 [101] 出土遺物観察表 (4)

BP-2号ピット

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 2.0	①還元焰 ②灰 ③白色粒・砂粒 ④鋸端部左側破片	凹面: 鮫ナデ。 凸面: 繩印き。 側面: 鮫ナデ。 狹端部: 鮫ナデ。	覆土一括	

W-5号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 碗	底径 (6.0) 器高 (2.3)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒 ④底部～高台部1/4	外面: 軸輪整形。底部回転赤切り。高台貼付時に回転ナデ。 内面: 軸輪整形。	No. 1	
2	縄輪陶器 輪	底径 (8.6) 器高 (1.5)	①還元焰 ②胎土: 深黄、釉: 晴オリー ③砂粒 ④高台部破片	外面: 軸輪整形。高台貼付。 内面: 軸輪整形。	No. 2	内外面施釉。 貼付無地。

遺構出土遺物

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	かわらけ	口径 (8.0) 底径 (4.7) 器高 1.4	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・褐色粒 ④2/3	外面: 軸輪整形。底部左側赤切り。 内面: 軸輪整形。	H 8住一括	
2	調文土器 深鉢		①酸化焰 ②灰黄～暗灰黄 ③白色粒・石英・砂粒多量 ④胴部破片	胴部に平行する横位沈線を3条以上施文後、横位区画内に単語「JL」構文を充填。その後、「し」の字状短沈線を横位沈線の間を繋ぐように施文。	X42964- Y71396 黒色粘質土	後期中期 加曾利B1式
3	調文土器 浅鉢		①酸化焰 ②にぶい橙～灰黄褐 ③白色粒・石英・チャート・片岩 ④口縁部破片	横位沈線。低隆帶上ナメキザミ。内面細曲部を沈線中に凹窓。	X42964- Y71396 黒色粘質土	後期中期 加曾利B式
4	調文土器 深鉢		①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③石英・砂粒 ④胴部破片	胴部に平行する複数条の横位沈線を施文後、破位「JL」の字状短沈線で区画。区画内を無隙に構文。内面平滑なミガキ。	X42964- Y71396 黒色粘質土	後期中期 加曾利B2式
5	調文土器 深鉢		①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・褐色粒・石英・片岩 ④口縁部～胴部破片	口唇外縁は幅広の押圧隆帯をもつ凹窓。口縁下にも幅位幅広隆帯を貼付。隆帯間に間隙2条。胴部は半截竹管状工具による継続沈線を不規則に施文。胴部外側横位ケズリ。内面は平滑なミガキ。	X42964- Y71396 黒色粘質土	後期中期 加曾利B2式
6	調文土器 浅鉢	口径 (25.0) 器高 (6.6)	①酸化焰 ②灰褐色～にぶい黄褐 ③白色粒・石英・砂粒 ④口縁部～胴部破片	外面は横ケズリ状のナデ。内面は平滑なミガキ。	H 13住No. 1 覆土一括、 X42964- Y71396 X960-T395 黒色粘質土	後期中期 加曾利B式か
番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴			出土層位	備考
7	石器 スクレイバー	剖右側縁に連続する微細剥離 黒色安山岩。 長さ 6.85 幅 4.1 厚さ 1.1 重さ 41.4			X42964- Y71396	
8	石器 スクレイバー	原縁面が残る断長剥片の両側縁に2次調整。微細剥離。端部欠損。凝灰岩。 長さ (8.63) 幅 4.0 厚さ 1.9 重さ 70.1			X42964- Y71400	C混黑色土
9	石器 R.F	不整形な断長剥片の周縁に微細剥離。黒色頁岩。 長さ 9.7 幅 3.63 厚さ 0.8 重さ 34.1			H 13住	
10	石器 凹石	不整形な自然縫の表面中央に敲打集中。安山岩。 長さ 9.2 幅 9.3 厚さ 5.5 重さ 326.2			H 13住	
11	石器 砾石	分割された扁平緩の表・裏面と剥離面に顯著な摩耗痕。底面に擦痕、線刻。 長さ 9.2 幅 13.6 厚さ 5.0 重さ 813.8			H 3住 S No. 1	

VIII 自然科学分析

元総社蒼海遺跡群（101）D-21号土坑出土の古代人骨

技研コンサル株式会社文化財研究所 楠崎修一郎

元総社蒼海遺跡群（101）は、群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市教育委員会による発掘調査が、2014（平成26）年12月から2015（平成27）年2月まで行われ、D-21号土坑より、古代の埋葬人骨が出土したので以下に報告する。

人骨の時期は、出土遺物より10世紀前半と推定されている。歯の計測は藤田の方法（藤田 1949）に従い、計測値の比較データは、中近世人は MATSUMURA【松村】（1995）を引用し、現代人は権田（1959）を引用した。古代人骨の出土例は全国的に非常に少なく、群馬県でも同様の傾向にあるため、残念ながらまとまった比較データは無い。なお、元総社蒼海遺跡群及びその周辺遺跡の出土人骨は、これまで、本報告者による報告があるので参考されたい（楠崎 2006a～f・楠崎 2008）。

1. 人骨の出土状況

人骨は、長軸（南北）254cm・短軸（東西）82cm～109cm・深さ約27cmの隅丸逆台形状の土坑から出土している。本土坑は調査区のほぼ中央に位置する。本土坑の南東隅部はB-5号掘立柱建物跡の柱穴（D-20号土坑）と重複し、本土坑が新しい。



写真2. D-21号土坑 人骨頭蓋骨検出状況〔南から撮影〕

写真1. D-21号土坑 人骨・遺物出土状況〔南から撮影〕

2. 人骨の出土部位

人骨の残存状態は悪く、頭蓋骨片・下頬骨片及び四肢骨片が出土している。なお、上下頬骨には歯が植立した状態で出土した。

3. 副葬品

副葬品は、須恵器碗3点・須恵器壺1点が出土している。その他、釘と推定される鉄製品2点も検出されており、木棺に使用された可能性が高い。

4. 被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の残存状態は非常に悪いが、頭蓋骨の出土位置から、頭位は北であると推定される。また、頭蓋骨は正位の状態であり、わずかに残存している四肢骨片も交叉するのではなく南北に平行した状態であるため、仰臥

伸展葬であると推定される。仰臥伸展葬であれば、顎面部分が上を向き土坑底部と平行になると考えがちだが、実際の発掘事例では、本事例のように経年変化で頭部は土坑底部と水平になる場合が多い。

5. 被葬者の個体数

出土歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

6. 被葬者の性別

頭蓋骨の厚さは、比較的薄く女性的である。出土歯の歯冠計測値は、計測値からは、上下歯共に、切歯から小白歯は比較的大きいものの、大白歯は小さい傾向が認められる。後の「8. 被葬者の古病理」で記載したように、本被葬者の上顎右II（第1切歯）には異常磨耗が認められ、^{むら}寧績み作業によると推定された。この作業は、通常、女性しか行わないため、総合的に被葬者の性別は女性であると推定される。

7. 被葬者の死亡年齢

出土永久歯の歯冠咬合面の咬耗度を観察すると、上顎左右C（犬歯）・上下左右M1（第1大臼歯）は、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。その他の歯は、エナメル質のみのマルティンの1度の状態である。被葬者の死亡年齢は、幅を持たせて、約20歳代後半から約30歳代であると推定される。

8. 被葬者の古病理

- (1) 歯石：出土歯には、歯石の付着は認められなかった。
- (2) 鱗歯：出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる鱗歯は認められなかった。
- (3) 上顎左M3（第3大臼歯）の退化形：本個体の上顎M3（第3大臼歯）は、萌出しておらず、上顎骨内に存在した。残念ながら上顎右M3は確認できなかったが、同様の状態かあるいは先天性欠如であると推定される。この上顎左M3は退化形であり、矮小歯である。
- (4) 水平智歯：出土歯のうち、下顎左右M3（第3大臼歯）は垂直に萌出するのではなく、歯冠部が左右M2（第2大臼歯）の遠心部に向けて水平に萌出している状態の水平智歯である。
- (5) 上顎切歯の異常磨耗：上顎右II（第1切歯）の咬合面は、真ん中が凹んだ状態である。これは恐らく、



写真3. 下顎骨左右M3（第3大臼歯）の水平智歯



写真4. 上下顎歯の前面観

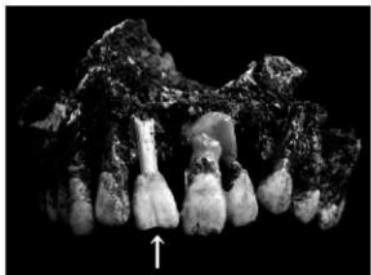


写真5. 上顎右I1（第1切歯）の異常磨耗

苧麻（カラムシ、アサ）の繊維を糸に績む「苧績み」の作業によると推定される。元聖マリアンナ医科大学の解剖学者・森本岩太郎は、1995年に論文を発表し、神奈川県・山梨県・長野県の7遺跡から出土した古代（4体）から中世（3体）にかけての女性人骨7体にこの異常磨耗を認めている（森本 1995）。なお、森本（1995）は、「摩耗」の用語を使用しているが、ここでは人為的に摩耗したという意味で「磨耗」を使用することとする。森本（1995）によると、上顎左右のII（第1切歯）に多く認められ、I2（第2切歯）にも認められる場合が多い。左右では、右側に認められる場合が多いという。本個体の場合、右II（第1切歯）には認められるが、左IIには認められない。被葬者の死亡年齢が若いために、あまり異常磨耗が進まなかったのかもしれない。

9. 埋葬状態の考察

群馬県内における古代の墓制は、津金沢吉茂によるまとめ（津金沢 1991）や、東日本埋蔵文化財研究会によりまとめられている（東日本埋蔵文化財研究会編 1995）。また、本報告者等による群馬県出土人骨のデータベースでは、縄文時代から近世までまとめられている（崎崎・石守 2005）。元総社蒼海遺跡群で出土した古代人骨の埋葬状態を、表1に示した。これらには、人骨が検出されているものと検出されていないものとが混在しているが、検出されたものも鑑定は行われていない。大きな傾向として、墓坑の長軸方向が南北（約2m前後）で形状が長方形か楕円形であり、埋葬形態は頭位を北にした仰臥伸展位で埋葬されたと推定される。副葬品として、須恵器壺や須恵器塊が基本となっており、津金沢（1991）の論考と同様の傾向にある。

表1. 元総社蒼海遺跡群の古代墓坑まとめ

遺跡名	遺構名	時期	土坑形状	長軸方向	長幅	短幅	深さ	副葬品
元総社蒼海遺跡群（101）	D-21号土坑	10C前半	楕丸長方型	南北	254cm	82~109cm	27cm	須恵器壺・須恵器塊
1区D-12号土坑	10C前半	長楕円形	南北	176cm	79cm	31cm	須恵器壺・灰陶質器皿	
凡和社蒼海遺跡群（37）	1区D-30号土坑	10C前半	長楕円形	南北	150cm	72cm	33cm	須恵器壺・須恵器壺・灰陶質器皿・口玉
	1区D-35号土坑	10C前半	楕丸長方型	南北	183cm	156cm	46cm	須恵器壺・須恵器壺・絆輪形器皿・羽釜
元総社蒼海遺跡群（39）	D-35号土坑	10C代	楕丸長方型	南北	186cm	93cm	37cm	須恵器壺・須恵器壺
	D-42号土坑	10C代	楕丸長方型	南北	188cm	70cm	55cm	須恵器壺・須恵器壺・罐

元総社蒼海遺跡群の周辺遺跡である、元総社小見内Ⅲ遺跡の古代（9世紀）土坑墓では、1基であるが、仰臥伸展葬が認められている（崎崎 2006c）。また、元総社蒼海遺跡群（5）で検出された中世土坑墓60基の内、火葬跡2基を除く58基中埋葬状態が確認できる44基すべてが仰臥屈葬あるいは横臥（側臥）屈葬である（崎崎 2006a）。元総社蒼海遺跡群（5）は14世紀後半～15世紀後半の中世に比定されている。なお、周辺遺跡における近世の埋葬状態は、坐葬が多い。したがって、元総社蒼海遺跡群及びその周辺遺跡においては、9世紀～10世紀は仰臥伸展葬が主であり、14世紀～15世紀には屈葬が主となり、17世紀以後は坐葬が主となる傾向が認められる。但し、これらの時代の空白域については、さらなる検討が必要である。

まとめ

元総社蒼海遺跡群（101）のD-21号土坑から、10世紀前半の古代人骨1体が検出された。被葬者は、約20歳代後半から30歳代女性で、仰臥伸展葬で埋葬されたと推定された。古病理として、上顎左M3（第3大臼歯）に矮小の退化形が認められ、下顎左右M3（第3大臼歯）に水平智歯が認められた。また、上顎右II（第1切歯）には異常磨耗が認められ、群馬県の周辺地域の古代から中世の女性に特有に認められる、苧麻の繊維を歯で糸に績む「苧績み」の作業に伴うものと推定された。

謝辞

本出土人骨を報告する機会を与えていただき、考古学的情報を与えていただいた、前橋市教育委員会・株式会社シン技術コンサル・有限会社毛野考古学研究所に感謝いたします。

参考文献 [著者名の ABC 順]

表2. 元総社蒼海遺跡群(101)出土人骨術冠計測値及び比較												
遺構	計測 項目	元総社蒼海 D=21号土坑			中世時代人*			江戸時代人*			現代人**	
		右	左	%	♀	♂	%	♀	♂	%	抽出	1959
上	I-1	MHD	8.5	8.5	8.48	8.29	8.78	8.36	8.67	8.53		
	I-1	B-L	7.3	7.6	7.29	7.90	7.52	7.06	7.35	7.28		
	I-2	MHD	7.0	7.8	6.98	6.87	7.16	6.97	7.13	7.05		
	I-2	B-L	6.3	6.7	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51		
	I-3	MHD	8.2	8.2	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71		
	I-3	B-L	8.4	8.4	8.50	7.94	8.66	8.03	8.32	8.13		
	I-4	MHD	7.3	7.8	7.23	7.02	7.23	7.23	7.38	7.27		
	I-4	B-L	9.2	9.2	8.46	8.03	9.67	9.33	9.59	9.43		
	I-5	MHD	6.9	6.9	6.87	6.69	7.09	6.82	7.02	6.94		
	I-5	B-L	9.3	9.3	8.38	8.80	9.55	8.29	9.41	9.23		
中	M1	MHD	9.8	9.8	11.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47		
	M1	B-L	11.0	11.0	11.81	11.20	11.87	11.39	11.75	11.49		
	M2	MHD	9.4	10.0	8.65	8.42	9.88	9.48	9.91	9.74		
	M2	B-L	11.5	10.9	11.72	11.19	12.09	11.52	11.85	11.31		
	M3	MHD	失人骨	失人骨	—	—	—	—	—	—	6.94	8.86
	M3	B-L	失人骨	失人骨	—	—	—	—	—	—	10.79	10.59
	I-1	MHD	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47				
	I-1	B-L	5.76	5.61	5.76	5.67	5.88	5.77				
	I-2	MHD	6.04	5.76	6.09	5.97	6.20	6.11				
	I-2	B-L	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.20				
下	C	MHD	7.3	7.3	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68		
	C	B-L	8.0	7.8	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.59		
	P-1	MHD	7.4	7.3	7.07	6.96	7.22	7.05	7.31	7.19		
	P-1	B-L	8.4	8.2	8.10	7.72	8.24	7.89	8.06	7.77		
	P-2	MHD	7.5	7.3	7.12	7.07	7.45	7.12	7.42	7.29		
	P-2	B-L	8.4	8.2	8.44	8.06	8.68	8.20	8.53	8.26		
	M1	MHD	10.8	10.9	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.29		
	M1	B-L	8.4	8.4	8.11	7.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55	
	M2	MHD	10.8	10.9	11.06	10.65	11.29	10.78	11.30	10.89		
	M2	B-L	10.3	10.3	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.26		
下構	M3	MHD	12.1	12.0	—	—	—	—	—	—	10.90	10.65
	M3	B-L	10.8	10.8	—	—	—	—	—	—	10.28	10.02

註1. 計測値の単位はすべて「mm」である。

註2. 鹿編は、I-1 (第1切歯)・I-2 (第2切歯)・C (犬歯)・

P-1 (第1臼歯)・P-2 (第2臼歯)・M1 (第1大臼歯)・M2 (第2大臼歯)・M3 (第3大臼歯)を示す。

註3. 計測項目はMD (歯冠近遠心径)・B-L (歯冠唇舌径)を意味する。

註4. 「破損」とは、歯冠が破損しており、計測不能であることを示す。

註5. 「欠損」とは、出上しなかったことを示す。

註6. 「先天性欠歎」とは、先天的に萌出しなかったことを示す。

註7. 「＊」は、MATSUMURA (1995) より引用。

なお、MATSUMURA (1995) には、第3大臼歯のデータはない。

註8. 「＊＊」は、樺田 (1959) より引用。

pp.33-61

崎崎修一郎 2006b 「元総社蒼海遺跡群(5)出土人骨・遺構外縁」『元総社蒼海遺跡群(5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.62-63

崎崎修一郎 2006c 「元総社小見内Ⅲ遺跡出土人骨」『元総社蒼海遺跡群(5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.64-80

崎崎修一郎 2006d 「元総社小見内Ⅲ遺跡出土火葬人骨」『元総社蒼海遺跡群(5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.81-85

崎崎修一郎 2006e 「元総社小見Ⅲ遺跡出土人骨」『元総社蒼海遺跡群(5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.33-61

崎崎修一郎 2006f 「元総社草作Ⅴ遺跡出土人骨」『元総社蒼海遺跡群(5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、p.89

崎崎修一郎 2006g 「元総社小見内Ⅹ遺跡出土人骨」『元総社蒼海遺跡群(5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.90-92

崎崎修一郎 2008 「付編 元総社蒼海遺跡群(15)出土人骨」『元総社蒼海遺跡群(15)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.61-62

崎崎修一郎・石守 晃 2005 「群馬県出土人骨データベース：(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団編」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』23: 99-109

津金沢吉茂 1991 「第7節、信仰の遺産・I. 古代の墓制」『群馬県史通史編2. 原始古代2』(群馬県史編さん委員会)、群馬県、pp.746-765

日沖剛史・福田貴之 2012 『元総社蒼海遺跡群(37)』 前橋市教育委員会

伊藤順一・福田貴之 2013 『元総社蒼海遺跡群(39)』 前橋市教育委員会

IX まとめ

元総社蒼海遺跡群（101）

縄文時代後期中葉を主体時期とする土坑を13基確認し、大半は墓坑の可能性が高い。土坑群は埋没谷上に構築され、少なくとも南側に集落はない。後期には環状集落住居帯の外縁部に墓坑群が形成される事例もあり、あるいは集落外の墓域の可能性もある。詳述は避けるが、縄文時代中～後期の環状集落の場合、中央墓群・豊穴住居帯（廐屋墓）以外に、集落外縁廐屋帶にまで及ぶ墓域の重層化現象が存在していた可能性がある。遺物量も少なく、黒色土中の遺構確認は非常に困難だが、今後の調査では十分に注意する必要があろう。

7世紀後半の大型豊穴住居・H6住は、南北棟の6本主柱構造で本来の深さは90～100cmを測り、南壁には出入口張出が伴う。遺物量は少なく、特殊な現象は見いだせない。元総社（9）（10）でも該期の大型住居が複数軒調査されているが、全て略正方形・4本主柱構造であり、深度は最大40cm程度である。よって、H6住の構造には、①深い豊穴からの出入りを容易にするための張出 ②上屋自体が相当重く堅牢で、深い豊穴内で支えるための6本主柱 という理由が想定される。古代には南北住居帯や土坑群の間に遺構希薄地帯が存在し、S A1柱穴列やW5溝などが耕地や敷地境界として機能していたものと推測する。D21土坑から検出された女性人骨に特徴的な上顎切歯磨耗が確認できたことは、県内の副葬品を伴う平安期の土塙墓被葬者像やその階層について、新たな視角を提供するだろう。

元総社蒼海遺跡群（100）

元総社（9）（10）の隣接地であるが、遺構数は対照的に少ない。ただし、推定国府北限溝と7世紀後半～11世紀代集落との間には10m程度の空白地帯が存在し、本調査区も遺構希薄地帯に該当する可能性がある。また、本遺跡では10世紀代と推測される小規模な掘立柱建物が複数確認されているが、元総社（9）（10）では認められない。さて、元総社（9）（10）では、10・11世紀代の集落が大溝と並行するように帯状に展開し、特に11世紀代には南・北住居帯の間に幅6mの空白地帯が明瞭に認識できる。調査範囲に左右される可能性はあるものの、同様の事例は元総社（39）にもあり、10世紀代の住居分布が帯状・列状に展開する。また、元総社小見三遺跡では7・8世紀代の住居が群在するのに対し、9～11世紀代の豊穴住居が列状に分布している。大溝のような明確な規制基準はないが、元総社（101）の古代集落にも、集落内の空間利用に一定の規制を働かせるような、同様の現象が存在している可能性がある。



Fig.45 元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）（100）古代遺構全体図

写 真 図 版



元總社着海遺跡群（101） 南東から櫻名山を望む



元總社着海遺跡群（100） 調文時代晩期の石器群



元總社蒼海遺跡群（100）空撮全景 横名山方面を望む



元總社蒼海遺跡群（100）空撮全景（真上から）



H-1号住居跡・W-10号構 全景（東から）



H-6号住居跡 全景（南西から）



H-7・9号住居跡、Hr-FA 残存範囲 全景（西から）



H-7号住居跡 遺物出土状況（南東から）



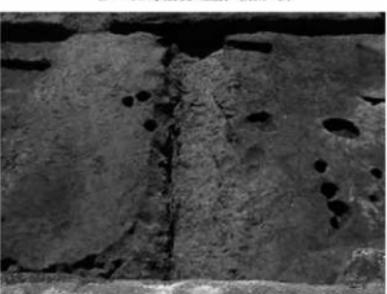
W-4号溝、B-1~3号掘立柱建物跡 全景（西から）



D-16号土坑 全景（東から）



D-31号土坑 全景（北西から）



W-2号溝・H-2号住居跡 全景（北から）



W-3号溝 全景（北から）



W-3号溝 土層断面（南西から）



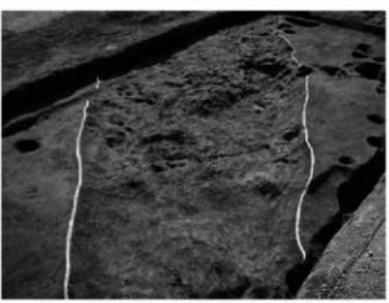
S F - 1 号道路状遺構、W - 5・8 号溝 全景（北から）



W - 4・11 号溝、西端遺構群 全景（西から）



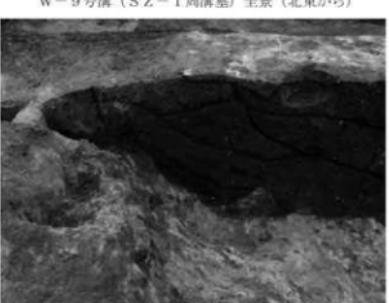
W - 9 号溝（S Z - 1 周溝塁）全景（南から）



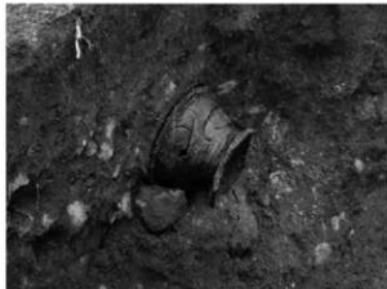
W - 9 号溝（S Z - 1 周溝塁）全景（北東から）



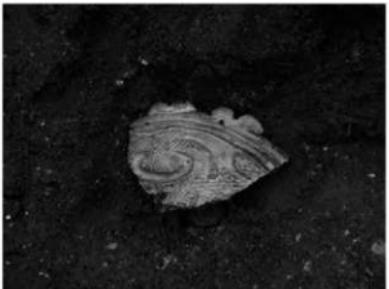
W - 13 号溝（S Z - 1 周溝塁）I - I' 土層断面（南東から）



W - 13 号溝 I - I' 土層断面 墓際堆積土（南から）



遺構外 - 2 (W - 13 号溝) 出土状況（北東から）



遺構外 - 4 (W - 13 号溝) 出土状況（北から）

P L . 4 (100)

H-2号住居跡



H2住-1

H-6号住居跡



H6住-1



H6住-2



H2住-2



H6住-4



H6住-5



H6住-3

H-7号住居跡



H7住-1



H7住-2



H7住-3



H7住-4



H7住-5



H7住-6



H7住-7



H7住-8



H7住-9



H7住-10



H7住-11



H7住-12



H7住-13



H7住-14



H7住-15

P-12号ピット



P12ピット-1



P12ピット-2

H-9号住居跡



—



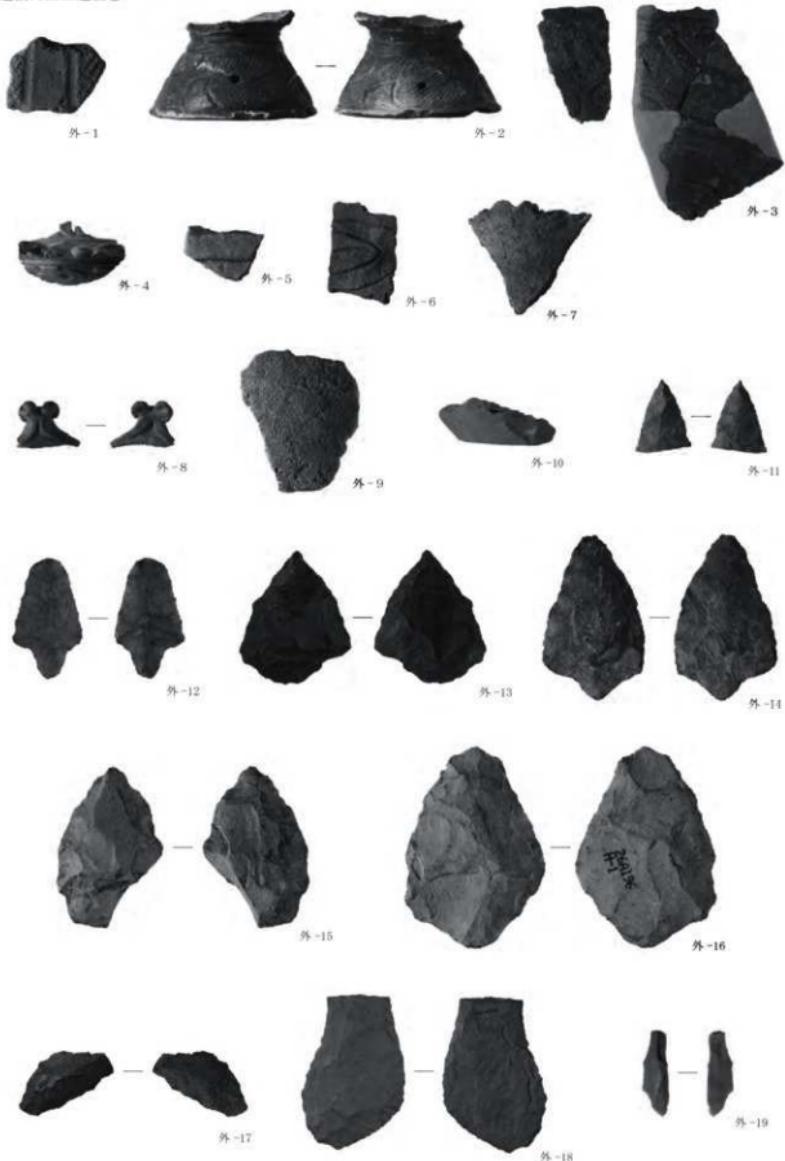
H9住-1

[100] 出土遺物 (1)



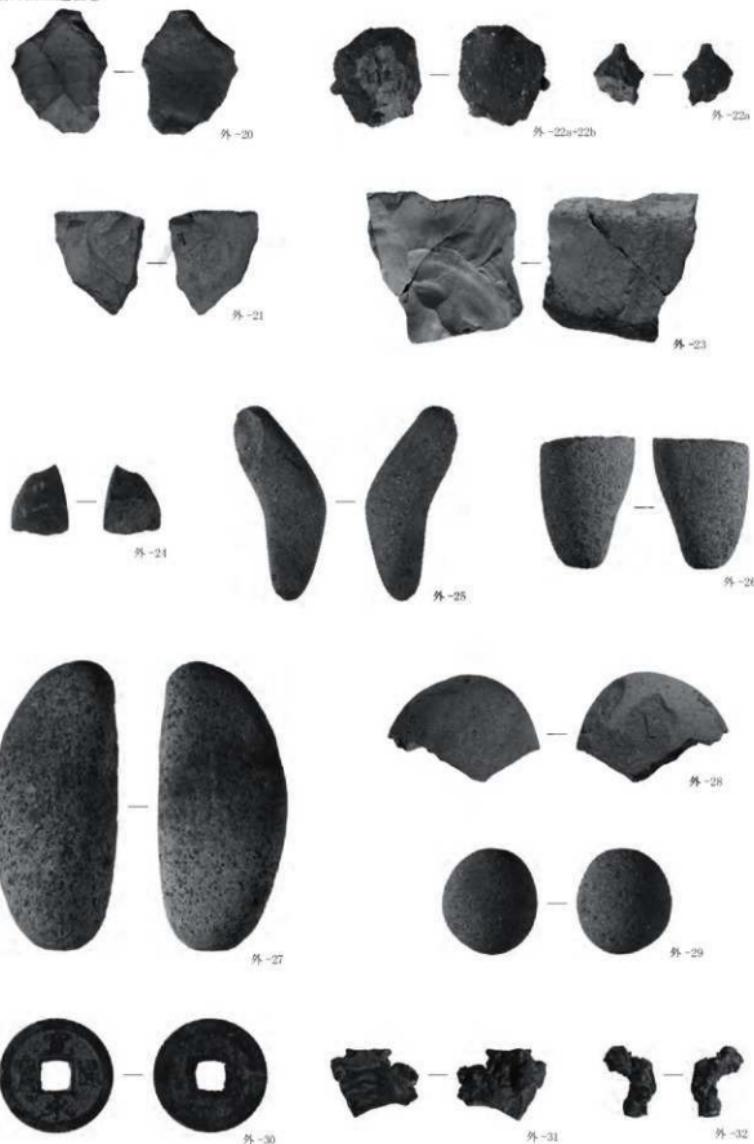
[100] 出土遺物 (2)

遺構外出土遺物①



[100] 出土遺物 (3)

造模外出土遺物②



[100] 出土遺物 (4)



元總社着海遺跡群 (101) 空撮全景 (東から)



H-1号住居跡 全景 (西から)



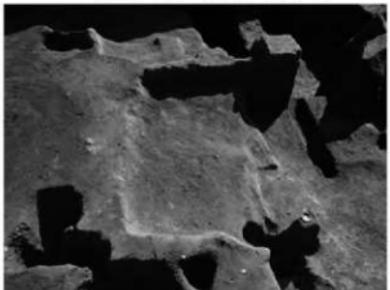
H-6号住居跡 全景 (西から)



H-6号住居跡 出入口張出部 (北東から)



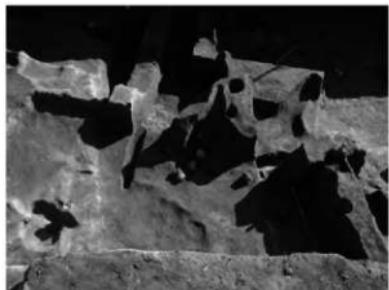
H-7号住居跡・H-17号住居跡カマド 全景 (西から)



H-15号住居跡 全景 (西から)



H-16号住居跡 全景 (南から)



H-11・12号住居跡 全景（西から）



H-12号住居跡カマド 全景（西から）



H-13号住居跡 全景（西から）



T-1号竖穴状遺構 全景（西から）



B-5号掘立柱建物跡 全景（北から）



中世土坑群（中央D-10土）・ピット群 全景（南から）



縄文遺構群 全景（北から）



D-40号土坑 全景・遺物出土状況（南東から）



D - 21 号土坑 全景・人骨検出状況（南東から）



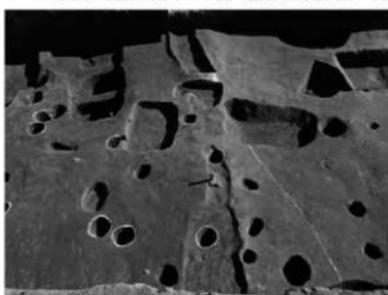
D - 21 号土坑 頭蓋骨近景（東から）



D - 21 号土坑 全景(人骨取上げ後)・遺物出土状況(東から)



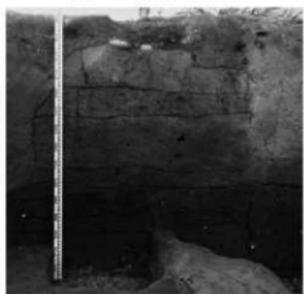
D - 21 号土坑 副葬品近景（北東から）



W - 1 号溝、中世遺構群 全景（西から）



W - 2・3 号溝 全景（東から）



基本層序 A (東から)



基本層序 B (東から)

H-1号住居跡



H-3号住居跡



H-10号住居跡

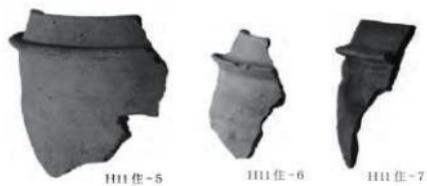


H-11号住居跡①



P L . 12 (101)

H-11号住居跡②



H-12号住居跡



H-13号住居跡



H-16号住居跡



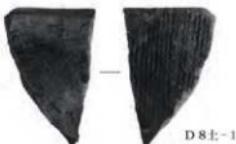
B P -2号ピット



D-17号土坑



D-8号土坑



D-21号土坑



D-22 号土坑



D22 土 - 1

D-26 号土坑



D26 土 - 1

D-31 号土坑



D31 土 - 1

D-34 号土坑



D34 土 - 1

D-37 号土坑



D37 土 - 1



D-40 号土坑



D40 土 - 1

D-41 号土坑



D41 土 - 1

D-50 号土坑



D50 土 - 1

D-52 号土坑



—



D52 土 - 1

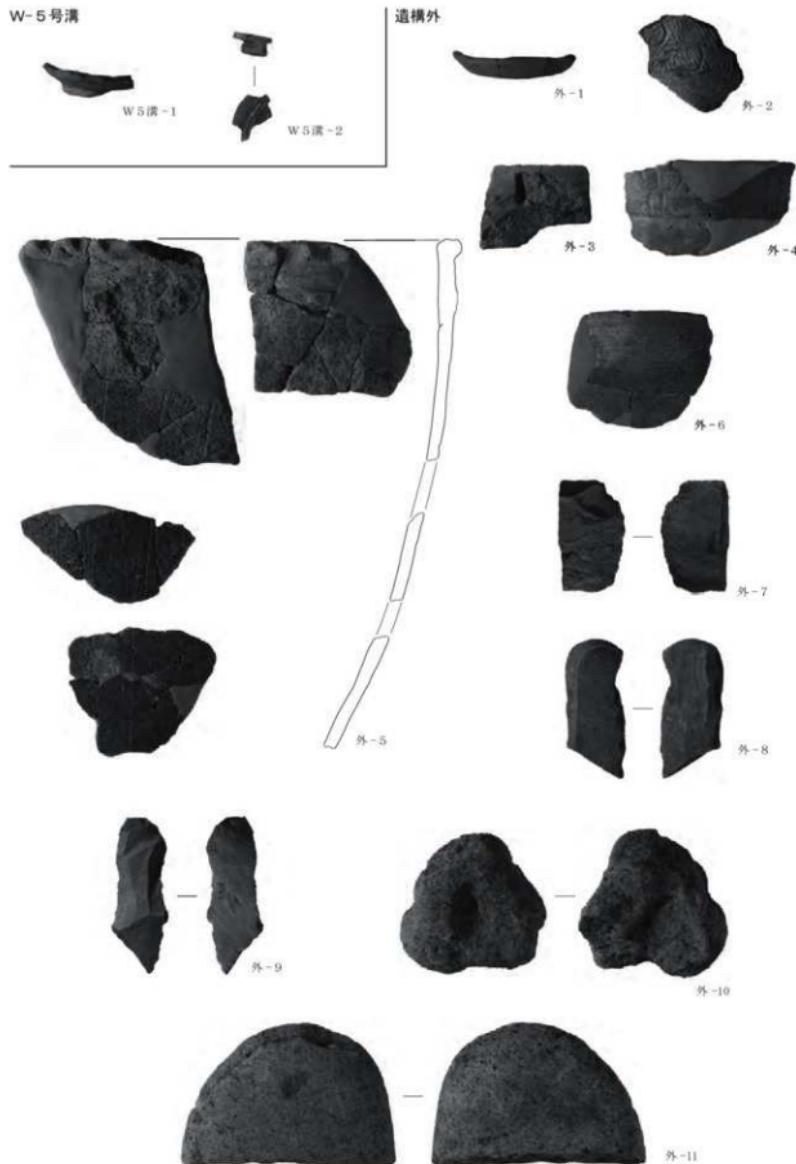


—



D52 土 - 2

P L . 14 (101)



〔101〕出土遺物 (4)

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミセキグン (100)・(101)
書名	元総社蒼海遺跡群 (100)・(101)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	藤坂和延 福嶋正史
編集機関	株式会社 シン技術コンサル 〒 370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井 311-1 TEL. 0270-65-2777
発行機関	前橋市教育委員会
発行年月日	西暦 2016 (平成 28) 年 3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)			
元総社蒼海 遺跡群 (100)	群馬県前橋市 総社町總社 3589、 3583、 3587-1	0142	26 A 196	36° 139° 23' 2' 30" 16"	20141213 ~ 20150323	274	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区画 整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
元総社蒼海 遺跡群 (100)	集落跡 屋敷跡 墓域	縄文 古墳 奈良 平安 中世 近世	住居跡 掘立柱建物跡 柱穴列 ピット 土坑 溝 周溝墓	6 軒 7 棟以上 2 条 約 170 基 33 基 13 条(周溝墓含む) 1 基	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 陶器、石器 鉄製品	縄文晚期大洞 B 2 ~ A 式期 の遺物。推定古墳前期の方 形周溝墓 1 基以上。S Z - 1 は覆土上層に H-Fa。中 世屋敷は 15 世紀代か。元 総社蒼海遺跡群 (7) (9) (10) の南側隣接地。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)			
元総社蒼海 遺跡群 (101)	群馬県前橋市 元総社町 1387-1、1387-2	0142	26 A 197	36° 139° 23' 1' 27" 52"	20141217 ~ 20150209	227.5	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区画 整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
元総社蒼海 遺跡群 (101)	集落跡 屋敷跡 墓地 墓域	縄文 古墳 奈良 平安 中世、近世 近代	住居跡 堅穴造構 掘立柱建物跡 柱穴列 柱穴列 ピット 土坑 井戸	13 軒 2 基 5 棟以上 3 条 約 150 基 50 基(墓坑 1 基) 1 基	縄文土器 土師器 須恵器 墨書き土器 灰釉陶器 陶器、石器 鉄製品	縄文後期の墓坑群。7 世紀後半 に出入口張出を伴う 6 本主柱構 造の大型堅穴住居。10 世紀前 半に碗(墨書き「寸」)・小型壺を 副葬した成人女性の墓坑。7 ~ 8 世紀に柱穴列による区画。中 世屋敷地は戦国期より古い。

元総社蒼海遺跡群 (100)・(101)

—前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 28 年 3 月 24 日印刷

平成 28 年 3 月 25 日発行

編集／株式会社 シン技術コンサル

発行／前橋市教育委員会

前橋市總社町 3 丁目 11-4

TEL 027-280-6511

印刷／朝日印刷工業株式会社